ニハ「消防機械又ハ郵便車通行ノトキハ其ノ進行ニ障碍ヲ與ヘサル樣除行シ又ハ運轉ヲ停止スル事」トアリ右京都府令ハ府市消防懇談會ノ席上屢々議題トセラレ電車關係者ノ熟知スルトコロナリ故ニ被告人カ電車ノ停車セルヲ見定メ其ノ電車ハ右取締規則ニ基キ發車セサルモノナリト確信スル充分ノ證據アリテ右交叉點ヲ橫斷セントシタルモノニシテ其ノ衝突セントシタル際ニモ適當ナル處置ヲ採リタルコトハ容易ニ窺フコトヲ得ルナリ四、電車側ニ過失アルカ爲メニ被告人ニ過失ナシト稱スルコトヲ得サルモ原裁判所カ本件ノ如ク被告人ノ操縱スル自動車カ異樣ナル警笛及警鐘ヲ鳴ラシ且ツ普通ノ自動車ヨリモ以上ニ速力ヲ出ササルヘカラサル自動車ナルコトニ特別ノ考慮ヲ爲サス更ニ道路取締令及電氣鐵道取締規則ト被告人ノ過失トノ關係ニ付キ何等ノ考慮ヲ與ヘサルノミナラス證據調ノ請求ニ對シテモ證人トシテ電車信號手畑重兵衛ノ訊問ヲ爲シタルノミニシテ其他ノ證據調請求中被告人ノ過失ノ有無ヲ尤モ明確ニシ得ヘキ實地檢證ノ請求ヲ却下シテ被告人ノ過失ヲ認定シタリ五、右ノ事情ヲ綜合スルトキハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルモノト云ハサルヘカラスト云フニアリ記錄ヲ調査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ム（大審院一刑、六年(れ)六六九號、業務上過失傷害被告事件、六年七月二日決定、大審院裁判例六卷刑事四頁）

●自動車運轉手ノ業務上過失傷害罪ト重大ナル事實誤認

荻本光子カ地面ニ俯向ニ倒レ其ノ顏面ニ治療約一週間ヲ要スル擦過性打撲傷ヲ被リタルハ被告人カ操縱シタル自動車ニ基因シタルモノナリヤ將タ光子カ右自動車ニ關係ナク地面ニ倒レテ右負傷ヲ被リタルモノナリヤ行爲ト結果トノ間ニ因果關係ノ存在ヲ肯定スルニ十分ナラサル憾アルノミナラス記錄ヲ精査スルニ本件縣道ハ原判決ノ如ク幅員五、六五メートルアリトセハ被告人カ其際道路ノ中央ヲ進行シテ光子ノ倒レタル場所ヲ避クルコト能ハサリシヤ若シ當時ノ狀況ニシテ到底避クルコト不能ナリシトセハ本件事故ハ不可抗力ニ依リ發生シタルモノト謂ハサルヲ得ス若シ又被告人カ他ニ善處スヘキ機宜ノ處置ヲ講スコトヲ怠リタルモノトセハ其ノ責被告人ニ在リト謂フヘク以上何レニスルモ更ニ事實ノ確定ヲ俟ツニ非サレハ本件過失傷害ノ責任ヲ認メ難ク原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルモノト認ム（大審院三刑、六年(れ)一二一一號、業務上過失傷害被告事件、六年一一月二一日決定、大審院裁判例六卷刑事一九頁）

●自動車運轉手ノ業務上過失傷害罪ト重大ナル事實誤認

被告人カ第一審以來辯解シタル所ハ被告人カ事故現場ニ差蒐リタル際ニ於テハソノ進路前方ニ電車軌道工事ノ箇所アリ此ノ爲メ車道ノ狹隘ヲ來シ急速ナル進行ヲ爲スニ便ナラサリシノミナラス被告人ノ前方ニハ數臺ノ車輛相次テ先行シ居リタル爲メ被告人ノ自動車ハ時速七、八哩乃至十哩ノ徐行狀態ニ在リタルカ交叉點ヲ過キタル頃二、三間先ノ車ノ方（南行電車安全地帶ノ南端方面）ヨリ西南ニ向ヒテ疾走シ來ル被害自轉車ヲ認メ急停車ノ處置ヲ執リ二、三尺ニシテ停止シ得タルモ被害自轉車ハ自動車ノ右側フエンダーニ當リ倒レタルモノナリト云フニ在ルモノニシテ此ノ點ニ關シ辯護人ハ第一審ニ於テ證人加藤巖、清水義雄等ノ訊問並ニ現場ノ檢證ヲ得タルモ第一審判決ハ不幸ニシテ大體略式命令ノ說示ヲ繼承シ被告人ハ當時時速十七、八哩ノ高速度ヲ以テ進行シタリシモノナルコト及事故現場ニ於テ被告人ハ約十間ノ手前ニ於テ加藤巖ノ自轉車ヲ認メ乍ラ被告人ハ自轉車ノ橫斷前ソノ前方ヲ通過シ得ヘシト確信シテ依然同一時速ヲ以テ進行ヲ繼續シタル結果本件事故ヲ惹起スルニ至リタルモノナル旨判示セラレタル事實ナリトス然ルニ被告人ハ右第一審判示ニ服セスシテ控訴ヲ爲シタル結果原審ハ再度證人清水義雄

加藤嚴等ノ訊問相成リタル結果前叙ノ如ク自動車ノ速力ノ點ハ元ヨリソノ他事實認定ノ全般ニ渉リ第一審判決ノ所見ト全然ソノ軌ヲ異ニスルノ判示ヲ爲スニ至リタルモノニシテ以テ本件事故ノ眞相カ決シテ一目瞭然容疑ノ餘地ナキモノニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシト思料スルモノナリ然ルニ原判決ノ判示ニ就テハ本件上告理由第一、二點記述ノ如クソノ判斷ヲ肯定スヘキ資料ヲ缺クモノト觀察セラルルノミナラス本件記錄全部ヲ通シテ詳細之レヲ査閱スルトキハ被告人ノ過失ヲ斷センカ爲メニハ幾多不合理不可解ノ點ヲ發見スルコト當辯護人カ昭和六年二月二十四日附ヲ以テ第一審裁判所ニ提出セル上申書記載ノ如クニシテ本件其ノ眞相ハ結局被告人ニ過失ノ責ヲ歸スヘキ餘地存セサル事案ニ外ナラサルモノト確信スルモノナリ即原判決ノ判示ニ表ハレタル處ハ自動車ニ依ル被害事故ニ就テハソノ事由ノ如何ヲ問ハスシテ强イテ自動車運轉手ニ責任ヲ歸セシメントスルノ傾向ニ在ルニ非ルナキヤノ感ヲ懷カシムルモノニシテ斯ノ如キハ現代ノ所產タル高速度交通機關ノ發達ヲ阻害シソノ使命ヲ妨クル所以ノ理ナリト思料セラルルモノナリ即原判決ノ事實認定ハ著シク謬見ニ陷リタルノ感アルモノナルヲ以テ何卒原判決ヲ破毀セラレムコトヲ希フモノニ有之候ト云フニ在リ仍テ記錄ヲ按スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑ノニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルモノト認ムルニ足ル　（大審院三刑、六年（れ）七一九號、業務上過失致傷被告事件、六年九月一九日決定、大審院裁判例六卷刑事二四頁）

●二人ニテ合有受託ヲ爲シタル場合一人ノ横領ト重大ナル事實誤認

上告人茂夫ハ假ニ小田賢三ノ信託行爲ニ定メラレタル目的ニ背キ幸一郎ノ後見人及親族會ノ同意無クシテ受託セル株式ヲ擅ニ自己ノ債務ノ擔保ニ供シタル事實アリトスルモ其ノ所爲ハ背任罪ヲ構成スルコトアリヤ否ハ別トシテ横領罪ヲ構成スヘキモノニアラス然モ該株式ニ對シテハ

何レモ之ヲ處分シ得ヘキ相受託者古賀アヤメノ白紙委任狀ノ添付シアリタルモノニシテ此ノ點ニ關シ何等ノ說明ヲモ加ヘス漫然横領罪トシテ處斷シタルハ明カニ證據ノ解釋ヲ誤リ事實ヲ誤認シ且審理不盡ノ違法アルモノト謂ハサルヘカラスト云フニアリ仍テ記錄ヲ精査シ押收ニ係ル所論ノ遺言書ニ徵スルトキハ原判決判示（イ）ノ認定ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルニヨリ又判示（ロ）（ハ）ノ事實ニ付テハ（イ）ノ事實ト併合罪ノ關係ニアルモノトシテ處斷セラレタルモノナルヲ以テ破毀スヘキモノトス　（大審院二刑、七年（れ）四七〇號、横領被告事件、七年六月三〇日決定、大審院裁判例六卷刑事六二頁）

●背任罪ト重大ナル事實誤認

若シ本件ノ問題ト相成リタル株券ノ價格ノ點ト株主總會決議實理ノ爲メ取締役供託株ト爲シタル關係ノ二點ノミヲ常識的ニ觀察スルモ被告人カ自己又第三者ノ利益ヲ圖ル爲メ又會社ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタルモノニアラサルコトヲ看取シ得ラルヘシ本件見合預リ株百九十株中ヨリ五十株ヲ取締役ノ供託株ト爲スモ全然久松ニ返還シ會社カ占有ヲ失フモノニアラサルヲ以テ原判決ニ「所謂該株券ヲ久松ニ返還セサルコトニ因リ債務ノ履行ヲ確保シ得ル」關係ニハ變更ナキヲ以テ會社ニ何等現實ノ損害ナシ從テ被告人カ會社ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ爲シタルモノニアラサルヤ明カナリ要スルニ被告人カ斯ル便宜ノ取扱ヲ爲シ久松ヲ取締役ニ就任セシメタル所以ノモノハ株主總會ノ決議ヲ故障ナク實現セシメン爲メニ他ナラス殊ニ當時久松ヲ取締役ニ選任シタルハ久松ニ於テ固辭シタルモ會社ノ都合上取締役ヲ懇請セシモノナリ斯ル場合前述ノ如キ取扱ヲ爲シ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議實現ニ故障ナカラシメタルコトカ果シテ任務ニ背キタルモノナリヤ久松ノ持株ハ會社カ見合預リトシテ保管中ノモノナルニ付キ其

ノ株券ノ價格ニ相當スヘキ金十圓也ヲ支拂フニアラサレハ取締役ノ供託株トシテ認ムル能ハスト爲スコトカ會社ノ事務トシテ當然ナルモノナリヤ否ヤハ人々ニ依リ之カ見解ヲ異ニスルモノアリトスルモ其執レカ會社ノ爲メ最善ノ方法ナリヤ速斷シ難キ場合其執レノ方法ニ出ツルモ其行爲ハ刑法第二百四十七條ニ該當スヘキモノニアラサルヤ明カナリト云フニ在リ仍テ記錄ヲ按スルニ原判決ノ認定事實ハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認ム　（大審院四刑、七年(れ)九五二號、背任被告事件、七年一〇月四日決定、大審院裁判例六卷刑事四八頁）

●慣例ノ誤信ニ依ル森林伐採ト重大ナル事實誤認

辯護人間狩宥遵上告趣意書第二點被告人ハ本件山林伐採當時毫モ窃盜ノ犯意ナカリシモノナリ左レハ今玆ニ假ニ數百歩ヲ讓リ上告理由第一點カ其ノ理由ナシトスルモ本件ハ被告人ノ犯意ヲ缺如スルヲ以テ此ノ點ニ於テ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトス（一）本件小字小島エ六十二番地ノ山林ノ中被告人カ伐採シタル西方ノ部分ヲ昭和四年中小字髮長五八六番地ノ田地ノ所有者松本幸之助カ自家用ノ爲伐採シタルコトハ既ニ上告理由第一點（三）ノ(イ)ニ記載シタルカ如シ當時松本幸之助ノ母うのハ被告人ノ母ぬいニ對シ被告人カ小字髮長五百八十七番地ノ田地ヲ競落シテ本件山林ノ伐採權ヲ取得シテ以來約六年ヲ經過スルニ拘ラス未タ曾テ本件山林ヲ自家用ニ伐採シタルコトナキヲ怪シミ既ニ自己カ伐採シタルコトヲ指示シ乍ラ田地所有者ハ山林伐採權アルニ付共ニ同山林ヲ伐採スヘキ旨勸誘スルコト數度ニ及ヒタルヲ以テ母ぬいハ遂ニ右勸誘ニ應シ之カ伐採ノコトヲ被告人ニ圖リ被告人モ亦松本うのニ倣ヒ之ヲ伐採セントコトヲ企圖シ被告人ノ出勤不在中妻ヲシテ松本憲侍及松下菊平ノ兩名ヲ雇入レシメ伐採ノ衝ニ當ラシメタルモノニシテ被告人ニハ當時窃盜ノ犯意毫モナシ然ルニ被告人カ司法警察官及檢事ノ取調並第一審ノ公判ニ於テ右伐採ノ動機ノ點ニ付供述ヲ爲ササリシハ若シ不幸ニシテ被告人ノ所爲カ犯罪ト爲ルニ於テハ同一山林ヲ被告人以前ニ伐採シタル松本幸之助モ同樣ノ嫌疑ヲ被ムリ延テハ餘生幾何モナキ母ぬい及松本うのニモ累ヲ及ホスヘキコトヲ極度ニ怖レタル爲ニシテ第二審ノ公判ニ於テハ飽ク迄身ノ潔白ヲ證スル爲右ノ事實ヲ供述シ且松本うの及松本ぬいノ人證申出ヲ爲シタルモ不幸ニシテ採用セラルル所ト爲ラサリシモノナリ（二）本件山林ハ下佐濃村字長野ヲ東西ニ通スル府道並被告人ノ住家ヲ隔ツル コト南方約七、八十間ノ地點ナルコト原審檢證ノ結果ニ依リ明白ナリ尚其ノ情況ヲ詳記セハ同山林ハ字長野小字口長野ノ中間ニ位シ小字口長野ノ民家ノ何レノ家ヨリモ之ヲ望見シ得ヘク立木伐採ノ音響亦何レノ地點ヨリモ聽取シ得ヘシ而シテ前示府道ハ熊野郡ヨリ竹野郡ヲ經テ中郡ニ通スルモノニシテ相當往來頻繁ナリ斯ノ如キ地形ト情況ノ下ニ於テ白晝公然他人ヲ二人迄雇入レテ山林ヲ伐採スルカ如キハ盜伐ノ犯意アル者ノ能クスル所ニ非ス（三）被告人ハ左迄富裕ニ非スト雖斯ノ如キ少量ノ薪材ヲ伐採權ナキ山林ヨリ盜伐セサルヘカラサルカ如キ財政狀態ニ非サルノミナラス薪材ノ採取ニハ字長野區有林ヲ以テ何等不自由ヲ感スルコトナシ而シテ被告人ハ約十年間居村村役場書記ヲ勤續シ地方的ニ相當ノ社會的地位ト信用ヲ得殊ニ一家多年ノ協心努力近時漸ク報セラレテ長兄次兄モ共ニ夫々實業界官界ニ發展シ一般地方民ヨリ所謂成功三人兄弟トシテ美望セラルルノ時ニ當リ被告人カ他人ノ山林ヲ盜伐スルト云フカ如キ淺間シキ意思ハ起サントシテ起シ得サル所ナリ要之被告人ハ本件山林ヲ伐採スルニ當リ盜伐ノ犯意全然ナカリシヲ以テ假ニ不幸ニシテ被告人ニ本件山林ノ伐採權ナシトノ御認定ヲ受クルトスルモ被告

人ハ單ニ過失ノ責ヲ負フニ止マリ刑責ニ任スヘキモノニアラサルナリ抑々本件カ司直ノ取調ヲ受クルニ至リタルハ被告人ト親族關係ニアリ其ノ繁榮ヲ嫉視セル告訴人田中眞雄カ昭和五年十二月兵庫縣豊岡町ヲ引拂ヒテ歸村シ本件山林ヲ盜伐セラレタリト主張シテ居村駐在巡査ニ申告シタルニ端ヲ發セルモノニシテ同巡査モ本件ハ到底犯罪ヲ構成スルモノニ非ストシテ取調ヲ爲サスシテ經過スル中告訴人ハ更ニ久美濱警察署ニ申告シ再ヒ取調アラサルヤ峯山區裁判所檢事局ニ對シ告訴シ檢事ハ告訴人ノ言フ所ヲ信シ苛酷ナル取調ヲ受ケシカハ被告人ハ村長等ノ勸告モアリ檢事ノ心證ヲ害セサランコトヲ努メ「悪ウ御座イマシタ」ト言フニ終始セリ村民モ告訴人ト協議シ漸ク告訴取下書ヲ提起シタルモ既ニ遲ク公訴提起ノ後ニテ如何トモスヘカラサリシナリ被告人ハ役場吏員トシテ同村ニ盡力スル所多ク齡六十ニ餘レル老母アリ何卒十分ナル御審理ヲ相仰度ト云フニ在リ仍ツテ記錄ヲ調査スルニ原判決ノ事實認定ニハ重大ナル過誤アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリト認ム　（大審院一刑、六年（れ）一五〇九號、森林窃盜被告事件、七年四月二八日決定、大審院裁判例六卷刑事三〇頁）

●醫師ノ電話處方ニ依ル調劑ノ藥劑師法違反ト重大ナル事實誤認

辯護人伊勢勝藏上告趣意書第三點原判決ハ本件事實ニ付キ犯罪不成立ノ原由存スルコトヲ看却セルノ違法アリ云々、本件事案ハ被告カ深瀨マサナル幼年患者ノ緊急治療ノ爲メニ主治醫師小川原亮ノ電話ニ依ル口授處方ニ基キ調劑授與シタル事實ニ係リ正ニ一個ノ緊急避難行爲タルモノナレハ犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由存スルモノトス即チ原審公判調書ヲ査閲スルニ被告人小林貞雄、證人小川原亮、同探瀨吉太郎ノ各供述ハ後段列記ノ如ク當時患者ノ症狀ヲ叙スルコト極メテ詳細ニシテ其ノ各供述ニ依リテ之ヲ見ルニ當時患者深瀨マサノ症狀ハ非常ニ緊急ノ狀態ニアリタルコト明瞭ニシテ若シ本件被告及證人小川醫師ニ於テ自宅ニ電話ヲカケ調劑セシメテハ深瀨方トハ二十町モアリ時期ヲ失スル恐アリ被告人方カ深瀨方ト近接シ居ル爲電話ニテ調劑方ヲ依賴シタルモノニテ被告人モ善惡ヲ考フルニ暇ナカリシナリ電話ニテ調劑ヲ依賴セシハ二度ニ及ヒ處方箋ヲ交付シ置キタリカカル應急處置ニ出テサランカ患者ノ病症ハ急變如何ナル不幸ノ轉機ヲ逃リタルカハ獨リ專門家タル證人小川醫師ノ供述セルトコロノミナラス何人モ常識上容易ニ之レカ推斷ヲ爲シ得ヘシ蓋本來抵抗力乏シキ小兒ノ急性腸疾患ハ其ノ治療ニ寸時ノ間隙ヲ許ササルモノアリテ一度其ノ應急處置ヲ誤ランカ遂ニ奈何トモスル能ハサルコトハ日常吾人ノ經驗スルトコロニシテ本件被告及證人小川醫師ノ取リタル處置ハ實ニ患者ノ身體生命ニ對スル緊急ノ危難ヲ避クル爲メ眞ニ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ニシテ又能ク之ニ依リテ幸シテ其ノ危急ヲ救ヒ得タルモノト云ハサルヘカラス如此行爲ハ當然刑法第三十七條第一項ニ依リ當罰却シ一言ノ之ニ及フコトナク輒ク有罪ノ宣告ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルノ違法アルモノト信スト至フニ在リ仍テ記錄ヲ精査スルニ原判決ノ事實ノ認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ム　（大審院一刑、六年（れ）一〇二九號、藥劑師法違反被告事件、六年一〇月二九日決定、大審院裁判例六卷刑事六四頁）

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

●電報ニ依ル上告申立

刑事訴訟法第四百十九條ニ依レハ上告ヲ爲スニハ上告申立書ヲ原裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

ルモノナレハ其ノ書面ハ上告人ノ作成シタルモノタラサルヲ得ス然レハ右電報ニ依ル上告申立ハ上告人ノ書面ヲ以テセサル點ニ於テ上告申立トシテハ不適法ナルモノト云ハサルヘカラス又抗告人タル上告人ノ作成シタル右上告申立書ハ叙上ノ如ク上告期間經過後原院ニ到達シタルモノナルヲ以テ是亦適法ノ申立ト云フヲ得サルハ明ニシテ縱令上告申立書ヲ郵便ニ付シタルコトヲ上告期間內電報ニ依リ原院ニ通知スルモ之カ爲上告期間經過後ニ到達シタル上告申立書ヲシテ該期間經過前ニ提出シタルト同一ノ效力ヲ有セシムルモノニ非ス然レハ原院カ右上告申立ヲ棄却シタルハ正當ナリ　（大審院四刑、八年（つ）二號、私文書僞造行使詐欺被告事件、八年一月二四日決定、法律新聞三五二二號一一頁）

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

●第二審判決言渡後ニ作成セラレタル書狀ト上告理由

大久保龜鶴及土屋久雄ノ書狀ハ第二審判決言渡後ニ作成セラレタルモノニ係リ原裁判所ノ取調ヘタル證據ニ非サルコト明白ナルヲ以テ斯カル證據ニ依據シテ刑事訴訟法第四百十四條ニ所謂重大ナル事實ノ誤認ヲ主張シ上告ノ理由ト爲スコトハ刑事訴訟法第四百二十五條第三項ノ規定ニ依リ之ヲ許スヘカラサルモノトス　（大審院二刑、八年（れ）五八六號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年六月五日判決、法律新聞三六〇〇號一四頁）

第四章　抗告

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

●正式裁判ノ請求ヲ棄却シタル決定ト抗告

抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲シ得サルコト刑事訴訟法第四百六十九條本文ノ明定スル所ナルヲ以テ正式裁判請求權回復請求ヲ棄却シタル大阪區裁判所ノ決定ニ對スル抗告ハ不適法ナルコト勿論ナリトス尤モ同條但書ニ於テハ其ノ第二號ニ揭クル控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲シ得ルモノト定メタルモ元來正式裁判ノ請求ハ上訴申立トハ其ノ性質ヲ異ニスルカ故ニ右第二號中ニハ正式裁判請求ヲ棄却シタル決定又ハ正式裁判請求權回復請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告ヲ包含セサルコト明白ナルヲ以テ本件再抗告ハ右但書第二號ノ場合ニ該當スルモノニ非ス仍テ本件抗告ハ不適法トシテ之

ヲ棄却スヘキモノトス　（大審院一刑、七年(つ)四九號、浪速郵便法違反被告事件、七年一二月二六日決定、法律新聞三五二二號一二頁）

●刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對スル抗告ノ能否

刑事補償法第十八條刑事訴訟法第四百六十九條ニ依レハ刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス　（大審院三刑、八年(つ)二一號、八年九月六日決定、法律新聞三六一七號一八頁）

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

●押收物還付ニ關スル檢事ノ處分ト不服

凡ソ檢事ノ爲シタル押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求シ得ヘキモノナルコト刑事訴訟法第四百七十一條ノ規定スルトコロナリト雖該不服ノ申立ニ對シ裁判所審理ヲ遂ケ檢事ノ處分ノ當否ニ付キ決定ヲ與ヘタルトキハ其ノ裁判所ノ裁判ニ對シテハ更ニ抗告ノ方法ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス同法第四百七十四條ノ明規スルトコロニシテ此等ノ規定ハ本件ニ於ケル檢事ノ處分ニ付テモ亦之ヲ準用スルヲ以テ相當ナリトス而シテ本件ニ付不服ノ申立ヲ受ケタル宮崎地方裁判所ハ檢事ノ處分ノ當否ニ付審理ヲ遂ケタル上押收ノ金圓ハ當該竊盜被告事件ノ贓物ナリト認メ檢事カ之ヲ被害者ニ還付シタルハ相當ナリトシ其ノ不服申立ヲ棄却スルノ決定ヲ爲シタルモノナルコト明白ナルカ故ニ該決定ノ當否如何ニ關セス之ヲ對象トシテ爲シタル本件抗告ハ他ノ論旨ニ對シテ說明スル迄モナク不適法トシテ棄却スヘキモノトス　（大審院一刑、七年(つ)四二號、押收物ノ處分ニ關スル異議申立事件、七年一一月二一日決定、法律新聞三五一五號八頁）

第五編　再審

第四百八十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニノミ之ヲ爲スコトヲ得（抄）

二　原判決ノ憑據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ飜譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキ

●證據ニ引用ナキ鑑定ト再審ノ原由タル原判決ノ憑據トナリタル鑑定

再審ノ原由ヲ規定スル同條項ニ所謂原判決ノ憑據ト爲リタル證言鑑定通譯又ハ飜譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキトハ再審請求ノ對象トナルヘキ判決ノ憑據ト爲リタル證言鑑定等カ確定判決ニ因リテ虛僞ナリシコト證明セラレタル場合ヲ指稱スルノ義ナレハ證據ニ引用ナキ鑑定ハ再審ノ原由タルヘキモノニ非ス　（大審院一刑、七年(れ)一八二九號、被告人川村儀之治等ニ對スル詐欺公正證書原本不實記載行使、被告人稻葉勇次郎ニ對スル詐欺幇助各被告事件、八年六月八日判決、法律新聞三五七三號七頁）

第八編　裁判ノ執行

第五百五十六條　上訴申立ノ後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部

二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

●第一審ノ未決勾留ト上告審ニ於ケル本刑算入

第一審ノ判決アリ之ニ對シ上訴權拋棄ノ申立ヲ爲シタル場合該申立後ノ未決勾留ニ對シテモ上告棄却ノ場合ハ上告審ニ於ケル未決勾留ニアラサルニヨリ之ヲ本刑ニ算入スルヲ得ス（刑法二一條同項參照）（大審院四刑、七年(れ)一三二〇號、暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反傷害被告事件、七年一一月二五日判決、法律新聞三五一四號一七頁）

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキ又ハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立テ爲スコトヲ得

●判決理由ト裁判ノ解釋ニ付疑アルトキ

抗告人ハ裁判ノ解釋ニ付疑義ノ申立ヲ爲シ其ノ理由トシテ抗告人ハ昭和七年七月一日小樽區裁判所ニ於テ郵便法違反罪ニ依リ略式命令ヲ以テ罰金二十圓ニ處ス旨ノ裁判ヲ受ケタルカ（一）判事齋藤敏之ハ如何ナル訴訟書類ニ基キ事實ヲ認定セラレタルカ辯明アリ度シ（二）昭和六年十二月十六日附ヲ以テ郵便局長ヨリ告發書ノ提出アリタル事件ヲ同七年七月一日迄七ケ月ニ渉ル長期間小樽區裁判所ニ於テ何等ノ處理ヲモ爲スコトナク證據物件タル郵便物ヲ停滯遲延セシメタルハ故意ニ職權ヲ濫用シテ關係者ヲ苦シメタルモノナラント思料セラル仍テ其ノ遲延セシメタルノ理由及法律上之ヲ遲延セシメ得ル職權アラハ其ノ條文上ノ根據ヲ示サレ度シ（三）遲延セシメタルハ檢事ノ責任ナラハ其ノ檢事ノ氏名明示アリ度シ（四）石田長作ノ告發書又ハ其ノ他ノ書類中ニハ齊藤勝公本人カ受取方ヲ拒絕シタリト記載シアルカ又ハ齊藤茂カ受取方ヲ拒絕シタリト記載シアルカ判然ト辯明ヲ求ム（五）昭和六年十二月七日及同七年三月十日ノ二回受領ヲ拒ミタルモノナリトアルモ右ハ二回共同一人カ同一ノ言語ヲ以テ拒絕シタルコトト爲リ居ルヤ若シ然ラストセハ一回毎ニ何人カ如何ニ拒絕シタルコトト爲シ居ルヤ判然辯明ヲ求ム（六）此ノ度十分書類ヲ査閱セハ犯罪不成立ノ事實判明スヘク且檢事カ其ノ職務ヲ怠リ事件ヲ遲延セシメ關係者ヲ困却セシメタル事實發覺セラルルニアラスヤト思料ス果シテ然ラハ事實ヲ明ニ辯明シテ判檢事ノ信用ヲ向上セシムルコトハ國家ノ爲ニ行フヘキ義務ナルコトヲ切ニ忠告ス仍テ玆ニ疑義ノ申立ニ及ヒタリト云フニ在リ而シテ右ノ申立ニ對シ小樽區裁判所ハ昭和八年五月二十九日疑義申立ヲ却下スル決定ヲ爲シ抗告人ハ之ニ對シ抗告ノ申立ヲ爲シタル所札幌地方裁判所ハ同年六月十九日抗告却下ノ決定ヲ爲シ抗告人ハ之ニ對シ更ニ當院ニ抗告ヲ爲シタルモノニシテ其ノ抗告理由ノ要旨ハ原審ハ抗告人ノ抗告ニ對シ刑事訴訟法第五百六十一條ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑義アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得トアルハ判決主文ノ意義不明ナル場合ニ限リ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキノ意ニシテ主文以外ニ付テハ疑義ノ申立ヲ許ササルモノナリトノ理由ニ依リ之ヲ却下シタリ然レトモ右解釋ノ誤ナルコトハ憲法第二十三條刑事訴訟法第五百六十一條、第三百三十六條、第五十條、第四十九條等ノ規定ニ徴シテ明白ナリ然ルニ原審ハ過去ニ於ケル大審院ノ判例ヲ絕對完全ノモノナリト信シ右ノ如キ誤レル解釋ヲ爲シタルモノニシテ大ナル曲解違法ナリ蓋シ判決主文ノ不明瞭

ナル場合アルヘキ筈ノモノニ非ス刑法第九條ノ刑ヲ言渡サレタル場合如何ナル執行ヲ受クルヤハ疑義ノ申立ヲ爲シテ了解セストモ刑法第十一條乃至第二十一條ヲ通讀スレハ完全ニ理解シ得ヘシ反之刑法及刑事訴訟法ニ依リ理解シ能ハサル裁判官ノ宣告又ハ裁判書ノ謄本ニ示サレタル理由其ノ他ニ不明瞭ノ點アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲シ說明辯明ヲ受クルニ非サレハ他ニ理解シ得ルノ方法アルコトナシ故ニ刑事訴訟法第五百六十一條ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲシテ判決主文及理由共ニ不明瞭ノ場合ハ勿論憲法第二十三條ヲ無視シタル裁判官カ職權ヲ怠リ又ハ濫用シ或ハ法令ノ解釋ヲ誤リ居ルヤ否ヤヲ確メント欲スル場合ニ於テ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得シメタルモノナリ然レハ過去ノ誤レル判例ヲ裁判所構成法第四十九條ニ基キ改善シ新判例ヲ作成發表セラレ度シト云フニ在リ仍テ按スルニ刑事訴訟法第五百六十一條ニ所謂裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ判決主文ノ趣旨明瞭ナラス其ノ解釋ニ付疑義ノ存スル場合ノ義ニシテ其ノ主文ノ由テ來レル判決ノ理由等ニ關シ疑義アル場合ヲ指稱スルモノニ非サルコトハ既ニ當院ノ判示セル所ニシテ右判例ヲ飜スヘキ理由アルヲ認メス而モ抗告人ノ本件疑義ノ申立事項ハ總テ裁判ノ理由ノ辯明要求若ハ攻撃並主任判檢事ノ處置ニ對スル非難タルニ過キスシテ一モ判決主文ノ解釋ニ觸ルルモノアルコトナシ從テ本件疑義ノ申立ハ許スヘキモノニ非ス

（大審院四刑、八年（つ）一三號、疑義申立却下決定ニ對スル抗告事件、八年七月一八日決定、法律新聞三五九二號九頁）

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

●裁判執行終了後ト異議申立

裁判ノ執行ニ對スル異議ノ申立ハ裁判ノ執行中之ヲ爲スコトヲ得ヘク既ニ裁判ノ執行ヲ終リタル後ニ在リテハ之ヲ許スモ實益ナキヲ以テ之カ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノナルコトハ刑事訴訟法第五百六十二條ノ規定ノ趣旨ニ徵シ蓋シ疑ナキ所ナリトス然レハ縱令裁判ノ執行中異議申立アリタル場合ト雖此ノ申立棄却決定ニ對スル即時抗告ヲ棄却シタル決定ニ對シ更ニ抗告アリタル當時既ニ裁判ノ執行ヲ終リ從テ異議申立ノ實益ナキニ至リタルトキハ縱令原決定ヲ取消スモ結局何等ノ實益ナキニ歸スルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ即時抗告ノ申立ハ之ヲ許ササルモノト云ハサルヘカラス

（大審院四刑、七年（つ）四一號、裁判ノ執行ニ對スル異議申立却下決定ニ對スル抗告事件、七年九月九日決定、法律新聞三五一三號一七頁）

第九編　私訴

第二章　上訴

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

●公私訴ノ棄却ト相手方ノ私訴上告ノミノ審理

公訴上告人（溝口友藏）ニ對スル名譽毀損被告事件ニ付昭和八年三月二十三日佐賀地方裁判所ノ言渡シタル第二審判決ニ對シ公訴上告人ハ上告ヲ申立テ該事件ニ附帶スル私訴事件ニ付同日

同裁判所ノ言渡シタル私訴第二審判決ニ對シ私訴上告人溝口武吉及私訴上告人溝口友藏代理人堤政一ハ執レモ上告ヲ申立テタルモ公私訴上告人ハ法定ノ期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルニ依リ刑事訴訟法第四百二十七條ニ則リ公私訴上告ハ之ヲ棄却スヘク然レハ本件ハ私訴上告人溝口友藏ノ私訴上告ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ナルヲ以テ同法第六百十二條ニ則リ事件ヲ本院ノ民事部ニ移送スヘシ（大審院一刑、八年（れ）五四五號、公訴上告人ニ對スル名譽毀損被告事件、八年六月八日決定、法律新聞三六〇二號二〇頁）

陪審法

第一章　總則

第三條　長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

●法定陪審事件ト請求陪審事件ノ併合罪ト取扱

陪審法ハ其ノ第二條ニ於テ法定陪審ニ該當スル事件ヲ規定シ第三條ニ於テ請求陪審ニ該當スル事件ニ付規定スルヲ以テ縱令兩者併合罪ノ關係ニ於テ公判ニ繫屬スル場合ト雖右第三條規定ノ事件ハ被告ノ請求アルニ非サレハ之ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノニ非サルヤ論ナシ記錄ヲ査スルニ原審ニ於テ被告ヨリ放火被告事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキ旨ノ請求ヲ爲シタル事跡ナキヲ以テ原審カ放火被告事件ヲ陪審ノ評議ニ付セサリシハ固ヨリ正當ナリ（大審院四刑、八年（れ）六六四號、强盜殺人被告事件、八年六月二三日判決、法律新聞三六〇六號一五頁）

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第四十六條　公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

●陪審公判準備調書ト讀聞及閱覽

調書ノ作成ニ付陪審法ニ特別ノ規定存セサル場合ニ於テハ刑事訴訟法第五十六條ノ適用アルヘキヤ論ヲ俟タスト雖陪審ニ於ケル公判準備調書ノ作成ニ付刑事訴訟法第六十二條第六十三條ノ規定ノ存スルト同シ而シテ陪審法第四十六條第一項ハ「公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ」ト規定スルカ故ニ右調書ニ付テハ一般調書ニ於ケルカ如ク裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ且供述者ヲシテ調書ニ署名捺印セシムルカ如キコトハ之ヲ行ハント欲スルモ能ハサルノ場合之アリト謂フヘク隨テ此ク ノ如キ手續ハ之ヲ履踐スルヲ必要トセサルノ法意ナリト解スルヲ相當トスヘシ（大審院

三刑、七年(れ)五七九號、放火被告事件、七年七月九日判決、法律新聞三五一三號一四頁）

第四十八條　裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

●陪審法四八條ノ違法ト判決ノ效力

陪審法第四十八條ノ規定ハ單ニ訓示的規定ニ過キサルヲ以テ原審カ被告ニ對シテ決定ヲ通知セサリシトスルモ爲ニ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス　（大審院四刑、八年(れ)六六四號、強盜殺人被告事件、八年六月二三日判決、法律新聞三六〇六號一五頁）

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第七十七條　前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

●陪審法七七條ノ說示ノ適否

陪審法第七十七條ニ所謂裁判長ノ說示ニハ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトハ法ノ堅ク禁スル所ナリト雖公判ニ於テ證據調ヲ經タル證據ノ全部ヲ說示中ニ加フルノ要ナキコト及證據カ被告人ニ有利ナリヤ否ヲ告クルモ違法ニ非サルコトニ付テハ既ニ本院判例ノ存スル所ナリ　（大審院三刑、七年(れ)五七九號、放火被告事件、七年七月九日判決、法律新聞三五一三號一四頁）

●「證據ノナイト云フ事件テハナイ」ト證據ノ信否

本件ニ於テ原審公廷ニ於ケル大山醫師ノ供述及石川哲郎ノ解剖ニ關スル所見カ重要ナル證據資料タルコト記錄上明白ナル所ナレハ原審裁判長カ此等證據ニ付說示シタルハ固ヨリ正當ナリ而シテ裁判長ハ右證據ノ外被告人ノ辯解其ノ他多數ノ證據ヲ被告人ノ利益不利益ニ區分シテ各其ノ要領ヲ說示シ尙殺意ヲ有シ人ヲ殺シタルトキハ殺人罪ヲ構成スヘク殺意ナク不法ノ暴行ニ因リ人ヲ死ニ致シタルトキハ傷害致死罪ヲ構成スヘキコト等犯罪ノ成立ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實ヲ說示シ最後ニ辯護人ハ疑ハシキハ罰セストノ格言ヲ述ヘ然ラストノ答申ヲ求メタルカ此ノ格言ハ疑ハシカラサル事件ニ適用ナキハ勿論テ本件ハ證據ノ無イト云フ事件テハナイ相反スル證據カ對立シテ居ルコトハ是迄說明シタ通テアル其ノ執レヲ採用スルカハ諸君ノ隨意テアリマスト說示シタルモノナルコト記錄上明白ナレハ陪審ニ對シ單ニ大山醫師ノ供述及石川哲郎ノ所見ノミヲ參酌シテ事實ヲ認定スヘク被告人ノ供述ヲ顧ルノ要ナキモノナリトノ觀念ヲ與フルカ如キ說示ナリト謂フヘカラサルハ勿論右說示中「證據ノナイト云フ事件テハナイ」トアルハ有罪ノ證據モアリ之ニ反對スル無罪ノ證據モアリ之ヲ執レニスルモ證據ノ無キ事件ニ非ス其ノ執レカニ決スヘキモノニシテ裁判長ニ於テ本件ハ有罪ノ證據十分ナル事件ナリトノ意見又ハ證據ノ信否ニ關スル意見ヲ表示シ若ハ證據ノ對立ナル語ヲ藉リテ反面ニ鑑定書又ハ證人石川哲郎ノ證言ノ信憑力ノ存スルコトヲ說示シタルモノト謂フヘカラス要スルニ原審裁判長ノ說示ハ違法ノモノト認ムルヲ得ス　（大審院二刑、八年(れ)一三五八號、傷害致死被告事件、八年一一月一六日判決、法律新聞三六三六號六頁）

●證據ノ信否ニ關スル說示ナルヤ否

第一原審公判調書ヲ査スルニ辯護人ハ由來警察ニ於ケル取調ハ一般的ニ峻烈苛酷ニ過キ勤モスレハ暴行沙汰ニ及フコト多々其ノ事例ヲ聞知スルトコロナリト陳ヘ次テ本件亦然リト述ヘタル旨ノ記載アリ該辯護論ハ畢竟陪審員ヲシテ本件被告ノ警察豫審ノ自白ハ警察ニ於ケル苛酷ノ取調ニ基ク虚僞ノ陳述ナリト信セシムル處アルノミナラス被告ノ警察豫審ノ自白ハ警察ニ於ケル苛酷ノ取調ハ口頭無證ノ供述ニ過キスシテ原審公判ニ證據ニ依リテ現ハレタル事實ニ非サルヲ以テ裁判長ハ斯ル無責任ナル辯論ヲ放置スルニ於テハ陪審員ノ判斷ヲ誤マラシムルコトヲ慮リ所論說示ヲ爲シタルモノト認ムヘク證人渡部文一郎ノ供述ハ原審公判ニ於テ陪審員ノ親ク聽取セルトコロナレハ裁判長カ同證言ヲ繰返シ說示スルニ何等妨クルトコロアルナシ然ラハ裁判長ノ說示ヲ以テ證據ノ信否ニ付意見ヲ述ヘタリト謂フハ當ラス第二、凡ソ人ノ供述中其ノ一部ニ矛盾不明ノ點アリトスルモ之カ爲ニ直ニ供述全部ヲ信スヘカラサルモノト爲スヘキニ非スシテ他ノ證據ト相俟テ之ヲ信スヘキカ否カヲ決スヘキハ當然ノ事理ト謂フヘク又證人渡部文一郎ノ證言ハ前記說明ノ如クナルヲ以テ裁判長カ右證言ヲ繰返シテ陪審員ノ注意ヲ喚起シタルハ毫モ不當ニ非スサレハ裁判長ノ所論說示ヲ以テ直ニ自白ヲ信用セヨト強要セルモノト謂フヘキニ非ス　（大審院四刑、八年(れ)六六四號、强盜殺人被告事件、八年六月二三日判決、法律新聞三六〇六號一五頁）

第七十九條　裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

●陪審ニ對スル補問ノ要否

陪審ニ對スル裁判長ノ問ハ主問ハ常ニ之ヲ爲スヘキモ補問ハ裁判長カ各案件ニ付被告人ノ辯解其ノ他諸般ノ狀況ヲ按シ必要アリト認メタル場合ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ理論上想像シ得ヘキ總テノ場合ヲ盡シテ之ニ處スルノ補問ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非サルコト陪審法第七十九條第二項第三項ノ規定ニ依リ明白ナリ而シテ本件ニ於テハ被告人ノ行爲カ過失殺ニ非サルカヲ疑フヘキ資料ノ存スルナク從ツテ此ノ點ニ關スル補問ヲ必要トスヘキ案件ニ非サルコト記錄上明白ナルカ故ニ原審裁判長カ傷害致死嘱託殺人及承諾殺人ノ補問ヲ爲シ過失殺ノ補問ヲ爲サス又此ノ點ニ付說示ヲ與ヘサリシハ正當ナリト謂フヘシ　（大審院二刑、八年(れ)一三五八號、傷害致死被告事件、八年一一月一六日判決、法律新聞三六三六號六頁）

第九十七條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

●陪審法九七條ト刑訴三六〇條

陪審法　陪審手續　公判手續及公判ノ裁判（九七條）

陪審法ハ刑事訴訟法ニ對シテ特別法タル關係ニ在ルモノニシテ陪審法第九十七條第二項有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法律ノ適用ヲ示スヘキコトヲノミ規定スルニ止リ刑事訴訟法第三百六十條ニ於ケルカ如ク證據ニ依リ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認メタルノ理由ヲ說明スルコトヲ要求セス然ラハ原判決カ判示通貨僞造ノ事實ヲ認定スルニ付其ノ之ヲ認メタル證據理由ヲ擧示セサリシハ固ヨリ當然ニシテ毫モ理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス　（大審院三刑、八年(れ)五二三號、通貨僞造被告事件、八年六月二一日判決、法律新聞三六一〇號七頁）

刑事補償法

第一條　刑事訴訟法ニ依ル通常手續又ハ再審若ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ同法第三百十三條ノ規定ニ依リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勾留ニ因ル補償ヲ爲ス

再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者原判決ニ因リ既ニ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ刑法第十一條第二項ノ規定ニ依ル拘置ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ刑ノ執行又ハ拘置ニ因ル補償ヲ爲ス

●公訴棄却ト刑事補償

刑事補償法ハ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ補償ヲ爲ス旨規定スルニ止リ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ補償ノ請求ヲ爲ス權利ヲ認メス　（大審院三刑、八年(ら)一號、刑事補償法ニ依ル補償請求事件、八年二月八日決定、法律新聞三五三三號一八頁）

第十八條　本法ノ決定及之ニ對スル即時抗告ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法ヲ準用ス期間ニ付亦同シ

●刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對スル抗告ノ能否

本件刑事補償請求棄却ニ對スル抗告事件ニ付昭和八年七月二十八日札幌控訴院ニ於テ爲シタル決定ニ對シ更ニ抗告代理人赤井力也ヨリ抗告アリタルモ刑事補償法第十八條刑事訴訟法第四百六十九條ニ依レハ刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス　（大審院三刑、八年(フ)二一號、八年九月六日決定、法律新聞三六一七號一八頁）

違警罪即決例

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ〔一日ヲ一圓〕ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限內之ヲ留置スル但刑期五日內ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

●違警罪即決例一〇條ノ保證金差出期間及一一條ノ刑ノ言渡確定ト正式裁判ノ申立ニ依ル判決ノ確定

記錄ヲ調査スルニ抗告人等ハ執レモ時枝警部補ノ爲本件犯罪ノ被疑者トシテ摘發セラレ昭和八

違警罪即決例

一〇條、一一條ノ

年五月十六日高田警察署ニ於テ警察犯處罰令第一條第一號違反罪ニ依リ各拘留二十日濱子ハ拘留十五日ノ即決言渡ヲ受ケ之ニ對シ即日正式裁判所ノ審理ヲ受ケ同年六月十七日同罪ニ付各拘留ノ即決言渡ヲ受ケタルヲ以テ抗告人等ハ右判決ニ依リ各拘留ノ執行ヲ差出シテ正式裁判所ノ審理ヲ受ケタル結果玉津區裁判所ノ審理ニ於テ濱子ハ拘留七日ノ即決言渡ヲ爲シタルニ隈井齊及松本等ノ各證明書ニ依レハ抗告人等ハ右判決ニ依リ各拘留ノ執行ヲ爲シ右言渡後同月十九日俔原佐作ヲ介シテ右隈井齊及松本等ノ各證明書ニ依レハ抗告人等ハ右判決ニ從ヒ各拘留ノ執行ヲ爲シタル時警部補ヨリ金錢ヲ以テ抗告人等ノ勤務ヲ缺クヘカラサル事件ハ絕對ニ金錢ヲ以テ拘留ノ執行ヲ免レサル樣ノ意見ニ從ヒ各拘留ノ執行ヲ爲シタル後日ニ至リ抗告人等ハ右判決ニ從ヒ各拘留ノ執行ヲ爲シタルヲ以テ

諸法

諸法

諸法目次

●憲　法

第五十九條

○傍聽人ノ混雜整理ト公判公開 ……一

○公判公開ト公判調書ノ記載 ……一

●衆議院議員選擧法

第四章　選擧、投票及投票所

第三十九條

○詐僞投票ト被投票者ノ氏名 ……二

第十章　選擧運動

第八十九條

○選擧事務所ノ意義 ……三

○投票取纏ノ依賴ト選擧事務員ノ選任 ……三

第九十六條

○選擧監視ト特定候補者ノ爲ノ選擧運動 ……四

○投票並選擧運動ノ報酬周旋行爲ト選擧運動 ……四

○推薦狀ノ原稿作成ト選擧運動 ……四

○無資格運動者ノ選擧運動ト想像的競合罪 ……五

○無資格運動者ノ買收行爲ト想像的競合罪 ……五

○衆選法九六條一二九條及一一二條ト連續犯 ……五

○選擧ニ關係アル官吏吏員ノ關係區域內ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪 ……五

第九十八條

○投票ヲ得ルヲ目的トセサル場合ト個々面接罪 ……五

第九十九條

○選擧ニ關係アル官吏吏員ノ關係區域內ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪 ……六

第十一章　選擧運動ノ費用

第百一條

○不法ナル選擧運動費ト選擧運動ノ費用 ……六

第十二章　罰則

第百十二條

○選擧運動報酬供與罪成立ノ時期……八
○利益供與罪ト選擧運動ノ決意或ハ其ノ變更……八
○自派ノ爲ニ選擧運動ヲ中止シタル報酬ト衆選法一一二條三號……九
○衆選法一一二條四號ト當選ニ關スル目的意思……九
○特定候補者ノ爲ノ選擧監視ト選擧運動……九
○衆選法一一二條四號ト選擧ノ前後……一〇
○選擧運動分擔區域ノ變更ニ依ル割當金額ノ授受ト衆選法一一二條……一〇
○投票買收費ト選擧運動費ヲ區別セサル判示ノ適否……一一
○選擧委員ノ供與金額協定ノ參與ト周旋行爲……一一
○衆選法一一二條各號間ノ適用ノ誤ト判決ノ效力……一一
○投票ヲ得ルコトヲ目的トセサル個々面接ト選擧運動費供與罪……一三
○不特定人ニ對スル金錢供與ノ謀議ト共同正犯……一三
○選擧運動費及報酬ノ不可分性……一三
○無資格運動者ノ買收行爲ト想像的競合罪……一三

第百十條
○無資格運動者ノ選擧運動ト想像的競合罪……一三
○衆選法九六條一二九條及一一二條ト連續犯……一三
○投票取纏依賴ノ選擧運動費供與罪……一三
○投票並選擧運動ノ報酬周旋行爲ト選擧運動……一三

第百十三條
○候補辭退ノ對價要求罪ノ法益……一三

第百十四條
○包括的ニ授受サレタル選擧運動實費並報酬ト沒收(其一)……一三
○同上(其二)……一三

○選擧運動ノ供與金ト沒收並追徵額ノ算定……一四

第百二十七條
○詐僞ニ因ル投票敎唆ト被投票者……一五
○詐僞投票ノ敎唆ト意思……一六
○想像的競合罪ニ於ケル從犯ノ刑ノ減刑……一六

第百二十九條
○投票ヲ得ルコトヲ目的トセサル場合ト個々面接罪……一六
○衆選法九六條三九條及一一二條ト連續犯……一六

第百三十一條
○選擧ニ關係アル官吏員ノ關係區域內ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪……一六

●會計法

第百三十二條
○不動產取得稅賦課權ノ消滅時效ノ始期……一六

●大正一一年大藏省令八號政府保管有價證券取扱規程

第十二條
○政府保管有價證券ノ引渡請求ト受領證書ノ提出……一七

●昭和六年大藏省令三六號

○金地金又ハ金貨幣ノ輸出行爲ノ完了……一八

●法例

第十六條
○日本居住ノ米人夫婦ノ離婚ト準據法……一八

第二十條
○日本居住ノ米國ニユーヨータ州人ノ親子關係ト準據法……二〇

●共通法

第十四條
○關東州ニ於ケル犯罪ヲ內地ニ於テ處罰スル場合ノ適用法律……二〇

●日淸通商航海條約

第二十二條
○安東縣ニ於ケル帝國臣民ノ關稅逋脫ト領事裁判權……二一

●請願令
第十一條
○裁判所ニ對スル請願ノ能否……三三

●裁判所構成法
第二條
○耕地整理組合費ト裁判管轄……二五
○水道撤去請求ト裁判管轄……二五
○醫師會ノ決議ニ依ル制裁ト裁判管轄……二六
○他人ニ對スル行政處分ニ依ル私權ノ侵害ト裁判管轄……二七
○私法上ノ權利ニ關スル爭ニ附隨シ寺院住職任免ノ當否判斷ト裁判管轄……二八
第二十二條
○地方裁判所支部ノ管轄權……二八
○地方裁判所ノ事務分配……二九
第五十條
○地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告裁判所……三〇

●辯護士法
第十四條
○辯護士法一四條一號違反ト訴訟行爲ノ效力……三一
○參加人ノ辯護ト相手方ノ辯護引受……三一
○原告代理人タル辯護士ハ當事者參加人ノ代理人タルコトヲ得ス……三二
第二十六條
○辯護士ノ成功報酬ト慣習……三四
○辯護士ノ成功報酬ト相當額ノ認定……三四
○辯護士ノ成功謝金算出ノ標準……三五
○不動產所有權ノ喪失ヲ免レタル場合ト報酬……三六
○公訴提起前ノ辯護委任ト不起訴ノ場合ノ謝金……三七

第百四條
○裁判長ノ審理終結權……三一
○被告人ノ發言ノ不許可ト裁判長ノ指揮……三一
○傍聽人ノ混雜整理ト裁判長ノ指揮……三二

●公證人法
第三十九條
○公正證書讀聞ケノ方法……四二

●司法代書人法
第九條
○司法代書人法九條違反ト刑法一五三條ノ業務……四二

●代書人規則
第十七條
○代書人ノ司法代書人ノ業務ト處罰……四三

●行政裁判法
第二十二條
○出訴期間ノ始期認定……四三
第二十七條
○縣令ニ依ル許可期間ヲ經過セル流木權ト行政訴訟……四四
○自動車運轉手ノ免許ノ取消ト行政訴訟……四四

●明治二三年法律一〇六號
○自動車運轉手ノ免許ト營業ノ免許……四五

●訴願法
第二條
○町村長ヲ經由セサル農會費督促處分ニ對スル訴願……四五

●府縣制
第二十七條

○「どん」ト他事記入……四六
○獨逸字ヲ以テ記載シタル投票ノ效力……四六
第三十五條
○違法ノ選擧人名簿ト選擧ノ效力……四七

●地方官官制

第六條
○大正九年宮城縣令七二號ト地方長官ノ府縣令發布權限……四八

●市　制

第百三十二條
○東京市佛貨公債事件判決……四九

●都市計畫法

第大條

○風致地區ノ指定ト道路ノ受益者……四九
○受益者負擔額算定ノ基礎……五〇
○道路修築ノ受益者……五一
第十二條
○都市計畫法施行ニヨル減坪ト民法六一一條ニヨル賃料減額……五一
第二十條
○地上物件ノ收用請求ト都市計畫法二〇條……五二

●特別都市計畫法

第六條
○土地區劃整理ノ換地處分ニ基ク建物ノ移轉ト其ノ同一性……五三

●市街地建築物法

第七條
○建築線ノ指定ト工事施行無キコトノ認定……五四

●町村制

第八條
○村會議員辭職理由ノ當否……五五
第二十五條
○文字ニ非サル通稱ノ記載ト投票ノ效力……五六
第四十五條
○議長ノ任意退場ト助役ノ議事續行ニ依ル町村長選擧ノ效力……五七
第四十七條
○小學校建築請負代金並小學校教員俸給支拂ト急施ヲ要スル場合……五八
第六十三條
○町村長選擧ノ手續……五九
第六十九條
○町村ノ委員ノ就任時期……六〇
第七十一條
○町村會ノ書記ト町村制七一條ノ有給吏員……六〇
第七十二條
○同一村內ニ於ケル兩個ノ部落間ノ訴訟ト其ノ代表……六〇
○町村長ノ町村有ノ物ノ占有保管ト業務……六一
第七十九條
○小學校ノ建築工事ト町村助役ノ職務……六一
第八十條
○收入役ニ非ル者ノ金員受領ト町村ノ貸借……六一
第八十七條
○町村會ノ書記ノ報酬請求……六二
第九十八條
○三ケ月以上滯在ナキ認定……六三

●市制町村制施行令

第三十三條
○市町村吏員ニ對スル損害賠償ト相續人……六四

●特許法

第一條
○合金鋼ト發明ノ新規……六四
○蓄電器型絕緣套管ノ作成ニ使用スル含侵劑ト發明ノ新規……六五
○公知ノ操作ノ組合セト發明ノ新規……六七

○作用效果ノ差異ト發明ノ新規……六七
○內燃機關ト發明ノ新規……六八
第四條
○鑛石還元法ト公知……六九
○實用新案權ト特許權ノ牴觸ト特許法上ノ公知……七〇
○硝子面ノ美化ト刊行物ノ記載……七一
○特許ノ類似認定……七一
第二十七條
○商標權ノ承繼ト審判手續ノ效力……七二
第二十八條
○實用新案權利範圍確認事件繫屬中ノ權利ノ移轉ト當事者適格……七三

●實用新案法

第一條
○同一ノ效果ト新規ノ型……七四
○同一ノ效果ト構造ノ微差ト新規ノ型……七五
○相異ナル效果ト新規ノ型(其一)……七五
○同　上　(其二)……七六
○外形的考案ノ差異ト新規ノ型……七六
○業界ニ待望サレタル考案ト新規ノ型……七七
○實用新案ノ工程及型ノ新規ノ關係……七八
第三條
○應用實施容易ナル構造上ノ微差ト新規ノ型……七九
○公知ノモノヨリ容易ニ案出セラルル實用新案類似……八〇
○裝髮具ト實用新案ノ類似認定……八一
○刊行物ノ記載ヲ基礎トスル意思ナキ場合ノ類似ト實用新案類似認定……八二
第七條
○實用新案實施權所有ト權利取得事實ノ立證責任……八三
第二十二條
○實用新案權利範圍確認ノ請求ト其ノ時期……八四
第二十六條
○實用新案權利範圍確認事件繫屬中ノ權利ノ移轉ト當事者……八四

●實用新案法施行規則

第二條
○實用新案登錄願ノ說明書ト權利範圍……八五
○實用新案登錄願ノ說明書並圖面ト權利範圍……八六

●意匠法

第三條
○赤飯ニ南天ノ葉ト意匠類似……八六
第九條
○チヨコレートト菓子ト意匠ノ實施權……八七

●商標法

第一條
○Calnitro ト特別顯著性……八八
○天德泉ト特別顯著性……八九
○特別顯著性ヲ失ヘルモノト商標トシテノ價値……九一
第二條
○稱呼ノミノ類似ト商標類似……九一
○稱呼觀念外觀ト商標類似……九二
○稱呼ノミ混同シ易キ場合ト商標類似……九三
○花櫻及山櫻ト商標類似……九三
○ライオン及武者ライオントト商標類似……九四
○ジラフ及麒麟ト商標類似……九四
○混同シ易キ稱呼及全ク異ナル圖形ト商標類似……九五
第十二條
○聯合商標ノ讓渡……九六
第十九條
○「うどんの友」及「風藥うどんの友」ト商標法一五條ノ附記……九七
第二十四條
○商標權ノ承繼ト審判手續ノ效力……九七
第三十四條
○商標權侵害ト重大ナル事實誤認……九七
○他人ノ商標ニ類似スル商標權使用ト犯罪ノ成立……一〇〇

●著作權法

第一條

○音樂ノ範圍ニ屬スル著作物ト著作權ノ客體……101
第七條
第二十一條
○著作物ノ飜譯權ノ消滅……101
○著作者ヨリ許諾ヲ得タル飜譯者ト飜譯權ノ侵害……101
第二十二條
○夢ノ樂譜ト適法ナル著作物ノ複製……104

●出版法

第三條
○「ビラ」ト出版法三條ノ文書圖畫……110
○電柱ニ貼付ト出版物ノ發行……110
第五條
○委員制度ノ青年會ノ出版物ト屆出……111
第九條
○「ビラ」ト引札……111

●新聞紙法

第一條
○新聞紙法ノ著作物ト定期不定期刊行物タルコトノ表示……113
第十九條
○新聞紙法ト記事差止ノ告知方法……113
○檢事ノ記事差止ノ範圍……113
○公開ヲ禁セサリシ辯論ノ朝憲紊亂記事ト新聞紙法違反……114
第三十八條
○新聞紙法違反ト判示ノ適否……114
第四十一條
○愛國思想ニ基ク安寧秩序ノ紊亂……114
第四十二條
○公開ヲ禁セサリシ辯論ノ朝憲紊亂記事ト新聞紙法違反……115
○帝國議會否認ノ記事ト朝憲紊亂……117
第四十五條
○辯護士ノ訴訟行爲ト新聞紙法ノ私行……117

●醫師法

第十一條
○診察治療ノ內一方ノミノ行爲ト醫業……119
○鍼灸術營業者ト醫師法違反……120
○柔道教師ノ免許鑑札ヲ有セサル者ノ柔道整復術營業ト醫師法違反……121
○紅療法ト醫師法違反……121

●醫師會令

第二十二條
○定足ヲ缺キ會員ニ辯明ノ機會ヲ與ヘサル醫師會ノ懲戒議決ノ適否……123
第二十三條
○相互診療組合ノ醫師ト醫師會々則ノ藥價診察料……124
第二十四條
○醫師會ノ決議ニ依ル制裁ト裁判管轄……126
第二十九條
○行政區劃ノ變更ニ依リ消滅シタル醫師會ト財產處分ノ目的ノ範圍內ニ於ケル存續……127

●齒科醫師法

第十一條
○金冠義齒ノ施工ト齒科醫術ノ範圍……127

●藥劑師法

第九條
○醫師ノ電話處分ニ依ル調劑ト藥劑師法違反……128
○醫師ノ電話處分ニ依ル調劑ノ藥劑師法違反ト重大ナル事實誤認……129

●按摩術營業取締規則

○柔道教師ニ非サル者ト按摩術營業取締規

則違反……二九
○按摩術營業取締規則違反ト重大ナル事實誤認……一三〇

●大阪府令理髮營業取締規則

第五條
○理髮用器具ト消毒……一三一

●古物商取締法

第二十一條
○古物商取締法違反ト併合罪……一三二

●北海道廳令紹介營業取締規則

第十二條
○北海道廳令紹介營業取締規則一二條六號ノ趣旨……一三二

●飲食物防腐劑漂白劑取締規則

第一條
○硼酸ノ合成物ト飲食物防腐劑漂白劑取締規則……一三三

●懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方

○「オツチヨコチヨイ」ト懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲……一三三

●國有林野法

第五條
○行政廳ノ國有林境界査定處分ノ效力……一二四

●土地收用法

○土地所有者ノ起業者ニ對スル土地返還請求……一二五
第十二條
○內務大臣ノ認定ト土地收用ノ範圍……一二五
第二十二條
○起業者ト土地所有者トノ間ノ所有權取得ニ關スル契約ノ性質……一二六
○土地收用法上ノ協議ト民法ノ適用……一二七
○地上物件ノ收用請求ト都市計畫法二〇條……一二八
第二十五條
○收用時期調書ノ收用時期ノ誤記ト收用手續ノ效力……一二八
第三十五條
○都市計畫ニ於ケル地上物件收用請求ト收用審査會ノ裁決……一二九
第四十一條
○收用土地ノ區域ト收用審査會ノ裁決……一三九
第四十八條
○土地收用ニ依ル損失補償額決定ノ標準……一四〇
○土地收用ト地番ヲ異ニシテ一團ヲ爲ス土地ノ評價……一四〇
第四十九條
第五十一條
第五十三條
○地上物件移轉料ノ補償額ノ算定……一四一
第六十六條
○土地收用ニ於ケル買戻契約ノ性質……一四二
○買戻權ノ消滅……一四五
第八十二條
○縣道收用土地ノ補償金額ニ對スル不服ノ訴ト相手方……一四六

●道路法

第十七條
○舊郡道ノ管理者……一四六

第二十八條
○道路占有許可ト占用料徴收ノ時期……一四七
●道路工事執行令
第六條
○贈賄ト請負ニ關スル不正行爲……一四八
○実質上ノ請負人ノ不正ト名義人ノ責任……一四八
●東京都市計畫事業道路受益者負擔ニ關スル件
第四條
○道路修築ニ依ル受益者負擔額ノ算定ノ基礎……一四九
●耕地整理法
第十七條
○不法占有ト耕地整理法一七條……一五〇
第十九條
○換地處分ニ依ル坪數ノ減少ト借賃ノ減額……一五〇
第六十一條
○金額ノ表決ナキ耕地整理組合ノ豫算決定ノ效力……一五一
第七十八條
○耕地整理ニ因ル土地ノ減歩ト危險負擔者……一五二
●河川法
第三條
○河川法三條ト流木權……一五二
第十六條
○流木權ト警察行政上ノ認可及許可……一五二
第二十一條
○地方行政廳ノ許可ナキ流水占用權讓渡ノ效力……一五三
第六十條
○縣令ニ依ル許可期間經過セル流木權ト行政訴訟……一五四
○流木ニ關スル河水使用權侵害ノ有無……一五四
●森林法
第八十四條
○森林窃盜ト他人ヲ雇使スルノ意義……一五五
○森林法八四條各號ノ罪ト罰金ノ額……一五六
○慣例ノ誤信ニ依ル森林伐採ト重大ナル事實誤認……一五六
●漁業法
第七條
○漁業原簿ノ中間登錄省略ト當事者ノ合意……一五六
第十六條
○更新前ノ漁業權ニ對スル假處分ト更新後ノ效力……一五七
第五十八條
○免許時期以外ノ漁業ト適用法條……一五七
第六十條
○親告罪告訴提起前ノ捜査ノ適否……一五八
●機船底曳網漁業取締規則
第一條
○地曳網ト機船底曳網漁業取締規則……一五八
●漁業登錄令
第二條
○假漁業權者ヲ定ムル假處分ト假登記……一五九
●海上衝突豫防法
第二十七條
○船舶ノ「臨機ノ處置ヲ爲シ得ル場合」……一六〇

●郵便法……
第七條
○私人ノ所有物タル郵便專用ノ物件……一六一
第二十三條
○郵便物受領拒絶ニ依ル押收物ト還付……一六一

●郵便規則
第四十八條
○配達證明書ノ公信力……一六一

●簡易生命保險法
第四條
○簡易生命保險ノ制限超過契約ト其效力……一六二

●遞信省徽章通信日附印及郵便切手類模造取締規則
○郵便切手ノ模樣ノ類似カ意匠圖案ノ一部ニ過キサル郵便切手等類似ノ意匠……一六三

●電氣事業法
第三條
○電氣事業法ノ許可ト電氣鐵道會社ノ設立要件……一六三
舊第十九條
○料金不拂ノ爲電力供給ヲ停止サレタル場合ノ電氣工作物施設變更ト處罰……一六四

●電話規則
第四十五條
○電話規則四五條ノ解釋……一六五
○電話名義變更ノ效力……一六六
第四十六條
○名義繼承手續ヲ履踐セサル場合ノ電話加入權ニ對スル假處分ノ效力……一六六

●電話至急開通規則
第十六條
○電話加入權讓渡禁止期間中ノ差押ト加入名義變更……一六七

●度量衡法
第六條
○管轄地外ノ支店ト度量衡販賣ノ免許……一六八

●寺院及佛堂參拜觀料並寄附金募集ニ關スル取締方
第三條
○寺院ノ寄附募集行爲……一六九

●產業組合法
第五條
○利息制限法二條ハ產業組合ニ適用アリ……一七〇
第十六條ノ三
○產業組合監事ノ退任ト屆出……一七一
第二十五條
○理事及監事ト一方的意思表示ニ依ル辭任……一七一
第二十八條
○總組合員數ノ算定……一七二
第三十五條
○產業組合ト理事トノ契約……一七二
第五十三條
○信用組合脫退ト持分ノ拂戻……一七三
第五十七條
○信用組合脫退ト出資義務……一七三
第六十一條
○辭任シタル理事及監事ト州知事ノ選擧命令……一七四
第九十三條
○產業組合員ニ非サル者ニ對スル貸付ノ效力……一七四

●重要物産同業組合法
第十條
○取引上ノ債務不履行ト重要物産同業組合法一〇條二項違反……一七五

●畜産組合法
第十七條
第二十六條
第二十七條
○畜産組合ノ金錢貸借並抵當權設定契約有效ノ認定……一七六

●水利組合法
第四十七條
○組合ニ必要ナル費用ト犯罪者ノ差入費用及辯護料……一八〇

●商工會議所法
第十四條
○外國無線電信受信所ト營業場……一八一

●取引所法
第二十五條
○大阪堂島米穀取引所清算取引ノ即日落小口落ノ法律關係……一八三

●銀行法
○銀行預金債權讓渡禁止契約ト預金契約解除ニヨル返還請求權讓渡……一八三
第十八條
○休日ノ銀行取引ノ效力……一八四

●無盡業法
第十一條
○無盡會社取締役就任前ノ會社ノ債務ト責任……一八五
○無盡會社ノ掛金者ニ對スル債務發生時期……一八五

●有價證券割賦販賣業法
第一條
○有價證券割賦販賣業ノ意義……一八五

●自動車取締令
第三十七條
○自動車運轉手ノ免許ノ取消ト行政訴訟……一八六

●恩給法
第十一條
○債務辨濟ニ至ル迄恩給受領委任契約ヲ解除セサル特約ノ效力……一八七
○債權ト共ニ擔保恩給證書讓渡ノ特約ノ效力……一八七
○恩給證書擔保ト詐欺罪……一八八
○金鵄勳章年金受領委任ト委任解除禁止ノ特約ノ效力……一八八
第十二條
○軍人增加恩給ノ請求ト恩給局長ノ權限……一八八

●金鵄勳章年金ニ關スル法律
○金鵄勳章年金受領委任ト委任解除禁止ノ特約ノ效力……一八九

●國稅徵收法
第三條
○國稅滯納處分ト抵當權實行……一九〇
第十二條

○差押物ヲ以テ督促手數料等ヲ充當シ得サル場合ト滯納處分ノ能否……一九一

●印紙稅法

第四條
○受取書ノ內容ヲ有スル計算書ト印紙稅……一九二
○受取書ノ內容ヲ有スル仕切書ト印紙稅……一九四
第五條
○金額ノ記載ナキ物品切手ト印紙稅……一九四

●登錄稅法

第十七條
○登記官吏カ登錄稅代用預リ金ヲ費消シタル場合ノ被害者……一九六

●所得稅法

第四條
○法人ノ所得額並營業純益額ノ算定……一九六
○株式會社ノ錯誤ニ基ク配當ノ返還請求並減資ト所得額ノ算定……一九八
第十一條
○最後ノ事業年度ノ缺損額ト解散當時ノ積立金ノ算定……二〇〇
第二十一條ノニ
○繰越缺損金補塡ノ爲ノ留保金額ト所得稅法二一條ノ二……二〇一
第六十七條
○銀行預金ト所得稅ノ控除……二〇一

●營業收益稅法

第四條
○法人ノ所得額並營業純益額ノ算定……二〇一
第七條
○劇場ニ附屬スル賣店及家屋ト營業收益稅……二〇二
○物品販賣業ト營業場ノ設備……二〇二

●資本利子稅法

第十五條
○銀行預金ト資本利子稅ノ控除……二〇四

●關稅法

第七十五條
○安東縣ニ於ケル帝國臣民ノ關稅逋脫ト領事裁判權……二〇五
○輸入行爲ト關稅逋脫罪……二〇五
○關稅逋脫金額ト鑑定ノミニ依ル認定ノ適否……二〇六
第七十五條ノニ
○輸入行爲ノ幇助ト關稅逋脫罪ノ從犯……二〇六
第八十二條ノ四
○關稅逋脫行爲ノ從犯ト處罰……二〇六
第九十四條
○告發通告書ト稅關長ノ署名……二〇六

●酒精及酒精含有飲料稅法

第十五條
○納稅濟ノ酒精含有飲料ヲ原料トスル酒精含有飲料ト酒精及酒精含有飲料稅法違反……二〇七

●地方稅ニ關スル法律

第一條
○無效ナル金錢貸借契約ト貸金額ノ算定……二〇八
○債權ノ時效ト貸金額ノ算定……二〇八
第九條
○家屋賃貸價格ノ意義……二〇八
○ガード下ノ建造物ト家屋稅……二〇九
第十九條
○不動產競賣ニ於ケル鑑定價格ト不動產取得稅ノ時價……二〇九
○ガード下ノ建造物ト不動產取得稅……二一〇

●東京府市部府稅賦課規則
第十二條ノ五
第十五條
○ガード下ノ建造物ト家屋稅並不動產取得稅……二一〇

諸法

憲法

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

●傍聽人ノ混雜整理ト公判公開　公開停止以前公判開廷ニ際シ傍聽券ヲ交付シ其ノ所持者ノミヲ入廷セシメ以テ傍聽人ノ混雜ヲ防キ其ノ整理ヲ爲スカ如キハ裁判長ニ屬スル法廷秩序維持ノ行使ニ過キサルヲ以テ縱令原審ニ於テ傍聽券ヲ發行シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ公判公開ノ原則ヲ蹂躙シタルモノト爲スヲ得ス（大審院三刑、八年(れ)三四三號、治安維持法違反被告事件、八年九月六日判決、法律新聞三六一八號一一頁）

●公判公開ト公判調書ノ記載（刑訴六〇條同項參照）

衆議院議員選擧法

第四章　選擧、投票及投票所

第三十九條　何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

●詐僞投票ト被投票者ノ氏名

衆議院議員選擧法第百二十七條第二項ノ詐僞投票罪ニ於テ同法第三十九條ニ依レハ何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スル義務ナキカ故ニ判決ニ於テ投票サレタル者ノ氏名ヲ判示スルノ要ナシ（衆選法一二七條「詐僞ニ因ル投票教唆ト被投票者」參照）　（大審院三刑、七年（れ）一四三一號、町會議員選擧罰則違反被告事件、七年一二月二一日判決、法律新聞三五三四號一五頁）

第十章　選擧運動

第八十九條　選擧事務長ニ非サレハ選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委員又ハ選擧事務員ヲ選任スルコトヲ得ス

選擧事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選擧委員又ハ選擧事務員ハ文書ヲ以テ選擧事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧委員又ハ選擧事務員ハ文書ヲ以テ選擧事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選擧事務長選擧事務所ヲ設置シ又ハ選擧委員若ハ選擧事務員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前條第五項ノ届出アリタル警察官署ニ届出ツヘシ選擧事務所又ハ選擧委員若ハ選擧事務員ニ異動アリタルトキ亦同シ

●選擧事務所ノ意義

府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用サルル衆議院議員選擧法第八十九條第一項ニ所謂選擧事務所トハ選擧運動ニ關スル事務ヲ取扱フ一切ノ場所的設備ノ謂ナリト解スヘキモノトス原判決ニ依レハ被告人太三郎ハ昭和六年九月二十四日施行セラレタル石川縣々會議員選擧ニ際シ選擧人タリシモノニシテ議員候補者江川爲信ノ爲選擧運動ニ從事シ原審相被告人新田義明ト共謀ノ上同年九月十二日頃ヨリ同月二十四日頃ニ至ル迄ノ間石川縣石川郡鶴來町鶴來政友青年倶樂部内ニ右候補者ノ選擧事務所ヲ擅ニ設置シタリト云フニ在リテ該選擧事務所設置ノ事實ハ原判決ニ擧示セル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク又被告人ニハ該事務所ヲ設置スル意思アリ且該場所ハ選擧事務所ナリトノ認識モアリシコトヲ認メ得ヘシ尤モ右場所ハ元來政治的團體タル鶴來政友倶樂部ニ使用サレアリシハ事實ナルヘシト雖本件選擧ニ際シ被告人等ハ候補者江川爲信ノ爲ニ選擧事務ヲ取扱フ場所ヲ其ノ中ニ設置シタルモノナルコト判文上之ヲ推知スルヲ得　（大審院三刑、七年（れ）一三八三號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、七年一二月二一日判決、法律新聞三五三五號八頁）

●投票取纏ノ依頼ト選擧事務員ノ選任

選擧委員又ハ選擧事務員ノ資格ノ發生ハ選擧事務長ノ選任ノミニ因リ效力ヲ生シ警察署ニ對スル届出ハ選擧運動ヲ爲スコトノ要件ニ非サルコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリト雖選擧事務員ノ選任ト投票取纏ノ依頼トハ兩者別個ノ觀念ニ屬スルヲ以テ假令選擧事務長カ投票取纏ノ依頼ヲ爲シタレハトテ選擧事務員ノ選任ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス　（大審院三刑、八年（れ）六三一號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、八年七月五日判決、法律新聞三五九九號八頁）

第九十六條　議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サレハ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ハ此ノ限ニ在ラス

●選擧監視ト特定候補者ノ爲ノ選擧運動

政黨カ自派ニ對スル官憲ノ干涉壓迫ヲ防ク爲人ヲ使役シテ之カ監視ヲ爲サシメタリトスルモ右カ特定ノ議員候補者ノ當選ヲ庶幾スル目的ヲ以テ爲サレサル限リ其ノ監視行爲ヲ以テ選擧運動ナリト做スヘカラサルヤ明ナリ然レトモ特定ノ議員候補者ノ當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ニ對スル官憲ノ行動ヲ監視シ其ノ干涉壓迫ヲ警戒スルノ行爲ハ議員候補者ノ當選ヲ斡旋スル行爲ニ外ナラサレハ之ヲ目シテ議員候補者ノ爲ニスル選擧運動ナリト解スルハ正當ナリ（衆選法一一二條同項參照）（大審院一刑、七年（れ）一八三號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年三月六日判決、法律新聞三五八三號七頁）

●投票並選擧運動ノ報酬周旋行爲ト選擧運動

議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ他人間ニ授受セラルル投票並ニ選擧運動ノ報酬ヲ周旋スルノ行爲カ候補者ノ當選ヲ斡旋スル行爲ノ一ニ屬シ從テ選擧運動タルコト論ヲ俟タサルトコロナリト謂フヘシ（大審院一刑、八年（れ）一七七號、府會議員選擧罰則違反被告事件、八年四月一〇日判決、法律新聞三五八一號一八頁）

●推薦狀ノ原稿作成ト選擧運動

特定候補者ニ投票ヲ得又ハ之ヲ得シムルノ目的ヲ以テ他人ヨリ委託セラレテ推薦狀ノ原稿ヲ作成スルカ如キハ選擧ニ關シ單純ナル機械的勞務ニ服スルモノト云フヘカラサルノミナラス特定候補者ノ選擧運動ヲ有利ニ展開セシメ得ルモノナルヲ以テ是亦一種ノ選擧運動ニシテ之ヲ委託セラレタル者ハ選擧運動者ナリト云ハサルヘカラス（大審院三刑　七年（れ）八八三號、衆議院議員選擧法違反被告事件、法律新聞三五三七號一一頁）

●無資格運動者ノ選擧運動ト想像的競合罪（其一）（其二）（其三）參照）

●無資格運動者ノ買收行爲ト想像的競合罪（刑法五四條同項（其一）（其二）（其三）參照）

●衆選法九六條一二九條及一一二條ト連續犯（刑法五五條同項參照）

●選擧ニ關係アル官吏吏員ノ關係區域內ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪（刑法五四條同項參照）

第九十八條　何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戶別訪問ヲ爲スコトヲ得何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選擧人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

●投票ヲ得ルヲ目的トセサル場合ト個々面接罪

衆議院議員選擧法第九十八條第二項ニ所謂個々面接シ其ノ目的ハ投票ヲ得又ハ得シメサルニ在ルヲ以テ若シ其ノ被面接者ハ選擧人タリトスルモ其ノ者ヨリ投票ヲ得又ハ得シメサル目的ニアラサルトキハ同條ニ違反セサルモノニシテ其ノ被面接者ニ選擧運動ヲ依頼シタルニ止マルトキハ其ノ選擧運動ナルモノハ結局ノ目的ニ於テ投票ヲ得又ハ得シメサルニアリトスルモ還ハ他ノ選擧人ニ對スル關係トナリ被面接者ヨリ投票ヲ得又ハ得シメサルニアラサルヲ以テ右法條ノ正面ニ該當セサルモノトス（大審院二刑、七年（れ）一〇五〇號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、七年一〇月二〇日判決、大審院裁判例六卷刑事四〇頁）

第九十九條　選擧權ヲ有セサル者ハ選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ト爲ルコトヲ得ス

選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選擧運動ヲ爲スコトヲ得ス

●選擧ニ關係アル官吏吏員ノ關係區域内ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪（刑法五四條同項參照）

第十一章　選擧運動ノ費用

第百一條　立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選擧運動ノ費用ハ選擧事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選擧委員又ハ選擧事務員ハ選擧事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非サル者ハ選擧運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選擧運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

●不法ナル選擧運動費ト選擧運動ノ費用

衆議院議員選擧法第百一條第一項選擧運動ノ費用ハ選擧事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者選擧委員又ハ選擧事務員ハ選擧事務長ノ承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケストノ規定ハ一面ニ於テ選擧事務長等ニ之カ支出ヲ爲スノ權能ヲ附與スルモノナレハ右所謂選擧ノ費用ニハ不法ナル選擧運動報酬ノ如キハ之ヲ包含スルモノニ非スト解セサルヘカラス然レハ同條ノ選擧費用トハ適法ノ選擧運動ニ付當然要スルトコロノ費用ヲ指稱スルモノト謂フヘク原判決ノ認定事實ハ前點ニ於テ說示スルカ如クニシテ被告人ノ供與シタル金員ハ全部違法性ヲ帶有スルモノニシテ之ヲ以テ選擧ノ費用ナリト謂フヘキニ非ス（大審院四刑、八年(れ)一二號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年三月一七日判決、法律新聞三五七四號一七頁）

第十二章　罰則

第百十二條　左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ饗應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二　當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三　投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選擧運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ第一號ニ揭クル行爲ヲ爲シタルトキ

四　第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五　前各號ニ揭クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

●選擧運動報酬供與罪成立ノ時期

被告人惠作ハ原判決判示第一ノ（二）ノ如ク第一審相被告人堀直治郎ニ對シ判示候補者ノ爲判示區内選擧人ノ投票買收方ヲ依頼シ其ノ選擧運動報酬ヲ包含スル投票買收費トシテ金二十五圓ヲ供與シタル事實ハ原判決ニ引用セル證據ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘシ然レハ堀直治郎カ判示第一ノ（一）ノ被告人惠作ヨリ相被告人土浦岩吉ニ交付シタル金三百六十圓ノ中ヨリ二十五圓ヲ受取ルヘキ處未タ交付ヲ受ケサルニヨリ岩吉ヨリ交付ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ返還スヘキ條件ノ下ニ授受シタルモノナリトスルモ犯罪ノ成立ニ消長ヲ來タスモノニ非ス蓋シ土浦岩吉ヨリ交付ヲ受ケ居リテハ間ニ合ハサル爲被告人惠作ヨリ判示趣旨ノ下ニ供與シタルモノナルカ故ニ其ノ時ニ於テ犯罪成立スルノミナラス土浦岩吉ヨリ交付ヲ受クルコトハ將來且未必ノ事ニ係ルハ勿論縱令交付ヲ受ケ之ヲ被告人惠作ニ返還スルコトトナルモ一旦成立セル犯罪ノ消滅ヲ來タスモノニ非サレハナリ　（大審院二刑、八年(れ)九七八號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年七月二〇日判決、法律新聞三六一一號一四頁）

●利益供與罪ト選擧運動ノ決意或ハ其ノ變更

苟モ衆議院議員選擧ニ關シ特定ノ候補者ノ當選ヲ得シメ又ハ選擧人又ハ選擧運動者ニ對シ財産上ノ利益ヲ供與シ若ハ選擧人又ハ選擧運動者カ其ノ供與ヲ受ケタル以上衆議院議員選擧法第百十二條第一號又ハ第四號ノ犯罪ヲ構成スヘク同號ノ犯罪ノ成立ニハ利益ノ供與ヲ受クル者ニ於テ該供與ニ因リ特定ノ候補者ノ爲投票又ハ選擧運動ヲ爲スコトヲ決意シ若ハ其ノ決意ヲ變更シタルコトヲ必要トスルモノニ非ス　（大審院二刑、八年(れ)七七八號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年六月二二日判決、法律新聞三六〇七號一四頁）

●自派ノ爲ニ選擧運動ヲ中止シタル報酬ト衆選法一一二條三號

衆議院議員選擧法第百十二條第三號ニハ單ニ選擧運動ヲ爲シ若クハ止メタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選擧運動者ニ對シ第一號ニ揭ケタル行爲ヲ爲シタルトキト規定シ選擧運動カ自派ノ爲ナルト他派ノ爲ナルトニ付何等區別スルトコロナキヲ以テ縱令自派ノ爲ノ選擧運動ヲ止メタル場合ト雖之ニ包含セラルルモノト解セサルヘカラス　（大審院四刑、七年(れ)一三三六號、衆議院議員選擧法違反被告事件、七年一一月二二日判決、法律新聞三五一五號一七頁）

●衆選法一一二條四號ト當選ニ關スル目的ノ意思

衆議院議員選擧法第百十二條第一號所揭ノ犯罪ノ成立スルニ付當選ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメサル目的アルコトヲ要スルハ論ヲ俟タサル所ナリト雖同條第四號所揭ノ犯罪ニ在リテハ情ヲ知リテ如上ノ目的ヲ以テ爲サルル金品等ノ供與饗應接待ヲ受ケ若クハ要求シ又ハ金品供與等ノ申込ヲ承諾スルニ依リテ直ニ成立シ敢テ其ノ供與饗應接待ヲ受ケ若クハ要求シ又ハ供與ノ申込ヲ承諾スル者ニ於テ當選ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメサルノ目的意思アルコトヲ要セサルモノト解スルヲ相當トス　（大審院三刑、八年(れ)二七一號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年五月一三日判決、法律新聞三五六八號七頁）

●特定候補者ノ爲ノ選擧監視ト選擧運動

政黨カ自派ニ對スル官憲ノ干渉壓迫ヲ防ク爲人ヲ使役シテ之カ監視ヲ爲サシメタリトスルモ右カ特定ノ議員候補者ノ當選ヲ庶幾スル目的ヲ以テ爲サレサル限リ其ノ監視行爲ヲ以テ選擧運動ナリト做スヘカラサルヤ明ナリ然レトモ特定ノ議員候補者ノ當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ニ對スル官憲ノ行動ヲ監視シ其ノ干渉壓迫ヲ警戒スルノ行爲ハ議員候補者ノ當選ヲ

斡旋スル行爲ニ外ナラサレハ之ヲ目シテ議員候補者ノ爲ニスル選擧運動ナリト解スルハ正當ナリ（大審院一刑、七年(れ)一八三三號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年三月六日判決、法律新聞三五八三號七頁）

●**衆選法一一二條四號ト選擧ノ前後**

法定ノ選擧運動者ニ非サル選擧人カ特定ノ議員候補者ノ爲投票方及選擧運動方ヲ依頼セラレ其ノ投票運動ヲ爲シタル後之カ報酬ヲ受ケタルトキハ府縣制第四十條ニヨリ準用サルヘキ衆議院議員選擧法第百十二條第四號ノ罪ト同第九十六條及第百二十九條ノ罪トノ想像的競合罪ヲ構成スルモノトス蓋同法カ豫メ利ヲ以テ選擧人又ハ選擧運動者ヲ誘フノ行爲ヲ同法第百十二條第一號ニ規定シ事後ニ於テ此等ノ者ニ報酬ヲ與フル行爲ヲ同條第三號ニ規定シ又以上ノ利益ヲ受ケ又ハ求ムル行爲ヲ同條第四號ニ併セ規定シアルカ故ニ右第四號ノ規定ハ選擧ノ前後ヲ問ハサル趣旨ナルコト明ナレハナリ而シテ叙上報酬トシテ受ケタル金員カ選擧運動ノ失費ヲ償フカ爲ナリトスルモ右法條ノ處罰ヲ免レサルコト言ヲ俟タス（大審院三刑、七年(れ)三〇七號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、七年五月一八日決定、大審院裁判例六卷刑事二〇頁）

●**選擧運動分擔區域ノ變更ニ依ル割當金額ノ授受ト衆選法一一二條**

活動ノ便宜上相被告人福太郎分擔區域ノ一部ヲ被告人岩吉ニ於テ擔當スルコトト爲シ其ノ結果トシテ割當金額ノ授受ヲ爲シタルモノトスルモ該金員ノ性質カ判示ノ如クナル以上衆議院議員選擧法第百十二條第四號ノ犯罪成立スルハ勿論ニシテ本罪ハ直接選擧事務員ヨリ報酬ヲ授與シタル行爲トハ一個ノ行爲タル關係ナキコトハ日時ヲ異ニスル點ヨリ見ルモ明ナリ（大審院二刑、八年(れ)九七八號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年七月二〇日判決、法律新聞三六一一號一四頁）

●**投票買收費ト選擧運動費ヲ區別セサル判示ノ適否**

府縣制第四十條ニ依リ準用サルル衆議院議員選擧法第百十二條第四號ハ投票買收費ト選擧運動報酬トニヨリ構成條件ヲ區別セサルヲ以テ同號違反ノ判決ニ於テ此ノ兩者ヲ併セ供與ヲ受ケタル罪ノ判示トシテ之カ區別ヲ爲ササルモ必スシモ理由不備ノ違法アリト云フコト能ハサルト同時ニ原審カ其ノ審理ニ際シ之ヲ區別セサルモノアリトスルモ之ヲ目シテ審理不盡ノ違法アリト云フヘカラス（大審院三刑、八年(れ)一一五號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、八年四月一五日判決、法律新聞三五五八號一一頁）

●**選擧委員ノ供與金額協定ノ參與ト周旋行爲**

縣會議員選擧ニ際シ選擧委員カ議員候補者ニ於テ自ラ當選ヲ得ル目的ヲ以テ他ノ選擧委員ニ對シ其ノ選擧區內ノ選擧人ノ投票取纏買收饗應費並ニ右委員其他ノ選擧運動者ニ對スル運動報酬等ヲ供與スルニ當リ其ノ金額ノ協定ニ付關與折衝シタルトキハ即チ斡旋盡力ヲ爲シタルモノニシテ府縣制第四十條ニヨリ準用サルル衆議院議員選擧法第百十二條第五號ニ所謂周旋ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス（大審院三刑、八年(れ)一七九號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、八年四月二六日判決、法律新聞三五五五號一六頁）

●**衆選法一一二條各號間ノ適用ノ誤ト判決ノ效力**

原判決中被告人善次郎ニ付確定セル事實ハ昭和七年一月二十五日施行セラレタル埼玉縣縣會議員選擧ニ際シ被告人善次郎ハ原審相被告人厚川周藏ヨリ同月十八日議員候補者野口訓三ニ當選ヲ得シムル趣旨ノ下ニ選擧運動報酬及投票買收費トシテ金七十圓及同月二十七日選擧運動報酬トシテ金十圓ノ各供與ヲ受ケタリト云フニ在ルカ故ニ原判決カ右所爲ニ對シ府縣制第四十條ニ

依リ準用サルル衆議院議員選擧法第百十二條第三號第一號ヲ適用シタルハ失當ナリト雖右第百十二條各號ハ何レモ選擧ノ公正ヲ害スル同一罪質ニシテ單ニ其ノ態樣ヲ異ニシ且刑ノ範圍ニ於テモ同一ナレハ右各號ノ適用ニ付縱シ誤アリトスルモ原判決ヲ被告人ノ利益ニ變更スル事由ト爲ラス（大審院三刑、八年(れ)一一五號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、八年四月一五日判決、法律新聞三五五八號一一頁）

●投票ヲ得ルコトヲ目的トセサル個々面接ト選擧運動費供與罪（衆選法九八條「投票ヲ得ルコトヲ目的トセサル場合ト個々面接罪」參照）

●不特定人ニ對スル金錢供與ノ謀議ト共同正犯（刑法六〇條同項參照）

●選擧運動費及報酬ノ不可分性（衆選法一一四條「包括的ニ授受サレタル選擧運動費並報酬ト沒收」（其一）（其二）參照）

●無資格運動者ノ買收行爲ト想像的競合罪（刑法五四條同項參照）

●無資格運動者ノ選擧運動ト想像的競合罪（其一）（其二）（其三）（刑法五四條同項（其一）（其二）參照）

●衆選法九六條一二九條及一一二條ト連續犯（刑法五五條同項參照）

●投票取纏依賴ノ選擧運動費供與罪（衆選法八九條「投票取纏ノ依賴ト選擧事務員ノ選任」參照）

●投票並選擧運動ノ報酬周旋行爲ト選擧運動（衆選法九六條同項參照）

第百十三條　左ノ各號ニ揭ケル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ

處ス（抄）

三　前二號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

●候補辭退ノ對價要求罪ノ法益

府縣制第四十條ニ依リ府縣會議員ノ選擧ニ付準用セラルル衆議院議員選擧法罰則第百十三條第三號ニ規定セル利益要求罪ハ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者又ハ當選人カ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムコトヲ中止シ又ハ當選ヲ辭退スルコトノ對價トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與又ハ饗應接待ヲ請求スルニ因リ成立スルモノトス而シテ同罰則ハ選擧ノ公正ヲ保持スル爲之ヲ侵害シ若ハ侵害スルノ虞アル行爲ヲ處罰スルノ趣旨ニ基キ制定セラレタルモノナレハ該要求行爲カ選擧ノ公正ヲ害スル虞アル以上ハ被要求者ノ何人タルヲ問ハス前示ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（大審院四刑、八年(れ)五〇四號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、八年六月六日判決、法律新聞三六〇〇號一一頁）

第百十四條　前二條ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

●包括的ニ授受サレタル選擧運動費並報酬ト沒收（其一）

選擧ニ關シ運動報酬及推薦狀費トシテ包括的ニ一定ノ金額ヲ授受シ其ノ兩者ノ割合ノ定ナキトキハ其ノ受領シタル金額全部ヲ沒收スヘキモノトス（大審院四刑、七年(れ)一三五六號、衆議院議員選擧法違反被告事件、七年一一月二九日判決、法律新聞三五一四號九頁）

●包括的ニ授受サレタル選擧運動費並報酬ト沒收（其二）

報酬ト運動費トヲ不可分的ニ包括シテ供與シ其ノ割合不明ナルトキハ其ノ金員全部ハ報酬ノ性質ヲモ具有スル結果其ノ金員全部ニ付衆議院議員選擧法第百十二條第一號所定ノ犯罪成立スヘク又其ノ情ヲ諒シテ之ヲ受ケタルモノハ其ノ金員全部ニ付同條第四號ノ犯罪成立スルモノトス然レハ右金額中選擧運動ノ爲ニ既ニ支出セラレタル實費ノ分ハ格別其ノ餘ハ同法第百十四條ニ所謂收受シタル利益ニ外ナラサレハ之ヲ沒收又ハ追徵スヘキモノトス　（大審院二刑、八年（れ）七三八號、衆議院議員選擧法違反被告事件、八年七月六日判決、法律新聞三五九八號七頁）

●選擧運動ノ供與金ト沒收並追徵額ノ算定

被告人カ供與ヲ受ケタル金員ノ沒收又ハ追徵ニ付案スルニ凡ソ選擧ニ關シ投票ノ買收等ヲ包含スル違法運動ヲ依賴シ一定ノ金圓ヲ供與シ其ノ他諸般ノ事情ニ依リ其ノ供與ノ趣旨必シモ一樣ナラス即チ或ハ運動者ニ對シ一定ノ投票ノ獲得ヲ請負ハシメテ其ノ方法ヲ運動者ニ一任シ苟モ一定ノ投票ヲ獲得スルヲ得ル以上授受シタル金圓ハ全部運動者ノ所得トスルコトヲ得スレハ選擧人ノ買收又ハ他ノ運動者ニ對スル報酬ノ供與等ヲ必至ノ勢ナリトシ從テ之ニ對シテ相當額ヲ支出スヘキコトヲ豫期シ其ノ殘額ヲ收得セシムル趣旨ニテ金圓ヲ供與スル場合アリ而シテ前者ノ如ク請負的關係ニ於テ金圓ノ供與アリタル場合ハ其ノ金圓ノ處置如何ニ拘ラス供與ヲ受ケタル金圓全部ニ付沒收又ハ追徵ヲ命スヘキモノナリト雖後者ノ如ク負擔附ニテ金圓ノ供與アリタル場合ハ其ノ負擔ノ趣旨ニ從ヒテ支出シタル金額ハ之ヲ控除シテ沒收又ハ追徵ノ關係ヲ定ムヘキモノトス　（大審院二刑、七年（れ）一一八號、縣會議員選擧罰則違反被告事件、七年五月二六日判決、大審院裁判例六卷刑事二一頁）

第百二十七條　選擧人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ僞造シ又ハ其ノ數ヲ增減シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

●詐僞ニ因ル投票教唆ト被投票者

被告人誠一郎ハ判示町會議員選擧ニ付立候補シタル被告人入澤吉治郎ニ對シ何人カヲシテ選擧當日轉居先不明ノ選擧人名義ヲ詐稱シテ當該投票所ニ入場セシメ入澤ニ投票セシムヘキ旨申向ケテ教唆シ被告人吉治郎ヲシテ原審相被告人山本智雄等ト共謀シテ夫々詐欺ノ方法ニ依ル投票ヲ爲サシメタリト云フニ在ルヲ以テ被教唆者ニ於テ其ノ教唆ニ基キ入澤ニ投票シタル場合ハ勿論假令他人ニ投票シタルトキト雖町村制第三十七條ニ依リ準用サルル衆議院議員選擧法第百二十七條第二項ノ罪ノ教唆罪ヲ構成スヘキモ、サルカ故ニ教唆シタル被告人誠一郎ハ被教唆者ニ對シ投票スヘキ者ヲ示唆スルト否トヲ分タス其ノ教唆ニ基キ實行シタル被告人吉治郎ノ行爲ニ隨伴シテ責ヲ負フヘキモノナレハナリ而シテ同法第三十九條ニ依レハ何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スル義務ナキカ故ニ判決ニ於テ投票サレタル者ノ氏名ヲ判示スルノ要ナキヲ以テ入澤ニ投票シタリトノ證據說示ヲ要セサルハ自明ノ理ナリ　（大審院三刑、七年（れ）一四三一號、町會議員選擧罰則違反被告事件、七年一二月二二日判決、法律新聞三五三四號一五頁）

●詐僞投票ノ敎唆ト意思（刑法六一條同項參照）
●想像的競合罪ニ於ケル從犯ノ刑ノ減刑（刑法五四條同項參照）

第百二十九條　第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

●投票ヲ得ルヲ目的トセサル場合ト個々面接罪（衆選法九八條同項參照）
●衆選法九六條一二九條及一一二條ト連續犯（刑法五五條同項參照）

第百三十一條　第八十九條第一項、第九十九條又ハ第百九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

●選擧ニ關係アル官吏吏員ノ關係區域內ニ於ケル無資格運動ト想像的競合罪（衆選法九四條同項參照）

會計法

第三十二條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

●不動產取得稅賦課權ノ消滅時效ノ始期

不動產取得稅ハ不動產所有權ノ取得ニ對シテ賦課スルモノナレハ不動產所有權ノ取得アリタルコトヲ確認シ得ヘキ場合ニ於テハ其ノ登記ノ有無ニ拘ラス不動產取得稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘク然ラサル場合ニ於テハ同稅賦課權ノ消滅時效ハ本登記ノ時ヨリ進行スルモノト解スルヲ相當トスヘク假登記ノトキヨリ進行スヘキモノニ非ス（行政三、七年一三六號、府稅賦課不服ノ訴、七年一〇月一四日判決、法律新聞三五四〇號一六頁）

大正一一年大藏省令八號政府保管有價證券取扱規程

第十二條　保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ第五號書式ノ政府保管有價證券拂渡請求書又ハ第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

●政府保管有價證券ノ引渡請求ト受領證書ノ提出

大正十一年大藏省令第八號政府保管有價證券取扱規程ノ下ニ保管有價證券ヲ提出シタル權利者ノ拂戻請求權ヲ差押ヘタル債權者カ裁判所ノ命令ニ基キ取扱官廳ニ對シ其ノ拂渡ヲ請求スル場合ニハ債務者カ交付ヲ受ケタル受領證書ハ必スシモ之ヲ提出スルコトヲ要セサルモノニシテ從テ當該差押債權者ニ對シテハ自ラ前示明治二十七年二月大藏省令第二號第六條ノ二ノ規定ハ其ノ準用ナキニ至リシモノト解スルヲ相當トス（大審院一民、七年（オ）一〇二二號、有價證券引渡請求事件、七年一二月一九日判決、法律新聞三五二六號一一頁）

昭和六年大藏省令三六號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（下略）

●金地金又ハ金貨幣ノ輸出行爲ノ完了

昭和六年大藏省第三十六號第二項ノ犯罪ハ大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金貨幣又ハ金地金ヲ輸出ノ實行ニ著手シタル行爲アル場合ニ於テモ成立スルモノトス是レ同省令制定ノ趣旨ニ鑑ミ同省令第一項ノ解釋上然ラシムル所ニシテ其ノ輸出カ水路ニ依リ行ハルルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ上記物件ヲ帝國領土外ニ仕向ケラレタル船舶ニ積載スルニ依リ輸出行爲ハ完成スルモノトス（大審院四刑、八年(れ)二七六號、昭和六年大藏省令第三十六號違反被告事件、八年四月二五日判決、法律新聞三五五六號一一頁）

法例

第十六條　離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

●日本居住ノ米人夫婦ノ離婚ト準據法

原告ハアメリカ合衆國ニユーヨーク州ニ生レ現在モ同州ノ市民タリト雖モ今ヨリ凡ソ三十年前明治三十六年中日本ニ渡リ爾來用件アリテ短期間海外ニ旅行シタル場合ノ外歸國シタルコトモナク繼續シテ日本ニ居住シ現ニ住居スル肩書ノ場所ニ住居ヲ構ヘテ以來モ既ニ七星霜ニ垂ントシ原告ノ業務ノ中心ハ來朝以降常ニ日本ニ在リ其ノ資産モ亦大部分日本ニ於テ所有シ將來モ終生日本ヲ去リテ北米合衆國ニ歸リ住ムノ意思ヲ有セサルコト及ヒ原告ハ約十四年前大正七年北米合衆國ニユーヨーク市ニ旅行滯在中九月四日ニユーヨーク州生レノ同州市民タル被告ト婚姻シ相携ヘテ日本ニ來リ爾來其ノ住居ニ在リテ同棲ヲ續ケタルカ被告ハ昭和六年十一月中原告カ所用ノ爲メ北米合州國旅行ノ途ニ就クヤ幾日ヲモ出テサルニ其ノ不在中原告ニ無斷ニテ北米合衆國ニユーヨーク州ノ某所ニ向ツテ遁走シ今尚ホ歸來セス原告ヨリ被告ヲ相手取リテ起サレタル本件離婚ノ訴ニ在リテハ本來其ノ原因トシテ主張セラルル事實ノ發生シタルトキニ於ケル夫タル原告ノ本國法ニ準據シテ之レカ裁判ヲ爲スヘキモノナリト雖モ其ノ本國タル北アメリカ合衆國ニアリテハ此點ニ付地方ニヨリ法律ヲ異ニシ而シテ本件原告ノ離婚原因トシテ主張スル前掲事實摘示ノ部ニ記載セル事實發生ノトキニ於ケル原告ノ屬スルニユーヨーク州ノ法律ニ於テハ離婚ノ原因ハ訴訟提起當時ニ於ケル當事者然モ原告ノ住所地ニ行ハルル法律ノ規定ニ準據スヘキ旨ヲ定メ且ツ右ニユーヨーク州法ニ所謂住所取得ノ要件ハ居住ノ事實ト滯在意思（アニムス・マネンデイ）ニシテ其ノ所謂滯在意思トハ永久又ハ不定期間一定ノ場所又ハ國ニ居住スル現在ノ意思ト解釋セラルルコト甲第十三號證ニ徴シ之ヲ知ルヘク而シテ之ヲ前段認定ノ事實ニ照合スレハ右ニユーヨーク州法ニヨル本件原告ノ住所地ハ正ニ日本ニ存スルコト炳ナルヲ以テ本件離婚ノ訴ハ其ノ原因ノ有無ニ付テモ日本ノ法律ニ準據シテ之カ裁判ヲ爲スヘキモノトス（東京地一民、七年(タ)二七五號、離婚事件、法律新聞三五三〇號一六頁）

第二十條　親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル

●米國ニューヨーク州人ノ親子關係ト準據法（民法八七九條「親權者ト子ノ引渡請求權」參看）

共通法

第十四條　刑事ニ關シ一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ法令ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル
テ其ノ地ノ法令ヲ適用ス二以上ノ地域ニ於テ同一ノ他ノ地域ノ法令ニ依ルコトヲ定メタル場合ニ於
テ其ノ相互ノ間亦同シ
一ノ地域ニ於テ他ノ地域ノ犯罪ヲ處斷スル場合ニ於テハ前項ノ場合ヲ除クノ外犯罪地ノ法令ニ依ル
但シ笞刑ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス
犯罪地ノ法令ニ依リ處斷スル場合ニ於テ處斷地ノ法令ニ笞刑ニ關スル規定アルトキハ其ノ規定ニ依
リ笞刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

●關東州ニ於ケル犯罪ヲ內地ニ於テ處罰スル場合ノ適用法律

關東州ニ於テ犯サレタル罪ニ付テハ明治四十一年勅令第二百十三號關東州裁判事務取扱令第一條ニ基キ刑法ニ依リテ處斷セラルルモノニシテ刑法自體カ直ニ適用セラルルモノニアラサレト
モ右犯罪ヲ內地ニ於テ處罰スルニハ直接ニ刑法其ノモノヲ適用スヘキモノナルコト共通法第十四條第一項ノ規定スルトコロナレハ原判決カ大連市ニ於テ行ハレタル被告人保三ノ變造有價證券交付ノ行爲ニ付刑法ヲ適用處斷シ前記勅令ヲ適用セサリシハ正當ナリ而シテ右共通法ヲ適用

スル所以ノ說明ハ判文ニ示シテ明ニセサルヘカラサルモノニアラサレハ之ヲ揭ケサレハトテ不當ナリト云フヘカラス結局原判決ニハ何等擬律錯誤存スルコトナシ　（大審院一刑、八年(れ)六五號、變造有價證券行使被告事件、八年三月三〇日判決、法律新聞三五五八號七頁）

日清通商航海條約

第二十二條　清國ニ於テ犯罪ノ被告トナリタル日本國臣民ハ日本國ノ法律ニ依リ日本國官吏之ヲ審理シ其ノ有罪ト認メタルトキハ之ヲ處罰スヘシ
清國ニ在ル日本國臣民ニ對シ犯罪ノ被告トナリタル清國臣民ハ清國ノ法律ニ依リ清國官吏之ヲ審理シ其ノ有罪ト認メタルトキハ之ヲ處罰スヘシ

●安東縣ニ於ケル帝國臣民ノ關稅逃脫ト領事裁判權

支那共和國ハ日清通商航海條約ニ依リ我帝國ノ法律ニ從ヒ領事裁判權ヲ行ヒ得ル地ニシテ帝國臣民ニ對スル關係ニ於テハ我法令ニシテ其ノ性質國內ニ於テノミ適用アルモノヲ除キ其ノ他ノ法令ノ適用上帝國內ト同一視スヘキモノトス然リ而シテ關稅ハ原則トシテ貨物カ一國領土ヲ越ユルニ當リ之ニ賦課スル租稅ヲ云フモノナルヲ以テ關稅法第七十五條ニ所謂關稅ヲ逃脫シタル行爲ハ貨物カ國境ヲ越エテ我領域內ニ入リタル場合ニ於テ成立スルモノナルモ同條ニ所謂關稅ノ逃脫ヲ圖ルノ行爲ハ必スシモ貨物カ國境ヲ越エテ我領土內ニ入リタル場合ニ於テ始メテ成立スルニ限ルコトナク國外ニ於テモ亦成立シ得ルコトハ其ノ行爲ノ性質上蓋シ疑ナキ所ニシテ關稅法規中此ノ點ニ關スル部分ハ其ノ性質上國外ニ於テモ亦適用アリ得ヘキモノトス然レハ本件

國、税、法、ニ、於、テ、適、用、シ、犯、シ、タ、裁、判、権、ハ、其、ノ、人、ガ、生、ジ、タ、時、我、領、事、官、ニ、依、リ、故、ニ、帝、國、外、ニ、於、テ、犯、シ、タ、被、告、人、等、ノ、本、件、ニ、付、テ、ハ、其、ノ、人、ガ、所、屬、ノ、帝、國、ノ、法、律、ニ、依、リ、之、ヲ、處、罰、シ、得、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ズ、又、帝、國、ノ、官、憲、ハ、其、ノ、人、ヲ、逮、捕、シ、及、ビ、其、ノ、所、有、ニ、係、ル、物、件、ヲ、差、押、フ、ル、ノ、權、能、ヲ、有、ス、ル、モ、ノ、ト、ス、

第十一條　左ニ揭ケル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

一　皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項

二　裁判所ニ干與スル事項

●裁判所ニ對スル請願ノ能否

請願令第十條ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲スヘキ官公署ニ付職權ヲ有スル官公署ニ對スル請願ハ同令ニ依ル請願ト看做ス

請願令

（大正六年院令第四號、八年一れ四〇八號、關稅法違反被告事件、八年六月一六日判決、法律新聞三六〇二號一四頁）

アルコトナシ蓋シ同協約第十項ニハ「安奉鐵道ハ條約ニ適用シ本協約ハ該鐵道買收以前ノ關係ニ於テ別ニ列車直通ニ關スル規定ヲ爲サス」ト規定セルヲ以テ其ノ後清國政府ニ於テ買收シ又ハ新ニ敷設シタル鐵道ニ付テハ「安奉鐵道ハ條約ニ依リ十五年後清國政府ニ於テ買收スヘキノ權利ヲ有スル」ノ效力ヲ消滅シ其ノ後ハ清國政府ハ右鐵道ヲ自由ニ處分シ得ルノ權利ヲ有スルニ至ルヘキハ當然ニシテ此ノ點ニ關シ日清兩國間ニ何等ノ協約ヲ締結スルヲ要セス又日清通商航海條約ハ其ノ第十項ニ於テ安奉鐵道ニ關スル特別ノ規定ヲ設ケタルニ拘ラス其ノ後清國政府ハ右鐵道ヲ日本國ニ讓渡シ又ハ之ヲ外國人ニ貸與スルノ權能ヲ有セサルヘキハ勿論

對シテ爲シ得ルモノナルコトヲ知リ得ヘク其ノ官署中ヨリ裁判所ヲ除外スル字句ナシト雖モ元來裁判所ハ法律ニ依リ裁判所之ヲ爲スヘキモノナレハ裁判所ニ對スル裁判上ノ不服ノ申立其ノ他ノ請求等ハ訴訟法其ノ他ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノニシテ請願令ノ適用ヲ受クルモノニ非スト解スヘク同令ニハ裁判ニ關與スル事項ニ付請願ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ規定アリト雖モ這ハ　天皇又ハ裁判所以外ノ官公署ニ對シ裁判ノ內容ニ關渉シ容喙スルコトヲ實質トスル請願ヲ爲スコトヲ禁スルニ止マルモノニシテ裁判ニ關スル事項ニ付裁判所ニ對シテ陳情上申又ハ嘆願等ヲ爲スコトヲ禁スルノ趣旨ニ非ラスト認ムルヲ相當ナリトス而シテ刑事訴訟法ニ於テモ亦刑事裁判ニ關係人以外ノ者ヨリ裁判所ニ對シ嘆願書ノ類ヲ提出シ得ルヤ否ニ付テハ明文ヲ置カスト雖モ元來刑事裁判ハ眞實發見ヲ以テ主眼トシ裁判上或ハ職權ニ因リ或ハ請求等ニ因リ事實ノ眞相ヲ究ムル爲メ凡テノ資料ヲ蒐集シ事實協定上之ヲ利用スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ叙上ノ書面ニシテ苟クモ威迫强要侮辱其ノ他不穩ノ內容ヲ有セサル限リ裁判所ニ於テ之ヲ受理スルモ不法ナリト爲スヲ得ス而シテ之レヲ記錄ニ編綴スルヤ又之ヲ裁判上ノ參考ニ資スルヤ否ヤハ全ク裁判所ノ自由判斷ニ依リ決スヘキモノトス然ラハ本件被害者ノ長男及實弟ヨリ第一審裁判長ニ宛テ提出セラレタル各書面ヲ第一審裁判所ニ於テ受理シ記錄ニ編綴シタルハ何等不法ト認ムヘキニアラス加之第一審訴訟手續ノ不法ヲ攻擊スルハ覆審タル第二審ノ判決ニ對スル適法ノ上告事由トナスニ足ラス　（大審院一刑、八年（れ）八五四號、傷害致死被告事件、八年九月四日判決、法律新聞三六一三號五頁）

裁判所構成法

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

●耕地整理組合費ト裁判管轄

耕地整理組合ハ其ノ性質上公法人ニ屬スルモノト云フヘク從テ本件被上告人等ノ訴外茨城縣巴川沿岸耕地整理組合ニ對シ納入スヘキ組合費等ニ付テモ之ニ關スル權利ノ主張並强制執行ハ司法裁判所ニ對シテ出訴又ハ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノナルハ洵ニ明白ナリトス　（大審院一民、六年（オ）三六二一號、耕地整理組合費請求事件、八年七月七日判決、法律新聞三五二六號七頁）

●水道撤去請求ト裁判管轄

凡ソ市町村若クハ町村組合等カ水道條例ニヨリ內務大臣ノ認可ヲ得テ布設シタル水道其他ノ設備ハ公ノ營造物ニ外ナラズ之カ設置及管理等ハ公權作用タル行政行爲ニ屬シ所屬市、町、村、住民トノ間ニ於ケル該營造物使用ニ付テノ關係ハ公法上ノ權利關係タルコト疑ナク之カ使用關係ハ水道條例市制町村制、市町村若クハ町村組合等ノ定メタル水道使用ニ關スル條例並規則等ニヨリ規律セラルヘキモノトス控訴人ハ水道事業カ其性質上市町村若クハ其他ノ公共團體ニ於テノミ經營シ得ヘキモノニアラサルヲ以テ水道ノ使用關係ヲ私法上ノ權利關係ナリト主張スレトモ水道事業其モノカ本來ノ性質上一私人ニ於テモ亦之ヲ營ミ得ルモノナリトスルモ之カ爲メ市町村若クハ其他ノ公法人ニ於テ布設シタル水道其他ノ設備ヲ目シ公ノ營造物ニ非スト云フ

ヲ得サルハ多言ヲ要セス而シテ叙上ノ關係ハ市町村若クハ町村組合ニ於テ定メタル條例ニヨリ水道設備ノ一部タル給水裝置ヲ給水請求者タル所屬市町村民ノ所有ニ歸セシムルコトト爲シタル場合ニ於テモ其理ヲ異ニスルモノニ非スシテ給水裝置ノ設置及其撤去並水道使用料ノ收納關係等凡テ前揭各法規ニヨリ律セラルヘキ公法上ノ關係ナリト云フヘシ然リ而シテ本件ニ於ケル東京府江戸川上水町村組合カ町村制ニ基キ所屬町村住民ニ對シ上水ノ供給ヲ目的トシテ設立セラレタル町村組合ニシテ控訴人カ該町村組合所屬ノ住民タリシコト及昭和七年十月一日東京市域擴張ノ結果右組合ハ解散シ被控訴人ニ於テ其事務一切ヲ承繼シタルコトハ當事者間ニ爭ナク控訴人ノ本件請求ハ（一）控訴人カ右町村組合水道使用條例第六條ノ規定ニヨリ所有權ヲ取得シタル本件給水裝置ノ撤去ヲ同組合ニ對シ要求シタルトコロ同組合ハ之ニ同意シタルニヨリ同組合水道使用條例並使用料及手數料條例施行細則第二十二條第一項但書ノ規定ニ依リ右給水裝置ノ撤去引渡ヲ求メ（二）組合ハ控訴人ニ於テ右給水裝置ノ撤去ヲ請求シ組合ニ於テ之ニ同意シタル以上爾後控訴人ヨリ水道使用料ヲ徵收スルノ權利ナキモノナルニヨリ該權利不存在確認ヲ求ムト云フニアリテ前者ハ給水裝置ノ撤去引渡ナル行政作用ノ發動ヲ求メ後者ハ公法上ノ關係タル水道使用料收納權利關係ノ不存在確認ヲ求ムルモノニ外ナラス何レモ司法裁判所ノ權限ニ屬セサルモノト云ハサルヘカラス然ラハ控訴人ノ本訴請求ヲ不適法トシテ却下シタル原判決ハ洵ニ相當ナリ（東京地九民、六年（レ）一二八三號、所有權確認動產引渡請求控訴事件、八年二月一四日判決、法律新聞三五三五號五頁）

●醫師會ノ決議ニ依ル制裁ト裁判管轄

醫師法第九條ノ三カ醫師會カ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起シ得ヘキコトヲ定メ過怠金ノ徵收モ亦醫師會カ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ屬スルモノト解シ得ヘク其ノ支拂ニ關シ司法裁判所ニ之ヲ訴求シ得ヘシト雖裁判所ハ過怠金ヲ定メタル懲戒處分ノ相當ナルヤ否ヲ審理シ其ノ理由ニ依リ請求ノ許否ヲ定メ得サルモノトス（大審院三民、六年（オ）八八八號、過怠金請求事件、七年一月一三日判決、大審院裁判例六卷刑事三頁）

●他人ニ對スル行政處分ニ依ル私權ノ侵害ト裁判管轄

凡ソ行政處分ヲ受ケタル者カ其ノ處分ヲ不當ナリトシテ之カ取消變更ヲ求ムル場合ハ勿論其ノ處分ニ依リテ生シタル私權ノ設定變更消滅等ノ效果ヲ爭フモ畢竟ソレカ處分ノ當否ヲ爭フニ歸着スル場合ニ於テハ法令ノ規定ニ從ヒ訴願又ハ行政訴訟ノ手段ヲ取ルヘキモノニシテ民事訴訟ノ手段ニ依リテ司法裁判所ニ對シ救濟ヲ求ムヘキモノニアラスト雖行政處分ヲ受ケタルニアラサル第三者カ他人ニ對スル行政處分ノ爲ニ偶々民法上ノ權利ヲ侵害セラレタルトキハ民事訴訟ノ手段ニ依リテ其ノ救濟ヲ求ムルコトヲ得ルヲ以テ酒造稅滯納者カ行政處分タル滯納處分ヲ受ケテ其ノ所有財產ヲ公賣セラレ又ハ滯納者ニ對スル滯納處分トシテ其ノ處分ヲ不法トシテ之カ取消若シクハ變更ヲ求メス保證物ノ提供者カ其ノ處分ニヨリ發生シタル財產權喪失ノ效果ヲ爭ハントスル場合ト異リ第三者カ其ノ公賣ノ目的物ニ付權利ヲ有スルヲ主張シ以テ其ノ救濟ヲ求ムルニハ民事訴訟ノ手段ニ依ルヘキモノニシテ訴願又ハ行政訴訟ノ手段ニ依ルヘキモノニアラスト解スルヲ相當ナリトス何トナレハ是レ行政處分ノ取消若シクハ變更ヲ求メ又ハ其ノ處分ニ依リテ發生シタル效果ヲ爭フ訴ニアラスシテ民法上ノ權利ノ得喪ヲ爭フ訴訟ニ外ナラサレハナリ本件ニ付之ヲ見ルニ原告ノ主張スルトコロハ被告國カ訴外

堀田市松ニ對スル酒造稅滯納處分トシテ公賣ニ付シタル市松ノ不動產ニ對シ原告ニ於テ第二順位ノ抵當權ヲ有セル關係上被告仙松、佐一、好治ニ於テ各其ノ所有不動產ノ上ニ市松ノ納稅義務擔保ノ爲被告國ニ對シ設定シタル第一順位ノ抵當權ニ付原告ニ民法第三百九十二條ニ基ク之カ代位權アルコトヲ主張シ以テ其ノ救濟ヲ求ムルニアルヲ以テ原告ハ自ラ滯納處分ヲ受ケ又ハ滯納ノ納稅義務ニ付國ニ對シ保證ヲ提供シタル者ニアラサルコト明白ナルノミナラス其ノ請求ハ畢竟抵當權ニ基キ叙上代位權ノ有無ヲ爭ヒ民法上ノ救濟ヲ求ムルニ在ルコト明ナリ左レハ本件ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト解スヘク原告カ之ヲ當裁判所ニ提起シタルハ適法ニシテ此點ニ關スル被告共ノ抗辯ハ採用スルニ足ラサルモノトス　（廣島地尾道支部、七年（ク）一三一號、抹消登記回復請求事件、八年五月一六日判決、法律新聞三五七五號一二頁）

●私法上ノ權利ニ關スル爭ニ附隨シ寺院住職任免ノ當否ノ爭生シタルトキハ司法裁判所ニ於テモ私法上ノ權利ニ關スル爭ニ附隨シ寺院住職任免ノ當否ヲ判斷スルコトヲ妨ケス　（大審院四民、七年（オ）二〇三〇號、土地所有權確認並此ノ任免ノ當否ヲ判斷スルコトヲ妨ケス　（大審院四民、七年（オ）二〇三〇號、土地所有權確認並不當利得請求事件、八年二月二二日判決、法律新聞三五二五號一二頁）

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦每年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ揭ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

●地方裁判所支部ノ管轄權

先ツ被告ノ管轄違ノ抗辯ニ付キ按スルニ本件カ被告主張ノ如ク東京地方裁判所ノ決定ニ依リ長野地方裁判所ニ移送セラレタルコトハ本件記錄ニ徵シ明白ニシテ右移送ノ裁判ハ長野地方裁判所ヲ羈束シ之ヲ更ニ他ノ裁判所ニ移送シ得サルコトハ民事訴訟法ノ規定スルトコロナレトモ地方裁判所ノ支部ハ當該地方裁判所ノ管轄ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部ヲ取扱フ部ノ一ニ過キス地方裁判所ト相對立セル獨立ノ裁判所ニ非サレハ兩者互ニ獨立セル管轄權ヲ有スルモノニアラスト謂ハサルヘカラス故ニ民事（刑事モ同樣）ニ付テハ支部ハ本廳タル地方裁判所ノ管轄ニ屬スル一部ノ民事々件ヲ取扱フヘキモノニシテ其範圍ハ司法省令ヲ以テ限定セラル而シテ昭和六年三月三十日司法省令第六號ハ長野地方裁判所上田支部ノ管轄ニ付上田區裁判所岩村田區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ取扱フヘキコトヲ規定スルカ故ニ民事訴訟法第十五條ニヨリ岩村田區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ當支部ニ管轄權アリト言ハサルヘカラス從ツテ東京地方裁判所ノ決定ニヨリ長野地方裁判所ニ移送セラレタル本件ハ同裁判所ノ管轄ニ屬スルコト勿論ナレトモ當支部モ亦之カ管轄權ヲ有スルコト明ナルニヨリ被告ノ抗辯ハ理由ナシ　（長野地上田支部、七年（ワ）五二號、損害賠償並慰藉料請求事件、八年四月一四日判決、法律新聞三五六〇號七頁）

●地方裁判所ノ事務分配

本件ハ前橋地方裁判所高崎支部豫審判事ニ依リ昭和七年五月二十五日附豫審終結決定ヲ以テ前橋地方裁判所ノ公判ニ付セラレタルトコロ公判準備手續開始前昭和七年五月三十日附被告人ノ陪審辭退申立書ニ依リ陪審ノ辭退アリタルモノナルヲ以テ本件ハ陪審法第六條ニ依リ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得サルニ至リ從テ昭和六年司法省令第六號ニ所謂陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニアラサルヲ以テ同省令ニ依リ同地方裁判所支部ノ事務トシテ取扱フコトヲ得ルモノトス但本

件豫審終結決定書ニ於テハ本件ヲ前橋地方裁判所ノ公判ニ付スヘキモノトシ之ヲ同裁判所高崎支部ノ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ササリシト雖元來地方裁判所ノ支部ハ其ノ本廳ノ一部タルニ外ナラサルモノナレハ本件ノ如キ豫審決定アルトキト雖事務分配上之ヲ支部公判ニ於テ審理セシムルコトハ毫モ違法ニ非ス而シテ本件ニ付テハ前橋地方裁判所長カ裁判所構成法第二十二條ニ依リ既ニ前司法年度末ニ於テ定メタル事務分配ノ標準ニ依リ之ヲ右支部ニ送付シタルモノト認ムルヲ相當トス假ニ豫メ叙上ノ標準ノ定メナカリシトスルモ右構成法ノ規定ハ執務上ノ訓示規定タルニ外ナラサレハ本件ノ如キ事情ニ依リ高崎支部ノ取扱ヒタル本件審理ノ手續ヲ以テ違法ト爲スニ足ラス　（大審院一刑、八年（れ）七二五號、放火被告事件、八年七月六日判決、法律新聞三六〇七號一一頁）

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）上告

（ロ）地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

（ハ）地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノ

●地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告裁判所

裁判所構成法第三十七條第二號ニ依レハ控訴院ハ地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル抗告ニ付裁判權ヲ有スルモノナレハ地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告ハ控訴院ニ於テ裁判ヲ爲スヘキモノニアラスシテ大審院ニ於テ之ヲ裁判スヘキモノトス（大審院一民、八年（ク）八四五號、土地並家屋明渡請求控訴事件、八年六月一九日決定、法律新聞三五七七號一一頁）

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

●裁判長ノ審理終結權

公判廷ニ於テ裁判長カ審理終結ヲ宣スルハ裁判長ノ訴訟指揮權ノ範圍内ニ屬スル事項ニシテ從テ裁判長ハ陪席判事ト合議ノ上ニ非サレハ結審ヲ宣スルヲ得サルモノニ非ス　（大審院一刑、七年（れ）一八五三號、水利妨害被告事件、八年三月六日判決、法律新聞三五五五號七頁）

●被告人ノ發言ノ不許可ト裁判長ノ指揮

訴訟審問ノ指揮ハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬スルコト裁判所構成法第百四條ニ依リ明白ナルヲ以テ被告人ノ訴訟進行其ノ他ニ關スル發言ヲ許ササリシトスルモ毫モ違法ニ非ス又記錄ニ依レハ被告人金漢俟タス從テ原審裁判長カ發言ヲ許容スルト否トハ裁判長ノ專權ニ屬スルコト論ヲナルヲ以テ原審公判廷ニ於テ屢々發言ノ許可ヲ得テ寧ロ冗長ニ渉ルノ嫌アル陳述ヲ爲シタルコト明白ナルヘク刑事訴訟法第百三十五條ニ違背シタル點アルコトナシ　（大審院三刑、八年（れ）三四三號、治安維持法違反被告事件、八年九月六日判決、法律新聞三六一八號一一頁）

●傍聽人ノ混雜整理ト裁判長ノ指揮（憲法五九條「傍聽人ノ混雜整理ト公判公開」參照）

辯護士法

第十四條　辯護士ハ左ニ揭ク訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一　相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二　判事檢事奉職中取扱ヒタル事件

第三　仲裁手續ニ依リ仲裁人トシテ取扱ヒタル事件

●**辯護士法一四條一號違反ト訴訟行爲ノ效力**

辯護士法第十四條第一號ニ依レハ辯護士カ既ニ當事者ノ一方ニ對シ或事件ニ付助言ヲ爲シ又ハ其ノ委任ヲ受ケタルコトアルトキハ他ノ當事者ノ訴訟代理人トシテ同一事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得サルモノナレトモ右規定ハ單ニ辯護士カ其ノ業務ノ性質上遵守スヘキ規律ヲ定メタルニ止リ之ニ違反シテ爲シタル訴訟行爲其ノモノヲ無效ナラシムルノ趣旨ニ非スシテ右規定違反ノ場合ト雖訴訟上單ニ當事者ノ一方ヲ代理スルニ過キサルトキハ其ノ訴訟行爲ハ固ヨリ有效ナルモノト解セサルヘカラス　（和歌山地、七年(ワ)一四九號、手當金分讓金請求事件、八年七月一二日判決、法律新聞三五九五號七頁）

●**參加人ノ辯護ト相手方ノ辯護引受**

辯護士カ當事者ノ一方ヨリ委任ヲ受ケタル事件ニ付其ノ相手方ノ爲ニ職務ヲ行フコトヲ得サル旨ヲ規定シタル辯護士法第十四條ハ當事者保護ノ目的ニ出テタルモノナルコト勿論ナリト雖辯護士ヲシテ誠實ニ職務ヲ執行セシムルト共ニ其ノ品位ヲ瀆ス如キコトナカラシメンカ爲ニ外ナラサルコトハ同條立法ノ精神ニ徵シ疑ヲ容レサルトコロナルヲ以テ其ノ委任ノ終了後ナルト當事者ノ許諾アルト或ハ又是等ノ者ニ不測ノ損害ヲ加フル虞アルト否トヲ問ハス絕對ニ之ヲ禁止シタルモノト解セサルヘカラス　（昭和六年(オ)第三五六四號同七年六月十八日言渡判決參照）

之ヲ本件ニ付觀ルニ參加人山本作三ハ被上告人（被控訴人原告）山本卯藏ノ上告人（控訴人被告）ニ對スル本件報酬金請求權ノ轉付ヲ受ケタルコトヲ理由トシテ民事訴訟法第七十一條ノ規定ニ依リ當事者トシテ原審ニ訴訟參加ノ申立ヲ爲シ被上告人山本卯藏及上告人ニ對シ本件報酬金請求權カ自己ノ權利ニ屬スルコトノ確認ヲ求メ上告人ニ對シ其ノ支拂ヲ求ムルモノナレハ結局參加人ト被上告人山本卯藏トハ互ニ訴訟ノ相手方タル關係ニ立ツモノト云ハサルヘカラス然ルニ記錄ニ徵スレハ先ニ被上告人山本卯藏ノ訴訟代理人タリシ辯護士渡部一ハ參加人山本作三ノ委任ヲ受ケ其ノ訴訟代理人トシテ原審ニ參加ノ申立ヲ爲シタルモノト云ハサルヘカラス然ハ訴訟代理權ナキ者ニ依リ爲サレタルニ歸シ其ノ申立ハ不適法トシテ却下セラルヘキモノトス從テ其ノ參加申立ノ適法ナルコトヲ前提トシテ爲サレタル原判決ハ破毀ヲ免レス　（大審院四民、七年(オ)二一三〇號、報酬金請求事件、八年四月一二日判決、法律新聞三五五三號一〇頁）

●**原告代理人タル辯護士ハ當事者參加人ノ代理人タルコトヲ得ス**　（民訴七一條同項參看）

第二十六條　辯護士會會則ニハ會長副會長常議員ノ選擧及其ノ職務、總會、常議員會及其ノ議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程並ニ謝金及手數料ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設クヘシ

●辯護士ノ成功報酬ト相當額ノ認定

●辯護士ノ成功報酬ト相當額ノ認定

大阪地方ニ於テハ辯護士カ民事訴訟事件ニ付キ訴訟委任ヲ受ケ努力ノ結果勝訴ノ判決ヲ受ケタル場合又ハ刑事事件ニ付キ辯護ノ委任ヲ受ケ其ノ努力ノ結果無罪ノ判決言渡サレタル場合ニハ委任者ハ受任者タル辯護士ニ對シ相當額ノ報酬金ヲ支拂フヘキ旨ノ慣習行ハレ居ルコト明瞭ナルヲ以テ本件當事者カ該慣習ニヨル意思ヲ有シタリト認メラルル以上右慣習ノ拘束ヲ受クヘキモノトス而シテ控訴人ハ被控訴人ニ對シ出張費用、報酬金其ノ他一切ヲ包含シ出張ノ都度金百五十圓宛ヲ支拂フヲ以テ足リ他ニ何等金員ノ支拂ヲ要セサリシ約定ナリシ旨主張シ前叙ノ如キ慣習ニ依ル意思ヲ否定スルカ如キモ此ノ點ニ關スル原審證人田中平作ノ證言等ハ遽カニ措信シ難ク他ニ右事實ヲ肯定スルニ足ル證據ナシ而カモ本件當事者カ當初ノ委任契約當時特ニ前記ノ如キ慣習ニ依ル意思ヲ有セサリシモノト認メ得ヘキ證據ナキヲ以テ控訴人及被控訴人ハ共ニ右慣例ニ依據スル意思ヲ以テ本件刑事辯護及ヒ私訴訴訟代理ニ關スル委任契約ヲ締結シタルモノト認ムルヲ相當トス然リ而シテ右刑事事件及私訴事件ニ付テハ被控訴人以外ニ四名ノ辯護士關與シ居タルコトハ原審證人角倉晋造、横山金太郎ノ各證言ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ被控訴人カ前後八回ニ亘リ公判ニ立會ヒ刑事辯護及私訴ノ訴訟行爲ヲ爲シタルコトハ前示ノ如クナルヲ以テ控訴人カ無罪ノ判決ヲ受ケ且勝訴ノ私訴判決ヲ得タルコトニ付テハ一應被控訴人ノ努力モ亦與ツテ力アリタルモノト解シ得ヘシ故ニ控訴人ハ前記認定ノ如キ慣習ニ基キ右刑事事件ニ付テハ第二審ニ於テ無罪ノ判決ヲ言渡サレタル點ニ於テ又私訴事件ニ付テハ第一、二審判決ノ各勝訴ノ部分ニ付夫ニ相當ノ報酬金ヲ被控訴人ニ支拂フヘキ義務アルモノトス刑事事件ニ於テ

言渡サレタル刑カ檢事ノ求刑ヨリ輕キ場合ニハ特ニ之レカ爲メニ報酬金ヲ支拂フヘキ旨ノ慣習アリト認メ得ヘキ證據ナキヲ以テ此ノ理由ニ基ク被控訴人ノ報酬金ノ請求ハ失當ナリ仍テ更ラニ進ンテ本件報酬金ノ相當額如何ニ付キ案スルニ斯ル報酬額ヲ定ムルニ付テハ事件ノ輕重難易訴訟價格、努力ノ程度等ノミニ依ラスシテ其ノ他當事者間ニ存スル諸般ノ事情ヲ考慮シ之ヲ決スルヲ相當トス而シテ前段認定ノ如ク被控訴人カ其ノ住所タル大阪市ヨリ廣島縣三次町及廣島市ニ前後八回出張シ十回ノ公判ニ立會ヒ控訴人ノ爲メニ努力シタル事實、右事件ニハ被控訴人ノ外四名ノ辯護士關與シタル事實、原審證人横山金太郎ノ證言原本ノ存在及其ノ成立ニ爭ナキ甲第二號證甲第十六號證ノ十三ニヨリ認メ得ヘキ右刑事事件カ甚タ複雜ニシテ其ノ記錄ノ丁數千八百六十四枚以上ニ上リタル事實並ニ該事件ノ繫屬當時控訴人カ時價五十萬圓ノ不動產ヲ所有シ居タリトノ當事者間ニ爭ナキ事實ヲ綜合シ之ニ原審證人四方田保、角倉晋造ノ各證言ヲ參酌シ當院ハ本件刑事事件カ無罪ト爲リタル爲メ支拂フヘキ報酬ハ金一千七百圓私訴事件ノ勝訴ニ因ル報酬ハ第一審ニ於ケル控訴人ノ勝訴額金八萬五千十九圓五十一錢及第二審ノ控訴人ノ勝訴部金十二萬二千七百七十七圓七十錢ノ各百分ノ一タル合計金二千八十三圓九十七錢以上總計金三千七百八十三圓九十七錢ヲ本件報酬金ノ相當部ナリト認定ス

（東京控三民、六年（ネ）六八二號、報酬金請求事件、八年五月三一日判決、法律新聞三五八六號五頁）

●辯護士ノ成功謝金算出ノ標準

辯護士カ訴訟ノ依頼人ヨリ受クヘキ成功謝金ノ額ハ專ラ依頼人ト辯護士トノ間ノ契約ニ基キ之ヲ算定スヘキモノナレハ右當事者間ニ訴訟物ノ何割何分ヲ成功謝金トシテ支拂フ可シト云フカ如キ約アル場合ニ於テモ其ノ額ヲ算出スルニ當リ訴訟ノ目的物タリシ元本請求權ノミヲ基本ト

爲スヘキヤ將又其ノ他ニ目的物トナリタル利息損害金ヲ之ニ加算シタルモノヲ標準ト爲スヘキヤハ一ニ當事者契約當時ノ意思如何ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ必スシモ訴訟物或ハ訴訟價格ナル字句ノ意味ニ拘泥スルノ要アルコトナシ原判決ハ其ノ判示ニ多少妥當ヲ缺クモノナシトセサルモ究竟甲第一號證乙第一號證並被上告人本人訊問ノ結果ヲ綜合考覈シテ本件委任契約當時ニ於ケル當事者ノ意思ハ訴訟物中ノ元本債權ヲ標準トシテ成功謝金ヲ算出スヘキ主旨ナリシモノト認メタルモノニシテ右證據ニ依レハ此ノ如キ認定モ亦之ヲ許ササルモノニアラス（大審院一民、七年(オ)一五〇七號、成功謝金請求事件、七年一二月二六日判決、法律新聞三五一八號一八頁）

●不動産所有權ノ喪失ヲ免レタル場合ト報酬金

不動産所有權ノ取得者カ其ノ取得ヲ無效トシテ之ヲ移轉者ニ返還セサルヘカラサル場合ニハ取得者ハ不動産ノ所有權ヲ喪失スルヲ以テ其ノ取得ノ之ニ因リテ被ムル損害額ハ該不動産ノ價額ノ上ニ存スルモノナレハ其ノ之ヲ返還スルコトヲ要セサルニ至リタルコトニ因リ受クヘキ利益モ亦該不動産ノ價額ノ上ニ存スルモノト爲ササルヘカラス本件ニ於テ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人ハ訴外遠藤ヨリ五千八百五十七坪ノ土地ヲ一萬圓ノ債權ノ代物辨濟トシテ取得シタルニ訴外箱根土地株式會社ヨリ右取得ヲ無效ナリトシテ抹消登記請求ノ訴訟ヲ提起セラレタルモ訴訟ハ上告人ノ勝訴ニ歸シ爾後右訴外會社ニ對シ一坪七圓九十二錢ノ割合ヲ以テ賣却シタルモノナルヲ以テ上告人カ右訴訟ノ勝訴ノ結果受ケタル利益ハ右一坪ノ單價ヲ以テ右總坪數ニ乘シタルモノヨリ上告人カ對價トシテ支拂ヒタル一萬圓ヲ控除シタル金額ノ上ニ在リト爲スヘク而シテ此ノ金額カ原審カ利益額ト認定シタル一萬三千圓ヲ遙カニ超過スルコト算數上明ナルヲ以テ原審カ右範圍內ナル一萬三千圓ニ付五分ノ割合ニ依ル報酬支拂ノ義務アル旨ヲ判示シタルハ結局正當ナルヲ以テ所論ノ如キ理由ニ依リテハ原判決ヲ破毀スルニ由ナキモノトス（大審院五民、八年(オ)五一五號、報酬金請求事件、八年六月九日判決、法律新聞三五七一號一六頁）

●基訴提起前ノ辯護委任ト不起訴ノ場合ノ謝金

被告人カ大分地方裁判所々屬辯護士トシテ昭和六年五月十三日戶高有利ヨリ同人ノ妻ウメヲニ對スル嬰兒殺事件ニ付鑑定及辯護等ノ依賴ヲ受ケ着手金ヲ五十圓成功謝金ヲ百五十圓ト協定シテ之ヲ引受ケ同人ヨリ契約書及着手金ノ一部十五圓ヲ受取リ其ノ後竹田支部檢事局ニ出頭シテ事件ノ推移ヲ質シ或ハ右有利方ニ赴キ養母及ウメヲ等ヨリ當時ノ事情ヲ聽取シテ事實調査ヲ爲シ辯護準備ヲ爲シ居リタルトコロ同年八月九日頃竹田支部檢事局ニ於テ右ウメヲニ對シ不起訴處分ヲ爲シタルコトヲ聞知シ其ノ頃右有利ニ交涉シテ着手金ノ殘金及成功謝金合計百八十五圓ヲ貸借ニ改メ同人ヨリ同額ノ借用證書ヲ受取リタルトコロ右有利ニ於テ內金五圓ヲ支拂ヒタルノミニテ約定期限ヲ經過スルモ其ノ餘ノ支拂ヲ爲ササルニ依リ同人ヲ相手取リ支拂命令ヲ申請シタル上同人ヨリ數回ニ合計金百三十七圓ヲ受取リタルコトハ被告人ノ當廷自供ニ依リ之ヲ認ムルヲ得而シテ竹田支部檢事々務取扱檢事德田基作成ニ係ル當裁判所宛回答書ニ依レハ戶高ウメヲニ對スル殺人被疑事件ハ昭和六年八月七日不起訴處分ヲ爲シタルコト明カナルヲ以テ本件ハ公訴提起前ニ於ケル辯護委任ノ一事例ニ屬ス我カ刑事訴訟法ニ於テハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得ト規定シ公訴提起前辯護人ヲ選任スルコトヲ許ササルモ右ハ刑事訴訟手續上辯護人ヲ附スルコトヲ得可キ段階ヲ定メタルニ止マリ辯護委任ノ時期ヲ制限スル趣旨ノ規定ニアラサルカ故ニ公訴提起前豫メ辯護人ヲ委任シテ辯護準備ヲ十分ナラシム

ルト共ニ被疑者ニ對スル過當ナル攻撃ヲ防禦スル爲其ノ權益擁護ノ事務ヲ委任スルコトヲ得ヘク辯護士法第一條ニハ辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノナル旨規定シアレトモ該規定ハ辯護士ニ限リ裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行ヒ得ルコトヲ明カニシタルニ止マリ辯護士ハ訴訟代理人又ハ辯護人トナルノ專屬職務ノ外一般法律事務ニ從事スルモノナレハ叙上ノ如キ依頼ニ應シ得可キコト固ヨリ論ナキトコロナリ被告人ハ當廷ニ於テ前示刑事々件ニ付戸高有利ヨリ鑑定及公判ニ於ケル辯護ニ至ル迄ノ事務ヲ一括シテ受任セル旨供述スルノミサラス戸高有利ニ對スル受命判事ノ訊問調書中ニ〇〇辯護士ニ事件ヲ依頼シ安心ヲ爲シ居リタル旨ノ證言記載アルニ依リ本件ニアリテモ單ニ辯護ノミヲ依頼シタルモノニアラスシテ汎ク被疑者ノ權益擁護事務ヲモ依頼シタルモノト認定ス可ク從テ前示着手金及謝金モ其ノ勤勞ニ對スル報酬トシテ其ノ額ヲ協定シタルモノト認メサル可カラス右報酬契約ニ關シ前記被疑事件記錄ニ於ケル戸高有利ニ對スル檢事ノ聽取書中ニ同人ノ供述トシテ妻ウメヲカ一日タリトモ受刑セハ五十圓無罪又ハ執行猶豫トナリタル場合ハ二百圓ノ辯護料ト云フ約定ニテ引受ケ臭レタル旨ノ記載アリ即同人ハ無罪又ハ執行猶豫トナリタル場合ニ限リ右謝金ヲ支拂フ可キモノニシテ其ノ他ノ場合ニハ之ヲ支拂フ約定之レナキ旨ノ供述ヲ爲スト雖モ本件契約書ヲ閱査スルニ其ノ末項ニ「本契約後ハ委任消滅ニ依リ事件及貴下ノ責任終了ノ際モ前記着手金及謝金ハ御支拂可致候」ト掲記シアリ右末項掲記ノ特約條項ハ聊カ難解ノ嫌アルモ大阪竹内謄寫館印行ニ係ル刑事契約書用紙中ニモ「事件終了貴殿ノ責ニ歸ス可カラサル事由ニ依リ委任消滅シタルトキハ成功ト看做シ前記謝金全額差上可申候」トノ契約條項ノ不動文字アリ又證第二號ニ依レハ同職ノ間ニ於テモ之ト同一條項ヲ印刷セル刑事契約書用紙ヲ使用セル者アリ本件ノ特約條項ハ其ノ內容之ト同一趣旨ニ出テタルモノニシテ本件特有ノ契約條項ニアラサルコトヲ認メ得可ク右末項ハ元「本契約後ハ委任消滅和解取下拋棄認諾ニ依リ事件及貴下ノ責任終了ノ際モ云々」ト印刷シアリタルトコロ其ノ中刑事々件ニ適用ナキ「和解取下拋棄認諾」ノ八字ヲ抹消シ其ノ餘ノ文詞ヲ存置セシメタルモノニシテ戸高有利カ本件契約證書ヲ差入ルル際被告人ヨリ讀聞ケヲ受ケタルコトハ同人ニ對スル受命判事ノ訊問調書中ニモ其ノ旨ノ證言記載アルヲ以テ戸高有利ニ於テモ右末項掲記ノ特約條項ヲ知了セルモノト認メサル可カラス而シテ被告人ノ當廷ニ於ケル本件契約締結當時戸高有利ニ對シ事件カ明日形付キテモ謝金ヲ申受ク可シト言明シタルトコロ同人ハ如何ナルトモ受刑セスシテ濟メハ宜敷ト答ヘタル旨ノ供述並ニ戸高有利ニ對スル前示訊問調書ニ〇〇辯護士カ契約證書ヲ讀聞ケ臭レタルカ自分ノ心持トシテハ一日ニテモ受刑セハ百五十圓ヲ支拂フノ要ナク受刑セサル場合ニハ之ヲ支拂ハサル可カラスト云ハレタル故左樣ニ考ヘ契約シタル旨ノ證言記載ニ依レハ本件契約當事者ハ戸高ウメヲカ受刑スルコトナクシテ事件落着スルヤ否ヤニ重點ヲ置キ契約直後受刑スルコトナキコトヲ約定シ以テ前示末項掲記ノ特約條項中不起訴又ハ豫審免訴トナリ事件終了シタル場合ニモ謝金ヲ支拂フ可キ特ニ具體的ニ取極ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得可ク以上諸般ノ事情ヲ綜合考覈スルトキハ前示末項掲記ノ特約ノ存在ヲ否認スル前示戸高有利ノ供述ノ信憑スルニ足ラサルコトヲ認メ得ルト同時ニ本件契約締結當時被告人カ知的優者トシテ戸高有利ノ知的弱者ナルニ乘シ口約ニ反シ故ラニ曖昧ナル契約條項ヲ附加シタル事實アリト認ムルコトノ妥當ナラサルコトヲ確認スルヲ得ヘシ然レトモ前示末項掲記ノ特約ハ不起訴又ハ豫審免訴トナリタル場合ノミニ限ラス委任契約

ノ取消解除又ハ事件本人死亡等ノ場合ニモ亦其ノ適用アリ如斯場合ニ委任消滅スルコトハ法律及訴訟手續ニ精通スルモノニアラサレハ了解ヲ缺クコトナキヲ保シ難キカ故ニ斯カル特約ヲ爲ス場合ニハ須ラク其ノ各個ノ場合ヲ解說シテ了解セシメタル上特約取極ノ擧ニ出ツルヲ穩當ナリトナスヘキニ拘ラス戸高有利及熊谷宗義ニ對スル受命判事ノ各訊問調書ニ依レハ本件契約當時被告人ニ於テ右特約カ後者ノ場合ニモ其ノ適用アルコトヲ解說シテ戸高有利ヲシテ之ヲ了解セシメタル事跡ノ徵ス可キモノナシ如斯ハ紛議ヲ後日ニ遺スモノニシテ街モ法律事務ニ從事スル辯護士トシテ不用意不親切ナリトノ譏ヲ免レサルモ此一事ヲ以テ直ニ被告人ニ辯護士トシテ其ノ品位ヲ傷ケ又ハ其ノ體面ヲ瀆ス所爲アリタルモノト謂フヲ得ス次ニ前示借用證書ノ授受ニ關シ戸高有利ニ對スル前示訊問調書ニ昭和六年八月十五日被告人カ努力シテ無罪ニシタル故契約通謝金ヲ支拂ヒ呉レト云ヘルニ依リ其ノ要求ニ從ヒ前示借用證書ヲ差入ルルニ至リタルモノニシテウメヲカ不起訴トナリタルコトハ本年ニ入リ警察官憲ヨリ始メテ聞知シタル旨ノ證言記載アレトモ前記被疑事件記錄ニ於ケル熊谷宗義ニ對スル司法警察官ノ聽取書ニ戸高有利ト共ニ〇〇辯護士方ニ赴キタルトコロ同辯護士ハ「事件ハ濟ンタ罪ハ無イカラ約束ノ二百圓ヲ支拂ヒ呉レ金カ無ケレハ借用證書ヲ書ケ」ト云ヘルニ依リ戸高カ證書ヲ書キテ渡シタル旨ノ供述記載アリ右熊谷宗義ノ供述ニ依レハ被告人ハ戸高ウメヲカ不起訴トナリ無罪同樣ノ結果ヲ得タルコトヲ平易ニ說明スル爲「事件ハ濟ンタ罪ハ無イカラ」云々ト申向ケタルモノニシテ無罪ノ裁判アリタル趣旨ノ虛言ヲ構ヘタルモノニアラサルコトヲ窺知スルニ難シトセス加之是ヨリ數日前戸高有利ニ對シ被告人ヨリ書面又ハ口頭ヲ以テウメヲカ不起訴トナリタル趣旨ノ告知ヲ爲シタルコトハ當廷ニ於テ被告人ノ供述スルトコロニシテ當時戸高有利ニ於テウメヲカ不起訴トナリタルコトヲ知了シ之ヲ他人ニ明言セル事實アルコトハ當廷ニ於ケル證人佐藤正夫ノ證言ニ依リ之ヲ認メ得可キヲ以テ戸高有利ノ前示證言ヲ排斥シ被告人ハ同人ニ對シウメヲカ不起訴トナリタルコトヲ告知シタル後同人ニ交涉シテ前示着手金ノ殘金並ニ謝金ヲ貸借ニ改メタルモノニシテ本件貸借證書授受ニ際シ懲戒訴追ニ係ルカ如キ不遜ナル言動アリタルモノト認ムルヲ得ス然ラハ昭和六年八月七日戸高ウメヲカ不起訴トナリタルコト前示認定ノ如クナルヲ以テ被告人ハ戸高有利ニ對シ契約所定ノ着手金ノ殘金並ニ謝金ヲ請求スル權利アリ而シテ被告人カ其ノ權利ノ行使ニ付或ハ酷ニ失シタリトノ說アランカナレトモ凡ソ債權ノ行使ハ債權者ノ自由ニシテ債務者ノ資力信用誠意ノ有無カ債權行使ノ緩急ニ多分ニ影響ス可キコトハ理ノ當然ナルカ故ニ被告人カ本件債務者戸高有利ニ對シテ執リタル債權實行ノ手段方法カ必スシモ適正ナラサリシモノト斷シ難ク之ヲ以テ辯護士タル品位ヲ傷ケ又ハ體面ヲ瀆シタリトスルコトヲ得サルヤ亦論ナシ之ヲ要スルニ被告人ニ本件懲戒訴追ニ係ルカ如キ批議ス可キ非行アリタルコトハ之ヲ認ムルニ足ル證明ナキヲ以テ前示主文ノ如ク判決ス

（長崎控懲戒裁判所、八年（う）一號、辯護士懲戒事件、八年一〇月九日判決、法律新聞三六一九號五頁）

公證人法

第三十九條　公證人ハ其ノ作成シタル證書チ列席者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ囑託人又ハ其ノ代理人ノ承諾チ得且其ノ旨チ證書ニ記載スルコトチ要ス（下略）

●公正證書讀聞ケノ方法

公證人カ其作成シタル證書ヲ列席者ニ讀聞カセ且其旨ノ記載ヲ爲スコトヲ要スルハ公證人法第三十九條第一項ノ規定スルトコロナルモ其ノ記載ノ箇所及文詞ニ付テハ別段制限スルトコロナキカ故ニ苟モ公正證書ノ全文ヲ通讀シテ敘上ノ如キ記事存スルモノト解シ得ラルルニ於テハ法ノ要求スル形式ニ缺クルトコロナシト云ハサルヲ得ス　（大審院四民、七年(オ)三〇九五號、遺言無效確認請求事件、八年八月九日判決、法律新聞三五九三號一八頁）

司法代書人法

第九條　司法代書人ハ其ノ業務ノ範圍ヲ超エテ他人間ノ訴訟其ノ他ノ事件ニ關與スルコトヲ得ス

●司法代書人法九條違反ト刑法二五三條ノ業務　（刑法二五三條「司法代書人法九條違反ト業務」參照）

代書人規則

第十七條　本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ヲ處罰スルコトヲ規定シアルヲ以テ司法代書人法ニ依リ認可ヲ受クルコトナク司法代書人ノ業務ニ屬スル代書業ヲ爲スコトハ右代書人規則第十七條ニ依リ處罰セラルヘキコト勿論ニシテ其ノ者カ代書人規則ニ依リ代書人タル許可ヲ受ケタルト否トハ之カ犯罪ノ成立ニ消長ナキモノナリ　（大審院四刑、七年(れ)一五三六號、內務省令代書人規則違反司法代書人法違反被告事件、七年一二月二三日判決、法律新聞三五二二號七頁）

●代書人ノ司法代書人ノ業務ト處罰

行政裁判法

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以內ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但シ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規定ヲ適用ス

●出訴期間ノ始期認定　（庄川事件）

第一認可處分タル富山縣指令土第二六〇號ニハ「大正十一年一月三十一日附申請庄川河水使用ニ關スル計畫變更ノ件別紙命令書ヲ交付シ之ヲ許可シ同工事實施ノ件認可ス但シ堰堤工事（堰堤上ノ開扉魚道流材斜道及通船斜道等ヲ含ム）ニ關シテハ左記ノ條件ニヨリ設計ヲ立テ更ニソ

ノ認可ヲ受クヘシ」トアリ第二認可處分タル同縣指令土第六二號ニハ「大正十二年一月十一日附申請庄川筋小牧堰堤實施設計ノ件魚道ヲ除キ左記條件ヲ附シ之ヲ認可ス」トアリテ右各認可ハソノ內容ヲ異ニシ第一認可處分ニ依リテハ未タ堰堤工事ヲ實施スルコト能ハス第二認可處分ニヨリ始メテ之ヲ實施シ得ルモノニシテ原告ハ該工事ノ實施ニ因リ其ノ流木ニ關スル權利ヲ侵害セラルルモノトナシ以テ右第二認可處分ノ取消ヲ求ムル爲本訴ヲ提起シタルモノナレハ其ノ出訴期間ハ第二認可處分アリタル大正十五年三月三十日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス然ルニ本訴ノ提起ハ同年五月廿八日ニシテ法定期間內ナルコト明ナリ　（行政三、二年一二五號、五年一四一號、一九九號、二九四號、堰堤實施設計認可取消請求事件、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五四〇號七頁）

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

●縣令ニ依ル許可期間ヲ經過セル流木權ト行政訴訟　（庄川事件）（河川法六〇條同項參照）

●自動車運轉手ノ免許ノ取消ト行政訴訟　（次項參照）

明治二三年法律一〇六號

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ揭ク事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（抄）

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

●自動車運轉手ノ免許ト營業ノ免許

自動車取締令ニ依ル運轉手ノ免許ハ營業ノ免許ニ非サルカ故ニ其ノ取消ハ明治二十三年法律第百六號第三號ニ該當セス其ノ他法律勅令中本件ノ如キ事項ニ付キ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナキカ故ニ本訴ハ行政裁判法第二十七條第一項ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス　（行政二、七年二七〇號、自動車運轉手免許取消命令取消請求事件、七年一一月一四日判決、法律新聞三五〇四號一三頁）

訴願法

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ（下略）

●町村長ヲ經由セサル農會費督促處分ニ對スル訴願

訴願法第二條第一項ニ依レハ訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘキモノナルヲ以テ本件農會費督促處分ニ對シ訴願ヲ提起セントスルニハ該處分ヲ爲シタル東江村長ヲ經由スルヲ要スルモノトス　（行政三、七年二八二號、違法ニ關スル訴、八年三月二八日判決、法律新聞三五九五號一六頁）

府縣制

第二十七條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

五　議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ

●「どん」ト他事記入

第四號證ノ「どん」ハ他事記入ト認ムヘク而モ敬稱又ハ敬稱ノ類ト稱スルヲ得サルカ故ニ該投票ハ府縣制第二十七條第一項第五號ニ該當シ無效ナリ　（行政二、七年二四七號、府參事會ノ決定ニ對スル不服ノ訴、八年三月八日判決、法律新聞三五九二號一六頁）

●獨逸字ヲ以テ記載シタル投票ノ效力

丙第三號證ハ獨逸字ニテ記載シタルモノト認ムヘキカ故ニ府縣制第二十七條第一項第六號ニ該當シ無效ナリ被告及參加人ハ羅馬字記載ノ投票ヲ有效トスル當廳及大審院ノ判決ヲ引用シ主張スル所アルモ投票ハ點字ノ如キ特別ノ明文アル場合及羅馬字ノ如ク一般ニ慣用セラルルモノノ外邦字ヲ以テ記載スルコトヲ要シ獨逸字ハ未タ一般ニ慣用セラルル程度ニ達セサルカ故ニ其ノ主張ハ失當ナリ　（行政二、七年二四七號、府參事會ノ決定ニ對スル不服ノ訴、八年三月八日判決、法律新聞三五九二號一六頁）

第三十五條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

●違法ノ選擧人名簿ト選擧ノ效力

本件選擧ノ際日置莊村投票區ニ於テ使用シタル選擧人名簿ハ同村長代理助役中辻德太郎カ昭和五年十一月六日ニ至リ同四年九月十五日現在ノ調製ニ係ル同村ノ選擧人名簿ヲ採リ其ノ表紙以外ノ各葉ヲ其ノ儘用ヒ表紙ノミヲ取替ヘタルニ過キサルモノナルコトハ原告ニ於テモ認ムル所ナルノミナラス檢證調書ノ記載及證人中辻德太郎ノ供述ニ徵シ明ナリ而シテ證人辻德太郎ノ供述中ニ「私カ氣カ付イテ名簿ヲ急造シタ時ニハ既ニ成規ノ縱覽期間ニ入ツテ居リマシタノテ縱覽告示ハ到頭出サナカツタノテアリマス」トアリ是ニ依リテ之ヲ見レハ右選擧人名簿ハ昭和五年九月十五日ノ現在ニ依リ調製セラレタルニ非ス又縱覽場所ノ告示ナク正規ノ期間關係者ノ縱覽ニ供セラレタルニ非スシテ町村制第十八條及第十八條ノ二ノ規定ニ違反セルモノナルカ故ニ之ヲ無效トセサルヘカラス原告ハ右選擧人名簿ニ關シ又ハ昭和六年三月二十六日之ニ依リテ執行シタル同村會議員補缺選擧ノ效力ニ關シ何等ノ異議申立ナカリシカ故ニ該選擧人名簿ハ有效タルヘキモノナリト主張スルモ右異議申立ナカリシノ故ヲ以テ該選擧人名簿カ有效ト爲ルヘキ理ナシ然レハ日置莊村投票區ニ於テ右選擧人名簿ヲ使用シテ本件選擧ヲ執行シタルハ選擧ノ規定ニ違反セルモノニシテ從テ該投票區ニ於ケル投票ハ全部之ヲ無效トセサルヘカラス　（二）斯クノ如キ場合ニ在リテハ右無效投票ノ各議員候補者ニ歸屬セル數ハ明ナルニ由リ其ノ總得票數ヨリ之ヲ控除シタル上右投票區ニ於テ適法ナル手續ニ依リ選擧ノ執行セラルルヤ其ノ選擧人全部カ次點者ニ投票スルモノト假定シ其ノ數ヲ假ニ次點者ノ得票數ニ加算シ以テ各議員候補者ノ

得票數ヲ比較シテ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルヤ否ヤヲ定ムヘキモノトス（大正七年十二月二十日宣告同六年第一七四號事件判決參照）（行政一、六年三三五號・府縣會議員選擧ノ效力ニ關スル訴、七年一一月一〇日判決、法律新聞三五二三號一二頁）

地方官々制

第六條　知事ハ內部ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

●大正九年宮城縣令七二號ト地方長官ノ府縣令發布權限

大正九年宮城縣令第七十二號耕地整理及土地改良獎勵規則ニ依リ耕地整理及土地改良獎勵ノ爲行フヘキ事務ハ要スルニ耕地整理及土地改良ノ施行ニ關スル踏査調査設計工事監督等ニ外ナラサルコト同第一條ノ規定ニ依リ明白ナリ而シテ此等ノ事務ハ耕地整理法第七條第八十二條第八十四條開墾助成法第六條同施行規則第十四條水利組合法第七十二條等他ノ法令ニ依リ本來府縣知事ノ職務ニ屬スルモノナレハ府縣知事ハ特別ナル規定ヲ俟タスシテ地方官々制第六條ニ依リ此等事務ニ付府縣令ヲ發スルヲ得ルモノトス然レハ前記宮城縣令第七十二號ハ有效ノ法令ナルコト勿論ニシテ同縣知事カ權限ナクシテ發シタル無效ノモノナリトスルヲ得ス（大審院四刑、七年（れ）一四七六號、收賄被告事件、七年一二月一六日判決、法律新聞三五三四號一〇頁）

市制

第百三十二條　市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

●東京市佛貨公債事件判決（民法四〇三條同項參看）

都市計畫法

第六條　都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

●風致地區ノ指定ト道路ノ受益者

●受益者負擔額算定ノ基礎

道路ノ修築ハ交通其他一般ニ利益ヲ生シ殊ニ其ノ道路ニ隣接セル或地域ノ土地ノ所有者並其ノ土地ト密着セル關係ヲ有スル者カ他ノ一般ノ者ニ比シ著シク利益ヲ受クルコトハ普通ニ顯著ナル事例ナリ原告ハ本件受益者負擔金ヲ課セラレタル地域ハ風致地區ニ指定セラレ所有權ノ行使ニ制限ヲ受クルカ爲ニ本件道路ノ修築ニ因リ利益ヲ受クルトコロナシト主張スルモ道路ノ修築ト風致地區ノ指定トハ別個ノ行政行爲ナルヲ以テ風致地區ノ指定ニヨリ假ニ不利益ヲ受クルコトアリトスルモ之カ爲ニ道路ノ修築ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニアラストナスヘキニアラス從テ東京市長カ都市計畫法並之ニ基ク法規ニ依リ原告ニ對シ受益者負擔金ヲ賦課シタルハ正當ナリ而シテ都市計畫法第六條ハ公共團體ヲ統轄スル行政廳カ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ公共團體ハ其ノ費用ヲ支辨スヘク其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得ル趣旨ナリト解スヘク從テ公共團體カ其ノ費用ヲ支辨スヘク其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得ル趣旨ナリト解スヘク從テ公共團體カ其ノ工事費ニ對シ寄附並國庫補助ヲ受ケタルトキハ公共團體ハ既ニ其ノ限度ニ於テハ工事費支辨ノタメ收入調達ノ必要ナキニ至リタルモノナルヲ以テ公共團體カ都市計畫法第六條ニヨリ其ノ事業ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル者ヲシテ負擔セシメ得ル其ノ費用額全部ハ其ノ寄附並國庫補助金ノ限度ニ於テ減少シタルモノトナササルヘカラス然レハ昭和四年內務省令第三十四號第四條ニヨリ受益者ノ負擔スヘキ金額ヲ定ムル基本タル「其ノ事業費」ノ額モ其ノ事業ニ要シタル總額ヨリ其ノ工事費ニ對スル寄附並國庫補助金額ヲ控除シタル殘額トナスヲ相當トス故ニ本件ニアリテハ工事費總額金七十九萬五千三百六十七圓七十七錢ヨリ明治神宮奉讃會ノ寄附金十萬圓國庫補助金五萬圓合計十五萬圓ヲ控除シタル殘額金六十四萬五千三百六十七圓七十七錢ヲ以テ昭和四年內務省令第三十四號第四條ニ所謂「其ノ事業費」トナシ之ヲ基準トシテ關係法令ニ從ヒ各受益者ノ負擔ヲ定メ之ヲ賦課徵收スルヲ要ス　（行政一、六年一八八號、受益者負擔金賦課取消ノ訴、七年五月二一日判決、法律新聞三五〇三號一三頁）

●道路修築ノ受益者

都市計畫法第六條第二項及同法施行令第九條第四號ノ規定ニ依レハ都市計畫事業受益者負擔金ヲ賦課スルニハ其ノ賦課ヲ受クル者カ該事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ナルコト及內務大臣ニ於テ費用負擔者トシテ指定シタル者ニ該當スル者ナルコトノ二條件ヲ具備スルコトヲ要スルカ故ニ內務大臣カ關係內務省令ヲ以テ費用負擔者トシテ指定シタル者ニ該當スル者ト雖當該都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニ非サレハ之ニ對シテ受益者負擔金ヲ賦課スヘカラス（行政一、六年二八六號、都市計畫事業街路修築費負擔金ニ關スル件、八年四月一日判決、法律新聞三五九六號九頁）

第十二條　都市計畫區域內ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利益ヲ增進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

●都市計畫法施行ニヨル減坪ト民法六一一條ニヨル賃料減額　（民法六一一條同項參看）

第二十條　土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審查會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得ス

都市計畫法　（一二條、二〇條）

前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

●地上物件ノ收用請求ト都市計畫法二〇條

地上物件ノ所有者カ地上物件ノ移轉ニ代ヘ之カ收用ヲ請求シタル場合ニ於テハ都市計畫法第二十條第三項ニ依リ同條第一項第二項ノ適用ナク同法第十八條及土地收用法第三十五條ニ依リ收用審査會ニ於テ裁決スヘキモノトス（土地收用法三五條「都市計畫ニ於ケル地上物件ノ收用請求ト收用審査會ノ裁決」參照）（行政三、六年八五號、收用審査會裁決ニ對スル不服ノ訴、七年一月六日判決、法律新聞三五二三號一七頁）

特別都市計畫法

第六條　前條ノ土地區劃整理施行ノ爲必要アルトキハ換地豫定地ヲ指定シテ土地區劃整理施行地區內ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ少クトモ三月前ニ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ

所有者又ハ占有者カ前項ノ移轉ニ因リテ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ通常受クヘキ損害ニ限リ之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償金ハ補償審査會之ヲ決定ス

耕地整理法第二十五條並土地收用法第八十二條第一項及第二項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ關シ之ヲ準用ス

●土地區劃整理ノ換地處分ニ基ク建物ノ移轉ト其ノ同一性

特別都市計畫法ニ依リ建物アル宅地ヲ土地區畫整理施行地區ニ編入シ換地處分ヲ行ヒタル場合ニ於テハ交換セラレタル新ナル土地ハ舊土地ト同一ナル權利ノ目的トスヘキモノニシテ從テ舊土地ニ在ル建物ノ所有者カ之ヲ換地上ニ移築スル目的ヲ以テ之カ取毀ヲ爲シ其ノ材料ノ大部分ヲ用キテ新ナル土地ノ上ニ同一種類構造ノ建物ヲ築造シタルトキハ其ノ建物ハ從前ノ建物ト同一性ヲ失ハサルモノト謂フヘク尤モ新舊土地ノ形狀坪數ノ異動ニヨリ外觀及建坪ニ多少ノ變動ヲ生スルコトナキニアラサルモ特別ノ事情ナキ限リ其ノ同一ヲ害スルコトナキモノトス本件記錄ニ依レハ抗告人ハ相手方ニ對スル土地明渡請求事件ノ確定判決正本ニ基キ東京地方裁判所ニ家屋收去決定ヲ申請シ同裁判所ハ其ノ決定ヲ與ヘタル處相手方阿蘇新三ハ該決定ニ記載シアル淺草區南松山町三十七番地所在木造亞鉛葺二階建一棟建坪二十七坪外二階十八坪ノ建物ハ既ニ取毀タレ存在セストノ理由ヲ以テ該決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルニヨリ原院ハ其ノ抗告ヲ理由アリトシ右決定ヲ取消シ抗告人正覺寺ノ申請ヲ却下シタリ然レトモ東京區裁判所執達吏ノ作成シタル執行調書ニハ相手方阿蘇新三カ同執達吏ニ對シ右ノ建物ハ昭和三年七月二十日之ヲ取毀チ區劃整理ニヨル換地上ニ現存ノ木造トタン葺二階建一棟建坪二十坪二合五勺二階十三坪五合及木造トタン葺二階建一棟建坪四坪一合二勺二才ヲ新築シタリト陳述シタル旨記載アリ此ノ陳述ノ趣旨ハ本件土地ニ就キ昭和三年七月中區劃整理施行セラレタル結果從前ノ建物ヲ換地上ニ移築スル爲之ヲ取毀チテ更ニ二棟ト爲シ坪數ヲ減シテ之ヲ新ナル土地ノ上ニ建造シタル事實ヲ述ヘタルモノト解シ得ヘシ果シテ然ラハ木造亞鉛葺ナルト二階建ナルトヲ問ハス新舊ノ建物ニ於テ同一ナレハ特別ノ事情ナキ限リ兩者ハ同一性ヲ有スルモノト推定スヘク從テ家屋收去決定ニ揭ケタル家屋ハ未タ消滅シタルモノト謂フヲ得サルモノトス然ルニ原院カ本

件土地ニ區劃整理ノ施行セラレタル事實現在ノ建物ハ新換地上ニ建築セラレタルモノナル事實ヲ認メナカラ其ノ建物ハ舊建物ヲ移築スル目的ヲ以テ建造セラレタルモノナルヤ否ヤヲ審理セスシテ單ニ舊建物カ取毀タレタルノ一事ニ依リ前示決定ニ揭ケタル本件家屋ハ既ニ存在セサル旨ヲ判示シテ該決定ヲ取消シタルハ審理不盡理由不備ノ不法アルモノト謂ハサルヲ得ス即チ原決定ハ取消ヲ免レサルモノトス（大審院一刑、八年(カ)一八〇號、土地明渡請求事件ノ家屋收去決定ニ對スル相手方ノ抗告事件、八年三月六日決定、法律新聞三五五四號八頁）

市街地建築物法

第七條　道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

●**建築線ノ指定ト工事施行無キコトノ認定**（審理不盡）

若市街地建築物法ニ依ル建築線ノ指定アリタルモノトセハ同法ノ適用上單ニ指定後若干ノ歲月ヲ經過シタル理由又ハ指定ノ申請ヲ爲シタル者ノ都合ニ因リ申請者側ニ於テ其ノ必要ナキニ至リタル事情ノミニ依リテハ未タ當然ニ右指定ニ基ク工事ノ施行ナキコトト爲リタルモノト云フヘカラサルヲ以テ原審カ本件ニ於テ前示指定アリタル事實ヲ確定シタルモノトセム乎更ニ右指定ノ後ニ於テ指定ニ基ク工事ノ施行ナキコトカ決定的ノモノト爲リタル特段ノ事情ノ存在スルコトヲ確定スルニ非サレハ輒ク上告人ニ五百圓返還ノ義務アルコトヲ判定スヘカラサルモノトス（大審院一民、六年(オ)七四一號、轉付金請求事件、七年二月一日判決、大審院裁判例六卷民事一〇頁）

町村制

第八條　町村公民ハ町村ノ選擧ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止スルコトヲ得

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二　業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三　年齡六十年以上ノ者

四　官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五　四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六　其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

●**村會議員辭職理由ノ當否**

原告カ神奈川縣足柄下郡大窪村會議員タリシ處同村吏員ニ越權不當ノ行爲ヲ爲ス者アリトシ之カ懲戒方ヲ村長ニ進言シタルモ容レラレス尙村長ニ對シ反省ヲ促シタルモ所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシ爲昭和六年十二月十日辭職屆ヲ村長ニ提出シタルコトハ當事者間爭ナキ所ナリ

而シテ原告ノ右辭職ノ理由ノ如キハ町村制第八條第二項第一號乃至第五號ニ該當セサルハ勿論同項第七號ニ所謂正當ノ理由アルモノトモ認メ難キヲ以テ大窪村會カ原告ノ辭職ハ正當ノ理由ナキモノト認メ原告ノ同村公民權ヲ停止シタルハ適法ニシテ且其ノ停止期間二年モ過當ニ非ス然ラハ本件大窪村會ノ議決及之ヲ是認シタル被告ノ裁決ハ相當ナリ　（行政三、七年一六三號、公民權停止ニ關スル縣參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴、八年一月二八日判決、法律新聞三五六三號一四頁）

第二十五條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

七　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

●文字ニ非サル通稱ノ記載ト投票ノ效力

（一）被選擧人ノ氏名及町村制第二十五條第六號但書ニ列擧スル事項ハ總テ文字ヲ以テ記載スルコトヲ要ス然ルニ選擧會カ五十嵐銀藏ノ有效得票トテ被告カ無效ト爲シタルモノノ中乙第一號證ノ一ニハ被選擧人ノ氏名ノ外「㊦」ナル記載アリ其ノ二ニハ被選擧人ノ名ノ外同樣ノ記載アリ而モ「㊦」ハ文字ニ非サルコト勿論ナルヲ以テ其カ五十嵐銀藏ノ通稱ナリトスルモ此等ノ三票ハ何レモ同條第七號ニ該當シ無效タルヘキモノトス（昭和五年二月廿一日宣告當廳同四年第二百九十八號事件判決參照）（二）選擧會及被告カ加藤美代吉ノ有效得票ト爲シタルモノノ中甲第一號證ノ一及二ハ字體筆勢墨色等ニ徵シ型ニ依リ描出シタルモノト認ムルヲ得サルカ故ニ右二票ハ無效ト爲スヘキニ非ス選擧會カ無效トシ被告カ同人ノ有效得票ト爲シタル乙第二號證ハ同人ノ氏名ノ頭字ヲ書スル際書キ誤リタル爲之ヲ抹消シ其ノ下部ニ同人ノ氏名ヲ記載シタルニ過キスシテ其ノ第一字ハ有意義ノ記載ト認ムルコトヲ得サルカ故ニ無效ト爲スヘキニ非ス從テ同人ノ有效得票ハ十七票ナリ（三）選擧會カ無效トシ被告カ齋藤福太郎ノ有效得票トシタル乙第三號證ノ右側欄外ノ墨痕ハ被告主張ノ如ク折疊ミノ際生シタル汚染ニ過キサルヲ以テ他事記入ト認ムヘキニ非ス　（行政二、七年二八四號、村會議員當選ノ效力ニ關スル訴、八年二月一〇日判決、法律新聞三五四〇號一八頁）

第四十五條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

前項假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム特別ノ事情アル町村ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス町村條例ヲ以テ町村會ノ選擧ニ依ル議長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第四十八條及第四十九條ノ規定ヲ準用ス

●議長ノ任意退場ト助役ノ議事續行ニ依ル町村長選擧ノ效力

議長議事ヲ繼續スヘキモノナルニ拘ラス任意ニ議長席ヲ去リ退場シタル以上議長ニ故障アルモノト認メ助役カ町村制第四十五條第一項ノ規定ニ依リ議長ノ職務ヲ代理シテ議事ヲ續行シ村長選擧ニ關スル動議ノ採決ヲ爲シ其ノ可決セラレタル上ニテ執行シタル本件村長選擧ハ違法ニ非ス　（行政三、七年一一四號、村長選擧取消請求ノ訴、七年一二月二四日判決、法律新聞三五二六號一七頁）

第四十七條　町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ付スヘキ事件ヲ示シテ町村會招集ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ更ニ期限ヲ定メ町村會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

●小學校建築請負代金並小學校教員俸給支拂ト急施ヲ要スル場合

原告ハ本件村會招集當時既ニ支拂期限ニ達セル本村ノ債務ハ小學校建築請負代金金五千十圓、小學校教員等ノ俸給等三箇月分金二千六百七十九圓等合計金一萬三百十四圓ニシテ就中請負代金ニ付テハ債權者ノ督促急ナルモノアリシ爲本件一時借入金借入先變更ノ件ヲ急施事件トシテ本村會ヲ招集シタルモノニシテ違法ニ非サル旨主張スルモ小學校建築請負代金ノ如キハ同年五月二十三日ノ期限ナルニ之ヲ當日マテ未拂ト爲シ置キタルモノ、小學校教員等ノ俸給等ハ七、八兩月分モ未拂ト爲シ置キタルモノナルコトハ原告ニ於テモ爭ハサル所ナレハ本件村會ヲ招集スルニ付數日ヲ爭フノ必要ナシ從テ本件村會ヲ急施ヲ要スル場合トシ町村制第四十七條第三項本文ノ告知ヲ爲サスシテ招集シタルハ違法ニシテ本件村會ハ適法ニ成立シタルモノト云フヲ得ス從テ本件村會ニ於テ執行シタル本件選擧ハ違法ナリ原告ハ村長選擧ハ村會ノ權限ニ專屬シ且其ノ告知ヲ要セサル事案ナルヲ以テ同條ノ規定ニ拘束セラルルモノニアラスト主張スルモ本件村會ノ招集カ違法ニシテ本件村會カ適法ニ成立シタルモノニアラサルコト前示ノ如クナル以上本件村會ニ於テ爲シタル本件選擧ハ違法タルヲ免レス原告引用ノ當廳判決ハ適法ニ招集セラレタル市會開會中議決ヲ爲シタル事案ニ關スルモノナルヲ以テ本件ノ先例ト爲スニ足ラス之ヲ要スルニ原告ノ主張ハ總テ理由ナク本件村長選擧ハ違法ナルヲ以テ之ヲ取消シタル被告ノ處分ハ正當ナリ　（行政二、七年三四號、町長選擧有效確認並ニ村長選擧取消處分ニ對スル不服ノ訴、八年四月二一日判決、法律新聞三五九六號一一頁）

第六十三條　町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧ス（下略）

●町村長選擧ノ手續

町村制第六十三條第一項ニ依レハ町村長ノ選擧ニ付テハ町村會ノミ發案權ヲ有シ町村長ハ之ヲ有セサルモノナルカ故ニ町村長ノ選擧ハ先ツ町村會ニ於テ之ヲ行フヘキヤ否ニ付採決シ之ヲ行フヘキモノト決シタル場合ニ於テ初メテ之ヲ行フヘキモノトス然ルニ本件ニ於テ議員ヨリ議事日程ヲ變更シ先ツ村長選擧ヲ行フヤ否ニ付議決ヲ爲スヘキ旨ノ發議アルヤ議長ハ該選擧ヲ行フヘキヤ否ニ付採決スルコトナク直チニ選擧ヲ行ヒタルハ當事者間ノ爭ナキ所ナルカ故ニ本件選擧ハ違法ニシテ被告カ之ヲ取消シタルハ正當ナリ　（行政二、七年九〇號、村長取消處分ニ關スル訴、八年四月二一日判決、法律新聞三五九六號一三頁）

第六十九條　町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ委員ニ之ヲ準用ス

委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

●町村ノ委員ノ就任時期

町村制第六十九條ノ町村ノ委員ハ刑法第七條ノ公務員ニシテ第六十三條第三項第四項ニ依レハ委員ノ選任ニ關スル告知及承諾ヲ爲スノ方法ニ付テハ何等定ムルトコロナキヲ以テ同被告人等ニ對スル委員選定ノ告知及其ノ承諾カ書面ニ依ラサリシトスルモ毫モ違法ニ非ス（刑法七條「町村共同耕地整理臨時委員ト公務員」參照）（大審院三刑、八年(れ)三二七號、收賄被告事件、八年六月七日判決、法律新聞三六〇七號一七頁）

第七十一條　前數條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

●町村會ノ書記ト町村制七一條ノ有給吏員

町村會ノ議長カ町村會ノ爲ニ任命シタル有給書記ハ町村制第七十一條ノ有給吏員ニ該當シ其ノ報酬等ノ給與ニ關シテハ同法第八十七條ノ手續ニ依ルヘク通常裁判所ニ出訴スヘキモノニ非ス（大審院一民、七年(オ)一〇五七號、日當金請求事件、八年一月一六日判決、法律新聞三五四四號一二頁）

第七十二條　町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ（抄）

二　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

●同一村内ニ於ケル兩個ノ部落間ノ訴訟ト其ノ代表

同一町村ノ一部タル二個ノ部落カ各財產ヲ有スル場合ニ於テハ町村制第百二十四條第七十二條ノ規定ニ基キ同一町村長カ其ノ財產ヲ管理スヘキモノナルカ故ニ其ノ財產ニ關シテ紛爭ヲ生シ兩部落間ニ訴訟ヲ提起スルノ已ムナキニ至リタルトキハ同法第四十條ノ規定ニ從ヒ町村會ノ議決ヲ經テ同一町村長ニ於テ兩部落ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲シ得ヘキモノナリ（大審院二民、七年(オ)二四六二號、土地共有權不存在確認並登記抹消請求事件、八年五月一六日判決、法律新聞三五六一號一一頁）

●町村長ノ町村有ノ物ノ占有保管ト業務（刑法二五三條同項參照）

第七十九條　助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

●小學校ノ建築工事ト町村助役ノ職務（刑法一九七條同項參照）

第八十條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村會ハ町村長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

●收入役ニ非ル者ノ金員受領ト町村ノ貸借

原判決ノ認定ニ依レハ本件消費貸借ノ目的物タル金三千圓ハ貸主タル上告人先代ヨリ借主タル被上告村ノ收入役（又ハ町村制第八十條ノ手續ヲ經テ收入役ヲ代理シ又ハ其ノ事務ヲ分掌シ得

ヘキ吏員）ニ交付セラレタルニ非ラスシテ被上告村ノ收入役名義ノ僞造受領證書ヲ持參シタル加藤金治ニ交付セラレタルモノトス然ルニ町村ノ收入役（又ハ町村制第八十條ノ手續ヲ經テ收入役ヲ代理シ又ハ其ノ事務ヲ分掌シ得ヘキ吏員）ノ職務權限ニ屬シ其ノ他ノ者カ之ヲ受領スルモ其ノ受領行爲ハ町村ニ對シ效力ヲ生セス從テ加藤金治ノ右金三千圓ノ受領行爲ハ被上告村ノ爲メニ效力ヲ生セス殊ニ原判決ノ認定ニ依レハ加藤金治ハ被上告村ノ爲メ收入役ノ職務權限ニ屬スル行爲ニ付何等ノ代理權限ヲモ有セサルヲ以テ上告人先代カ加藤金治ニ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシト否トヲ問ハス同人ノ右受領行爲ハ民法第百十條ニ依リ被上告村ニ對シ效力アルモノト爲スヲ得ス從テ本件消費貸借ハ成立セサルモノトス（大審院五民、八年（オ）五號、貸金請求事件、八年五月五日判決、法律新聞三五五四號一六頁）

第八十七條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以內ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

●町村會ノ書記ノ報酬請求

原審ノ確定シタル事實ニ依レハ上告人ノ本訴請求ハ被上告村ニ對シ村會ノ議長カ村會ノ爲ニ任命シタル有給書記ノ報酬ヲ求ムルモノナリト云フニ在リ然リ而シテ前示有給書記カ町村制第七十一條ノ有給吏員ニ該當シ之ニ對スル報酬等ノ給與ニ付テハ同法第八十七條所定ノ手續ニ依ルヘク通常裁判所ニ出訴スヘキモノニハ非ス（大審院一民、七年（オ）一〇五七號、日當金請求事件、八年一月一六日判決、法律新聞三五四號一二頁）

第九十八條　三月以上町村內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

●三ケ月以上滯在ナキ認定

原告カ昭和三年ニ至リ高松市福岡町二十三番地所在ノ宅地及住家ヲ買求メ屋島村ノ舊住宅ヨリ日常生活ニ必要ナル家財道具ヲ運搬シテ同所ニ一戶ヲ構ヘ妻トヨ四女イヲエヲ居住セシメ同四年本籍ヲ同所ニ移シ屋島村ノ舊住宅ニハ分家シタル六男義一カ其ノ妻及子女二名ト居住シ長男四男五男七男ハ何レモ屋島村ニ居住セサルコトハ當事者間爭ナキ所ナルヲ以テ原告ハ高松市ニ戶ヲ構フルト同時ニ屋島村ノ住所ヲ撤廢シ同市ニ移住シタルモノト認ムルヲ相當トス又原告カ高松市ニ住所ヲ移轉シタル後ト雖モ屋島村ニ於ケル鹽田經營ニ關シ同村ニ往來セルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナレトモ原告ヲ以テ同村ニ三箇月以上滯在ノ事實アル者トモ認ムルニ足ル確證ナシ然レハ昭和三年以後同村ニ住所ヲ有セス又三箇月以上ノ滯在ノ事實ナキ原告ニ對シ同村長カ係爭戶數割ヲ賦課シタルハ違法ニシテ該賦課ヲ是認シタル同村會ノ決定並被告ノ裁決モ亦失當ナリ（行政三、七年二六七號　村稅戶數割賦課決定取消ノ訴、八年一月三一日判決、法律新聞三五六三號一五頁）

市制町村制施行令

第三十三條　市町村吏員其ノ管掌スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

●市町村吏員ニ對スル損害賠償ト相續人

市制町村制施行令第三十三條ニ依ル市町村吏員ニ對スル損害賠償ノ命令ハ該吏員ノ死亡ニ因ル相續人ニ對シテ之ヲ爲シ得ヘシ（大正九年第百八十二號同十一年五月二十五日宣告參照）（行政三、四年三六號、村收入役賠償責任ニ關スル訴願ニ付テノ府參事會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴、七年一一月一二日判決、法律新聞三五〇四號一一頁）

特許法

第一條　新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

●合金鋼ト發明ノ新規

原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本件出願ノ要旨ハ炭素〇、一乃至〇、二%ヲ含有シ銅及「クローム」トノ比カ一乃至三對一タルコトヲ特徵トシ大ナル負荷ニ耐ユル建築材料ニ使用スヘキ或形鐵棒鐵平鐵又ハ薄板鐵ヲ得ムトスルモノナル處既ニ公知ニ屬スル特許第六二七三四號ノ鋼ハ炭素三、五%以下銅〇、一五乃至〇、五%及「クローム」〇、三乃至三、五%ヲ含有スルモノナリト云フニ在リテ原審ハ本件出願ハ右特許ノ範圍ニ當然ニ包含セラルルモノナルコトヲ判定シタリ然リト雖右特許ニ揭クル炭素鋼及「クローム」ノ各含有量ハ比例ハ本件出願ノモノニ比シ其ノ範圍廣汎ニシテ右比例ノ範圍內ニ於テ本件出願ノモノヲ包含スルコト算數上言ヲ俟タサルトコロナリト雖事ハ特許ノ問題ニ係ルカ故ニ右特許ノ揭クル比較的廣汎ナル比例ノ範圍內ニ於ケルモノカ總テ悉當然一個ノ特定的ノ價值並效能ヲ有スルモノナリヤ即右廣汎ナル比例ノ範圍內ニ於テ各成分ノ含有量ヲ種々ニ按配シ夫々差等ヲ設ケテ合金鋼ヲ作ルモ其ノ含有量カ前示比例ノ範圍內ニ存スル限各種按配ノ下ニ合成セラレタルモノハ常ニ同一ノ價值並效能ヲ有スルモノナリヤ將タ又右比例ノ範圍內ニ在リテモ右含有量ノ按配ヲ異ニスルトキハ其ノ按配ノ如何ニ依リテハ夫々其ノ價值並效能ヲ異ニスル合金鋼ヲ作ルコトヲ得ルモノナリヤ若前者ノ如クナラハ則可ナラムモ後者ノ如クナリトセハ本件引用ノ特許ハ其ノ揭クル比較的廣汎ナル比例ノ範圍內ニ於ケルアラユル按配ノ一切ノ合金鋼換言スレハ前示比例ノ範圍內ニ於テ凡ソ案出シ得ヘキ各其ノ價值並效能ヲ異ニスル全部ノモノヲ目標トシテ發明セラレ其ノ趣旨ニ於テ果シテ特許カ賦與セラレタルモノナリヤ本件ニ關スル限ニ於テハ少クトモ本件出願ノモノカ其ノ要旨ニ揭クルカ如キ特徵ヲ有スルモノトセハ本件引用ノ特許ハ既ニ本件出願ノ如キ按配ノ下ニ於テハ右要旨所揭ノ如キ特徵ノ合金鋼ヲ作ルコトヲ得ルコトヲ意識シテ發明セラレ其ノ趣旨ニ於テ果シテ特許カ賦與セラレタルモノナリヤ叙上ノ點ヲ明ニスルニ非サレハ未タ遽ニ本件出願ヲ排斥スルニ足ラサルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原審決ハ右ノ點ニ付判斷ヲ缺如スルヲ以テ審理不盡若ハ少クトモ理由不備ノ違法アルヲ免レサルモノナリ（大審院一民、六年(オ)一二〇一號、特許願拒絕查定不服事件、七年三月一七日判決、大審院裁判例民事六卷七五頁）

●蓄電器型絕緣套管ノ作成ニ使用スル含浸劑ト發明ノ新規

原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本願發明ノ要旨ハ導電材料層及誘電材料層ヲ同心的ニ交裝セル蓄電器型絕緣套管ニ於テ誘電材料ハ紙ニテ厚サ〇・一二五粍面積一平方糎ノ薄紙カ水銀柱六十五粍ナル壓力ノ空氣百立方糎ヲ透過セシムルニ二十一秒又ハ夫レ以上ヲ要スルカ如キ有孔度ヲ有シ兩材料層ヲ保持スル結着材ヲ紙ヲ導電材料ニ保持セシムルニ足ル程度ニノミ紙中ヘ透入セシメタル蓄電器型絕緣套管ニ存スト云フニ在リ由是觀之本願發明ノ要旨トスルトコロハ誘電材料ヲ厚サ〇・一二五粍面積一平方糎ノ薄紙カ水銀柱六十五粍ナル壓力ノ空氣百立方糎ヲ透過セシムルニ二十一秒又ハ夫レ以上ヲ要スルカ如キ有孔度ノ紙ヲ使用スルコト並導電材料層及誘電材料層ヲ保持スル結着材ヲ紙ヲ導電材料ニ保持セシムルニ足ル程度ニノミ紙中ヘ透入セシメタルコトニ存スルコト明ナリ然リ而シテ從來右ノ兩材料層ヲ結着スルコトヲ兼ネタル含浸劑ヲ紙全體ニ施シタルヲ本願發明ノ如ク一部含浸スルコトニ止メ而モ之カ爲上告人主張ノ如ク蓄電器型絕緣套管中ニ於テ熱ニ化スル電氣損失ヲ減殺シ且所與ノ電線電壓ニ對スル所要ノ材料層ヲ著減スルノ效果アリトセンカ本願ハ新規ナル發明ヲ構成スルモノト云ハサル可カラス故ニ本願ヲ拒絕セントスルニハ須ク右ノ點ヲモ發明ヲ構成セサル理由ヲ說明セサル可ラス然ルニ原審ハ其ノ審決ノ理由ニ於テ「導電材料ト紙ヨリナル誘電材料トヲ同心的ニ交互ニ裝備セル蓄電器型絕緣套管ハ從來普通ニ使用セラルル所ニ屬シ而シテ本願ハ右公知品ノ誘電材料トシテ用ヒラルル紙ノ緻密度ヲ厚サ〇・一二五粍面積一平方糎ノ薄紙カ水銀柱六十五粍ナル壓力ノ空氣百立方糎ヲ透過セシムルニ二十一秒又ハ夫レ以上ヲ要スル程限定セリト雖誘電材料トシテ用ヒラルル紙質ノ緻密ナルヲ要スルハ顯著ノ事實ナレハ本願ニ於テ此ノ點ニ於ケル如ク限定スルカ如キハ當業者ノ容易ニ推考シ得ル所ニ屬シ時ニ發明思想ヲ要スルモノト認ムルヲ得ス」ト判示シタルノミニテ含浸劑（結着劑ヲ兼ヌ）ヲ紙全體ニ施サスシテ其ノ一部ニ透入セシムルコトノ考案カ果シテ新規ナル發明ヲ構成スルヤ否ヲ說明セスシテ輒ク本願ヲ拒絕シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ違法アルモノニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ原審決ハ此ノ點ニ於テ全部破毀ヲ免レサルモノトス（大審院五民、六年（オ）二二四五號、特許願拒絕査定不服事件、七年三月二五日判決、大審院裁判例六卷民事八八頁）

●公知ノ操作ノ組合セト發明ノ新規

工業的製品ノ製造ニ關スル數個ノ公知ニ屬スル操作方法ト雖適當ニ之ヲ組合スニ於テハ個々ノ操作ニ比シ特殊ナル工業的效果ヲ擧クルコト必スシモ之ナシトセサルヘク從テ單ニ個々ノ操作カ既ニ公知ナルノ故ヲ以テ其ノ組合セタルヲ去ル可キニ非ス（大審院五民、六年（オ）二三二〇號、特許願拒絕査定不服事件、七年四月二六日判決、大審院裁判例六卷民事一二〇頁）

●作用效果ノ差異ト發明ノ新規

本願特許發明ノ性質及目的ノ要領ニハ「本發明ハ「タール」又ハ不飽和化合物含有量多キ鑛油ヲ蒸餾スルニ當リ其ノ蒸餾罐ト冷却器トノ間ニ觸媒ヲ裝入セル容器ヲ備ヘ既ニ加熱分解ヲ受ケ餾出セル油蒸氣ヲ其ノ沸點附近ノ溫度ニテ吸着性又ハ分離轉位性觸媒ニ觸レシメ不安定成分ノ分解並安定性ヲ併起セシメ其ノ後冷却凝結セシムル鑛油蒸餾法云々」ト記載シ又其ノ特許請求範圍ニハ「前記ノ目的ヲ達スル爲木材石炭油母頁岩「タール」等ノ原油ヲ蒸餾シ或ハ石油ヲ加壓蒸餾スルニ當リ蒸餾罐ト冷却器トノ間ニ分解性又ハ分子內轉位性觸媒例ヘハ銅亞鉛鐵「カドミウム」「コバルト」「マンガン」等ノ金屬又ハ酸化物若ハ鹽化物等ヲ充塡シタル容器ヲ備ヘ油蒸

氣ヲ其ノ沸點以上ニテ接觸劑ト作用セシメ後冷却凝結スルコトヲ特徴トスル鑛油蒸餾方法」ト記載シアルコトハ記錄ニ徴シテ明ナリ由是觀之本願特許發明ノ要旨トスルトコロハ木材石炭油母頁岩「タール」等ノ原油ヲ加熱シ其ノ加熱分解ニ依リテ生シタル低級炭北水素ニ安定性ヲ附與スルコトヲ目的トシ該炭化水素ノ凝結液化セントスル刹那ニ於テ比較的低溫度即沸點附近ノ溫度ニテ觸媒處理ヲ爲スモノナルコトハ疑ヲ容レサル所ナリトス然ルニ原審ハ本願發明ハ觸媒ニ依リ炭化水素ノ加熱分解ヲ要旨トスルモノニ過キサルモノト誤認シ從テ本願ハ特許第二八八八號ト同一ニシテ其ノ作用效果ニ於テモ著シキ差異アルモノニ非サルニヨリ新規ナル發明ヲ構成セストナシ輒ク上告人ノ出願ヲ拒絕シタル初審ノ査定ヲ認可シタルハ不法ニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ原審決ハ此ノ點ニ於テ全部破毀ヲ免レサルモノトス　（大審院五民、七年（オ）一一八一號、特許願拒絕査定不服事件、七年一〇月二一日判決、大審院裁判例六巻民事二八九頁）

●内燃機關ト發明ノ新規

本發明ノ要旨ハ氣笛ニ連結セル補助燃燒室ヲ有スル內燃機關ニ於テ該補助燃燒室ノ容積ヲ大氣壓ノ下ニ氣笛內ニ供給セラレタル空氣容積ノ〇、〇〇四乃至〇、〇一五トナシ內部ニ衝突面、跳返面及之等ニ類似セル形狀ヲ備ヘシメ適宜裝置ニ依リ該補助燃燒室ノ容積ヲ變化調節セシメ尙補助燃燒室端ニ連結セル噴射嘴口ノ有效面積ヲ增減セシムルコトニ依リ補助燃燒室內ノ燃料ノ氣笛內ニ對スル過早噴射ヲ爲サシメサルト共ニ適時自己噴射ヲ爲シ得ヘクセル液體又ハ粉末固形燃料ヲ使用スル內燃燒機關ニ存スルコト原審ノ確定セル所ナリ從テ本願發明中ニハ內燃燒機關ニ液體燃料ノ外ニ併セテ粉末固形燃料ヲ使用シ機械ノ構造ト相待テ其機能ヲ大ナラシムルノ點存スルコトハ之ヲ窺知スルニ足ルヲ以テ原審ハ此點ヲモ審査シ本願カ新發明ニ該當スルヤ否ヤヲ判定セサル可カラス然ルニ原審ハ何等此點ニ付說明ヲ爲サス漫然上告人ノ本件請求ヲ排斥シタルハ本件發明ノ趣旨ヲ誤解シタル不法アルカ又ハ粉末固形燃料ヲ使用スルモ尙發明ヲ構成セサル所以ノ理由ヲ遺脫シタル不法アルモノニシテ原審決ハ全部破毀ヲ免レス　（大審院三民、六年（オ）二七六八號、特許願拒絕査定不服事件、七年七月一六日判決、大審院裁判例六巻民事二二〇號）

第四條　本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヰラレタルモノ

二　特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

●鑛石還元法ト公知

本件特許請求ノ方法ハ單約ニ鑛石ヲ還元スル方法ニ非スシテ其ノ還元ノ階程ニ於テ輕炭化水素ヲ生成シ以テ燈火用瓦斯等ヲ得ントスルニ在ルコト明白ナリ然ルニ原審決ヲ見ルニ（イ）金屬酸化物ヲ含有スル鑛石ヲ還元剤ト共ニ連續的ニ爐內ニ供給シテ還元ニ十分ナル溫度ニ加熱シ以テ該鑛石ヲ還元スルコト（ロ）還元劑トシテ重炭化水素ヲ使用スルコトハ本願ノ亞米利加合衆國ニ於ケル特許出願前何レモ帝國內ニ於テ顯著ナル公知ノコトニ屬シ本願ノ方法ハ右公知事實ヨリ發明力ヲ要セスシテ容易ニ推考實施シ得ル程度ノモノニシテ特許法第一條ニ所謂發明ヲ構成セスト說示シ上告人ノ請求ヲ排斥セルモ此ノ說示ニ依レハ原審カ還元劑トシテ重炭化水素ヲ使用スルコトハ公知ニ屬スト認メタルコトハ之ヲ知リ得レトモ其ノ還元ノ階程ニ於テ重炭化水素ヲ分解シ輕炭化水素ヲ生成スルコトノ方法モ亦既ニ公知ノ事ニ屬スト爲セルモノナリヤ否明

白ナラス若シ原審ニシテ之ヲ公知ノ事ナリト認メタルモノトセハ審決中ニ明ニ之ヲ示ス必要アルコト論ナク又若シ然ラスシテ從來ノ方法ハ單純ニ鑛石ヲ還元スル方法ノミニシテ其ノ階程ニ於テ輕炭化水素ヲ生成スル方法ハ未タ案出セラレサリシモ如此ハ容易ニ在來ノ方法ヨリ推考實施シ得ルモノニシテ發明ヲ構成セスト判定セルモノトセハ其ノ然ル所以ノ理由ヲ示ス必要アルノミナラス其ノ生スル經濟的利益ノ差異如何ニ付テモ顧慮ヲ拂ヒタルコトヲ明ニスルノ要アルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原審カ事玆ニ出サルコトナク漫然叙上ノ理由ノミニ由リテ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ理由不備ノ違法アルモノニシテ原審決ハ此ノ點ニ於テ全部破毀ヲ免レス　（大審院三民、六年（オ）二六四三號、特許願拒絶査定不服事件、七年八月六日判決、大審院裁判例六卷民事二四〇頁）

●實用新案權ト特許權ノ牴觸ト特許法上ノ公知

實用新案權ハ物品ニ關シ形狀構造又ハ組合セニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案者ニ對シ附與セラルル權利ナルニ反シ特許權ハ新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ニ對シ附與セラルル權利ナルコト實用新案法第一條特許法第一條ニ照シ明カナルトコロニシテ從テ實用新案權ヲ得タル物品ト特許權ヲ得タル物品トカ偶々其材料並ニ製造工程ノ一部ニ付相同シト雖モ各別個ノ特徴ヲ有スル權利ナレハ斯カル實用新案權カ十年ノ存續期間滿了ニ依リ消滅シ之カ型ノ工業的考案カ公知公用ノモノトナリタリト雖モ直ニ右特許權カ特許法上公知公用ノモノトナリト謂フヲ得サルハ勿論右特許權ニ屬スル物品ノ材料並ニ其配合及製造方法カ秘密ニセラレ未タ帝國內ニ於テ何人モ刊行物等ニ依リ容易ニ應用シ得ル程度ニ於テ一般ニ知レ亘リ居ラサル以上ハ特許法上公知ナリト云フヲ得サルモノトス　（東京地一四民、七年（ヰ）一七四一號、假處分請求事件、法律新聞三五二一號九頁）

●硝子面ノ美化ト刊行物記載

原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本件特許第五〇三〇七號ノ發明ノ要旨ハ鹽化鐵ノ酒精溶液ヲ加熱硝子面ニ噴射シテ光彩ヲ生セシムルモノニシテ刊行物トランスアクションスオブゼーアメリカンケミックソサイテイー第十二卷第二百九十四頁所載ノモノハ鹽化錫ヲ水及糖蜜ト混シ之ヲ作業口ニ於テ仕上リ硝子器面ニ噴氣機ヲ以テ吹付ケ以テ硝子器ノ面ニ美シキ光彩ヲ生セシムルモノトス然レハ本件特許ニ在リテハ液體ヲ硝子面ニ噴射スルニ刊行物記載ノモノニ在リテハ液體ヲ混シタルモノトカ均等ノモノナリトスルモ其ノ硝子面ニ光彩ヲ生スル作用及效果ニ著シキ差異ヲ生スルモノナルトキハ本件特許ニ發明ノ新規性アリヤ否ヲ判定スルニハ宜シク本件特許ノ方法ニ因リテ刊行物記載ノモノト異ル特種ノ作用效果ヲ生スルコトナキヤ否ヲ確定セサルヘカラス然ルニ原審ハ此ノ擧ニ出ツルコトナク本件特許ハ右刊行物ノ記事ヨリ容易ニ推考實施シ得ヘキモノナルカ故ニ發明ト爲ラサル旨判定シ以テ本件特許ヲ無效ト爲シタルハ審理不盡又ハ理由不備ノ違法アルモノニシテ原審決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス　（大審院五民、七年（オ）二六六號、特許無效請求事件、七年七月一九日判決、大審院裁判例六卷民事二二五頁）

●特許ノ類似認定

證人江端寅雄ノ證言ニ依レハテープ狀絆創膏ニ於テ「セルロイド」其他ノ硝化綿ノ作用ハ「ニス」ト同樣ニシテ紙ヲ强靱ニシ粘着面トノ離脫ヲ容易ナラシメ且水ヲ防クニ在ルコト從テ「ニ

ス」ヲ厚ク塗布スルコト「ニス」ノ上ニ更ニ「セルロイド」ヲ併用スルコトハ作用ニ於テ大差ナキコトヲ疏明スルニ足リ又甲第二號證ノ記載ニ依レハ裏面ノ「セルロイド」又ハ硝化綿ノ非膜ハ「セラヅク」等ノ下塗面ト相俟ッテ素地タル紙ヲ强靱ナラシメ表面ノ護謨質粘着劑ノ滲潤ヲ阻止シ且耐水性アラシムルニ在ルコトヲ疏明シ得ヘク而シテ前記當事者間ニ於テ爭ナキ被申請人ノ製品ノ製造工程ハ本件特許權ノ內容ヲ爲ス表面ノ粘着層及裏面ノ「ニス」ヲ塗布スル迄ノ製造工程ト同一ナルコトハ甲第二號證ノ記載內容ト證人江端寅雄同伊藤武一同岩田哲三郎ノ各證言トヲ對比スルトキハ十分疏明セラレタリト謂ヒ得ヘシ然ラハ「ニス」ハ下塗層ノ上ニ「セルロイド」其他ノ硝化綿ヲ塗布スルト雖モ尙ホ然ラスシテ「ニス」ノミヲ塗布スルコトハ本件特許ノ效果ヲ左右スルモノニ非ラスト謂フヘク從テ被申請人ノ製造方法ハ申請人主張ノ本件特許權ノ範圍ニ屬シ彼之相牴觸スルモノト斷セサルヘカラス　（東京地一四民、七年（ヨ）一七四一號、假處分申請事件、法律新聞三五二一號九頁）

第二十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及フ

●商標權ノ承繼ト審判手續ノ效力

商標事件ノ審判手續中當事者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ於テ手續ノ受繼ヲ爲スヘキモノナルコト商標法ニ準用セル特許法施行規則第二十四條ノ規定スル所ナルヲ以テ本件ニ於テ相手方タル阪小三郎ノ死亡ニ因リ其ノ相續人阪寬吉ノ爲シタル手續ノ受繼ノ適法ナルコト論莫キモノトス而シテ又等シク其ノ準用アル特許法第二十七條ニ依レハ商標法ニ基キ商標權者ノ爲シタル又ハ之ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ商標權ノ承繼人ニ及フモノナルヲ以テ縱令審判手續中ニ係爭ノ商標權讓渡セラレタル場合ニ於テモ依然其ノ讓渡ヲ爲シタル當事者又ハ受繼ヲ爲シタル者ニ於テ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケサルモノト爲ササルヘカラス特許法第二十八條ノ規定ハ特許局ニ其ノ權利承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得ル權能ヲ與ヘタルニ止マルヲ以テ同條ニ依リテ承繼人ヲシテ手續ヲ續行セシムルコトヲ要スルモノト做スヘキニ非ス左レハ本件ニ於テ阪寬吉カ前示受繼ヲ爲シタル以前ニ商標權ヲ阪小三郎ニ於テ被上告人ニ讓渡シタルニ拘ラス手續ヲ受繼キ抗告審判ノ申立ヲ爲シ原審カ之ニ基キ手續ヲ續行シタルコト亦之ヲ適法ト爲スヘキモノナリ　（大審院五民、七年（オ）六號、商標登錄無效請求事件、七年七月一日判決、大審院裁判例六卷民事二〇五頁）

第二十八條　特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

●實用新案權利範圍確認事件繫屬中ノ權利ノ移轉ト當事者適格

或登錄實用新案權ヲ有スル者ニ對スル之カ權利範圍確認事件ノ繫屬中其ノ相手方カ新案權ヲ他人ニ讓渡スルモ事件ノ當事者タル地位及ヒ本案ノ審決若クハ判決ニハ何等ノ影響ヲモ及ホササルモノト解スルヲ相當トス　（大審院四民、七年（オ）一三一一號、登錄實用新案權利範圍確認請求事件、七年一月一四日判決、法律新聞三四九七號一五頁）

第一條　物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ保護スルコトヲ目的トスルモノニシテ特許ノ登錄ノ如ク新規ナル工業的發明ノ保護ヲ目的トスルモノニ非ス

ノ物品型ニ付實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

●同一ノ效果ト新規ノ型

實用新案登錄ハ物品ノ形狀構造又ハ組合ニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ保護スルコトヲ目的トスルモノニシテ特許ノ登錄ノ如ク新規ナル工業的發明ノ保護ヲ目的トスルモノニ非ス從テ物品ノ形狀構造又ハ組合ニシテ實用アル新規ノ型ナリト認ムヘキトキハ同一ノ新規ナル效果ヲ生セシムル場合ニ於テモ數多ノ獨立セル實用新案ノ成立スルコトヲ妨ケサルモノトス原審決ハ本件第一二五二三一號登錄實用新案ノ折箱連結金具ノ形狀ト第一三一四九〇號登錄實用新案ノ折箱連結金具ノ形狀トヲ比較シテ前者ニ於ケルモノハ舌片(7)ト切目ヲ有スル隆起部(8)トヨリ成ルモノナルニ反シ後者ノモノハ下擴狀ニ傾斜セル二條ノ打拔壓出片ヲ外方ニ向テ屈曲セシメタル金具ト之ト同一構造ニシテ壓出片ヲ內方ニ向テ屈曲セシメタル金具トヨリ成ルモノナルノ點ニ於テ差異アルコトヲ認メタルモノナリ而シテ本件登錄實用新案ノ止金具ニ於テハ其ノ一方ノ舌片ハ長方形ヨリ成リ其ノ上部ニ於テノミ止金具ニ連續シ左右ノ側部及下部ハ止金具トハ分離セルモノナルカ故ニ之ヲ他方ノ止金具ニ有スル隆起部ノ上部ニ於ケル橫ノ切目ニ嵌入スルトキハ舌片ノ根部ト切目ノ上部トニテ水平ニ支持セラルルニ止マリ其ノ舌片ノ左右ニ於ケル動搖ヲ阻止スル力甚タ薄弱ナル缺點アルニ反シ第一三一四九〇號實用新案ノ止金具ニ於テハ前示ノ如キ形狀ヲ有スルヲ以テ之ヲ連結スルトキハ左右ノ相對スル屈曲斜面ニ依リ二個ノ折箱ハ確實ニ維持セラレ折箱內ノ如何ナル面ニ押壓力ヲ加フルモ其ノ折箱ヲ傾斜セシムルノ缺點ナキヲ以テ此等ノ點ヨリ推考スルトキハ前記三個ノ止金具ノ形狀構造ノ差異ハ決シテ單ナル構造上ノ微差ナリト解スルヲ得サルモノトス然ルニ原審決ハ論旨摘錄ノ如ク判示シ前記ノ差異ヲ以テ單ニ構造上ノ微差ニ過キスト云フヲ得ヘキノミナラス實用新案ノ差別ハ物品ノ形狀構造又ハ組合セニ關スル外形的考案ノ異同ニ依リテ之ヲ決スヘク考案ノ效果如何ヲ問フヘキニアラサルカ故ニ縱令本件考案ト原審ノ引用セル公知ノモノトノ間ニ效果ノ差異アリトスルモ兩者ハ結局構造上ノ微差アルニ過キストノ認定ヲ爲スニ妨トナルモノニアラス　（大審院二民、八年(オ)二一二號、實用新案登錄願拒絕査定不服事件、八年七月七日判決、法律新聞三五六八號一七頁）

●同一ノ效果ト構造ノ微差ト新規ノ型

水揚器ニ於テ筒管ヲ密閉スルニ筒蓋ヲ螺裝スルト其ノ筒管內ニ物質ヲ塡充スルトハ單ニ構造上ノ微差ニ過キスト云フヲ得ヘキノミナラス實用新案ハ差別ハ物品ノ形狀構造又ハ組合セニ關スル外形的考案ノ異同ニ依リテ之ヲ決スヘク考案ノ效果如何ヲ問フヘキニアラサルカ故ニ縱令本件考案ト原審ノ引用セル公知ノモノトノ間ニ效果ノ差異アリトスルモ兩者ハ結局

ル認定ヲ爲スハ違法タラス從テ原審カ叙上ノ如ク單ニ其ノ構造ノ點ノミヲ比較シ後者カ前者ノ權利範圍ニ屬スト判定シタルハ固ヨリ相當ニシテ縱令其ノ實用的效果ニ於テ後者カ前者ニ卓越セリトスルモ斯ル事實ハ以テ如上權利範圍ニ屬スルヤ否ヲ判定スルニ付其ノ標準タリ得ヘキモノニ非ス　（大審院三民、七年(オ)五五四號、實用新案權利範圍確認事件、七年一一月九日判決、法律新聞三四九七號九頁）

●相異ナル效果ト新規ノ型　（其二）

實用新案權ハ物品ノ形狀構造又ハ組合ハセニ關スル新規ノ工業的考案ヲ保護スル權利ニシテ或構造カ實用新案ノ登錄ニ値スルヤ否ハ專ラ其ノ物品ノ形狀構造又ハ組合ハセニ關スル外形的考案ノ如何ニ依リテ判定スヘク考案ノ效果ノ異同ヲ標準トスヘキニアラサルコトハ當院ノ判例トスルトコロナリ從テ原審カ本願ト引用シタル從來品トニ付其ノ構造ノ點ノミヲ比較シテ其ノ構造類似スルモノト判定シタルハ相當ナリト謂フヘク論旨ハ孰レモ畢竟實用新案權ノ異同ヲ辨別スルニハ獨リ物品ノ形狀構造組合ハセ等外形的考案ノミヲ比較スルニ止マラス更ニ其ノ實用的效果ヲモ對照シテ考査スルコトヲ要ストスル謬見ニ基キ原審決ヲ非難スルモノニシテ其ノ正當ナラサルコト勿論ナリ　（大審院二民、七年(オ)二四三八號、實用新案登錄願拒絕查定不服事件、八年三月三一日判決、法律新聞三五四三號一七頁）

●外形的考案ノ差異ト新規ノ型

本件第一〇〇八七四號登錄實用新案權ノ登錄請求ノ範圍カ二個ノ乾電池ヲ直列ニ連結シ一個ノ電池ヨリ出テタル接觸子ヲ兩電池間ニ位セシメタル構造ニ存シ之ト同一ノ構造ヲ第一二四八五五號登錄實用新案權ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤニ關シ外形的考案カ同一ナリヤ否ヤニ置キ之ヲ考察シテ判斷スヘキモノニシテ今之ヲ原審確定ノ事實ニ徵スルニ本件登錄實用新案權ノ物品ハ兩電池ノ形成スル空間部ヲシテ電球反射筒ヲシテ電池ノ表面ニ突出スルコトナカラシメタルモノニ係リ反之第一二四八五五號登錄實用新案權ノ物品ハ二個ノ乾電池ノ中央ニ絕緣筒ヲ介在セシメ其ノ絕緣筒內ニ二組ノ並行セル彈線ヲ設ケ二個ノ彈線ヲシテ電導板ト接觸板トヲ連結セシムルコトニ依リ彈線自體ノ彎曲スルコトヲ防キタルモノナルヲ以テ該確定ノ事實ニ依リテ兩者ハ外形的考案ニ於テ別異ナルコトヲ容易ニ看取スルコトヲ得ヘシ左レハ原審カ論旨摘錄ノ如ク說示シテ第一二四八五五號登錄實用新案權ハ本件第一〇〇八七四號登錄實用新案權ノ權利範圍ニ屬セスト審決シタルハ正當ナリ　（大審院二民、七年(オ)一八〇八號、登錄實用新案權利範圍確認請求事件、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五一一號一一頁）

●業界ニ待望サレタル考案ト新規ノ型

原審決ハ「低「イムピーダンス」ニシテ働作銳敏ナル繼電器ヲ得ンカ爲ニ「ミウメタル」ヲ用ヒ空隙ヲ一・五粍以下トナスコトハ當業者カ何等特考ヲ要セスシテ容易ニ實施シ得ル所」ナリトノ理由ノ下ニ本件考案ハ實用新案トシテ登錄スヘキモノニアラスト審決シタルモノナルモ上告人カ原審ニ於テ引用シタル本願意見書ニ依レハ上告人ハ原審ニ於テ從來ノ內外製品ハ內部「イムピーダンス」高キモノニシテ其ノ性質ハ外國ニ於テハ實用上缺點ヲ見サルモノナルモ本邦ニ於ケル特別高壓送電線ハ高抵抗接地式ニシテ一線接地故障ノトキ流ルル接地電流極メテ微弱ナルヲ以テ如上ノ繼電器ハ之ニ對シ全ク働作セス又定時限ノ良特性ヲ呈シ得サリシノ缺點アリ此等

屬スルヤ否ヤノ判定ヲ爲スニ付テハ其ノ基準ヲ構造ノ一部ニノミ限局スルコトナク汎ク其ノ物品ノ形狀構造又ハ組合セニ關スル外形的考案カ同一ナリヤ否ヤニ置キ之ヲ考察シテ判斷スヘキモノニシテ今之ヲ原審確定ノ事實ニ徵スルニ本件登錄實用新案權ノ物品ハ兩電池ノ形成スル空間部ヲシテ電球反射筒ヲシテ電池ノ表面ニ突出スルコトナカラシメタルモノニ係リ反之第一二四八五五號登錄實用新案權ノ物品ハ二個ノ乾電池ノ中央ニ絕緣筒ヲ介在セシメ其ノ絕緣筒內ニ二組ノ並行セル彈線ヲ設ケ二個ノ彈線ヲシテ電導板ト接觸板トヲ連結セシムルコトニ依リ彈線自體ノ彎曲スルコトヲ防キタルモノナルヲ以テ該確定ノ事實ニ依リテ兩者ハ外形的考案ニ於テ別異ナルコトヲ容易ニ看取スルコトヲ得ヘシ左レハ原審カ論旨摘錄ノ如ク說示シテ第一二四八五五號登錄實用新案權ハ本件第一〇〇八七四號登錄實用新案權ノ權利範圍ニ屬セスト審決シタルハ正當ナリ　（大審院二民、七年(オ)一八〇八號、登錄實用新案權利範圍確認請求事件、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五一一號一一頁）

●業界ニ待望サレタル考案ト新規ノ型

原審決ハ「低「イムピーダンス」ニシテ働作銳敏ナル繼電器ヲ得ンカ爲ニ「ミウメタル」ヲ用ヒ空隙ヲ一・五粍以下トナスコトハ當業者カ何等特考ヲ要セスシテ容易ニ實施シ得ル所」ナリトノ理由ノ下ニ本件考案ハ實用新案トシテ登錄スヘキモノニアラスト審決シタルモノナルモ上告人カ原審ニ於テ引用シタル本願意見書ニ依レハ上告人ハ原審ニ於テ從來ノ內外製品ハ內部「イムピーダンス」高キモノニシテ其ノ性質ハ外國ニ於テハ實用上缺點ヲ見サルモノナルモ本邦ニ於ケル特別高壓送電線ハ高抵抗接地式ニシテ一線接地故障ノトキ流ルル接地電流極メテ微弱ナルヲ以テ如上ノ繼電器ハ之ニ對シ全ク働作セス又定時限ノ良特性ヲ呈シ得サリシノ缺點アリ此等

ハ缺點ヲ除キタル本件考案ノ如キ製品ノ現出ハ各電力業者ノ翹首待望シタルトコロナリト云フニ在リテ若シ果シテ此ノ事實アリタルモノトセハ假令其考案夫自體ハ比較的單簡ナリシニモセヨ當業者ニ於テ之ニ到達スルコト然ク容易ナラサリシ何等カノ事情アリシコトヲ推測シ得ヘク從テ本件考案ノ實施ハ必シモ何等ノ特考ヲ要セスシテ容易ニ之ヲ爲シ得ヘカリシモノト即斷スルヲ得サルモノアリト謂ハサル可カラス故ニ上告人主張ノ事情ノ有無ハ原審決ノ歸趨ニ重要ナル影響アルモノト云フ可ク原審カ右事實ノ審査ヲ爲サスシテ輒ク如上ノ判斷ヲ下シタルハ審理ヲ盡ササルノ違法アルモノニシテ原審決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス　（大審院一民、六年（オ）三一三一號、實用新案登錄願拒絕査定不服事件、七年七月七日判決、【大審院裁判例六卷民事二一一頁】）

●實用新案ノ工程及型ノ新規ノ關係

上告人ノ有スル本件實用新案權ノ內容ヲ稽フルニ其要旨ハ原審ノ確定セル如ク板紙ノ表面ニ線及文字若ハ繪畫ノ部ヲ凸出セシメ其周圍ニ切レ目ヲ入レ該切レ目內ニ凸出セシメタル部ノ大サト同一ニシテ且適當ノ色彩ヲ有スル紙ヲ糊着シテ成ルトコロノ看板ノ構造ニ存シ而モ其線及文字若ハ繪畫ノ部ヲ凸出セシメタル部ノ大キサ如何ニ拘ラス必ス他ノ部分ヨリモ顯著ニ凸出スルモノニシテ則チ此點ニ於テ一ノ新規性ヲ有スルコトハ之ヲ否定スヘクモアラス而モ此新規性ノ因テ生スル所以ハ原審カ公知ナリトスル工程即チ雌型ト平板トノ間ニ臺紙ヲ壓搾スルソレト異リ下型ハ平板ニ代ヘテ雄型ヲ以テスルコトニ職由スルモノニシテ斯カル工程ハ是亦多少ノ發明ト云フニ値スルモノトス夫レ實用新案權ハ實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ對象トスルモノナルカ故ニ其ノ型ニシテ何等ノ新規性ヲ帶ヒサル以上之ヲ製作スル工程ソノモノハ如何ニ新規ナルモノニモセヨ（之ニ因リテ或ハ特許權ヲ獲ルハ格別）實用新案權ハ之ヲ取得スルノ結果其作リ出サレタル型ソノモノモ亦新規性ヲ現有スル限リ假令其考案ノ重點カ工程ニ存スル場合ト雖尙能ク實用新案權ヲ取得スルヲ妨ケサルハ論無キトコロナリ但此工程ナルモノカ專門ノ技術者ナラハ殆ント何等ノ思案ヲ凝ラス迄モ無ク容易ニ着想シ得ルモノ（所謂構造上ノ微差）ナル限リ縱令型ソノモノニ新規性アルモ實用新案權ハ未タ以テ之ヲ賦與スルニ足ラス何トナレハ實用新案ハ夫ノ特許權ノ場合程爾ク高度ノ發明アルコトハ之ヲ必要トセサルモ而モ尙且多少ノ發明性ハ之ヲ具有スルコトヲ必要トスレハナリ然ラハ則チ上告人ノ有スル本件一〇七一四七號ノ實用新案ハ其登錄ヲ受クル價値アルモノト謂ハサルヲ得ス　（大審院五民、八年（オ）四五五號、實用新案登錄無效請求事件、八年六月九日判決、法律新聞三五八〇號一七頁）

第三條　本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案ノ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

●應用實施容易ナル構造上ノ微差ト新規ノ型

原審ノ認メタル事實ニ依レハ本件第九四九一四號登錄實用新案ハ絕緣筒ノ一部ニ外部ヨリ感度ノ調整ヲ爲シ得ヘカラシメタル一個又ハ數個ノ小孔ヲ穿チタル無線電話用密封礦石檢波器ニシテ該小孔ヨリ針ヲ通シ之ヲ以テ右筒內ニ在ル檢波用礦石ノ感度ヲ調整セシムル構造ヲ有スルモノニシテ（イ）號圖面及其ノ說明書ニ示スモノハ絕緣筒ノ側面ニ一箇ノ細長キ溝ヲ設ケ絕緣筒

ノ內部ニハ礦石及接觸彈條ヲ收メ該溝ニハバラフイン蠟類似物ヲ填シ而モ內部ノ礦石及接觸彈條ニ接觸セシメサルモノトス而シテ該審決ハ此ノ（イ）號檢波器ニ在リテハ本件登錄實用新案ニ於ケル如ク外部ヨリ感度ヲ整節スルコトヲ得サルヲ以テ該實用新案ノ要旨トスル所ヲ具備セス從テ（イ）號檢波器ハ右實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノニ非スト判斷シタリ然レトモ若シ（イ）號檢波器ニ於テ筒內礦石ヲ右筒側ノ溝ヨリ調整シタル後ニ於テ該溝ニハラフイン蠟類似物ヲ充塡スルモノトセハ之ヲ本件登錄實用新案ノ檢波器ニ比較スルトキハ孰レモ其ノ一部ニ小孔又ハ溝ヲ穿チタル絕緣筒ヲ使用シタル固定礦石檢波器タルコトニ於テ相一致スルモノニシテ小孔ニ代フルニ溝ヲ以テスルト否ト該蠟ニ「バラフイン」蠟類似物ヲ充塡スルト否トハ當業者ノ容易ニ應用實施シ得ヘキ構造上ノ微差ナリト解シ得ラレサルニ非ス然ルニ原審カ叙上ノ事實並兩者ノ異同ハ單ニ構造上ノ微差ナルヤ否ヲ審究セスシテ輒ク（イ）號檢波器ヲ以テ本件登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬セスト判定シタルハ審理不盡及理由不備ノ不法アルヲ免レサルモノトス被上告人ハ（イ）號檢波器ハバラフイン蠟類似ノ充塡物ヲ筒內螺旋彈條ニ觸レシメテ凝固セシムルモノナリト論スレトモ原判旨ニ副ハサルモノニシテ採用スルニ足ラス被上告人ノ引用スル當院判決（昭和六年二月二十四日言渡）ハ本件ヲ律スルニ足ラス尙（イ）號檢波器ヲ被上告人カ製造販賣セルコトハ原審決ノ認メタル所ナレハ之ニ反スル被上告人ノ所論ハ原審ノ事實認定ヲ非難スルモノニシテ採用スルニ由ナキモノトス然ラハ本件上告ハ其ノ理由アリ原審決ハ破毀ヲ免カレス　（大審院一民、六年（オ）一三九六號、登錄實用新案權利範圍確認事件、七年二月一八日判決、大審院裁判例六卷民事三二頁）

●公知ノモノヨリ容易ニ案出セラルル實用新案類似

實用新案ノ登錄ハ物品ニ關スル形狀構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者カ其ノ物品ノ型ニ付受ケ得ヘキモノニシテ縱令物品ニ關スル形狀構造又ハ組合ハセニ係ル型カ工業的ノモノナリトスルモ公知ノモノヨリ特考ヲ要セスシテ容易ニ案出シ得ラルル程度ノモノナル以上其ノ效果如何ニ拘ラス新規ノ型ノ考案ト謂フヲ得サルヲ以テ實用新案ノ登錄ヲ受ケ得ヘキモノニ非ス而シテ原審決ハ本願ハ其ノ斷面S字形ニシテ彎曲面ノ開口部ヨリ導體ヲ嵌入シ得ヘクナシタルニ對シ引用例記載ノモノハ一方環狀ヲナセルS字形ノ斷面ヲナシ一ノ導體ハ其ノ彎曲部ニ側方ヨリ嵌入シ分岐線ハ前記環狀部ニ軸方向挿入スル樣ナシタルノ相違アルモ導體ノ一ヲ「スリーブ」彎曲部ノ側方ヨリ入ルルコトハ右ノ公知例ニ於テ行フ所ナレハ本願ノ如ク導體ノ双方ヲ彎曲部ノ側方ヨリ入ルル樣ナシタルハ前記ノ公知例ニヨリ特考ヲ要セスシテ當業者ノ爲シ得ル所ナリトシ公知例ノ一方環狀ヲナセルS字形斷面ノ「スリーブ」ニ置換スルニ本願ニ於ケル双方開口セルS字形斷面ノ「スリーブ」ヲ以テスルカ如キハ特ニ考案ヲ要セサル程度ノモノナリト說明シタルモノニシテ斯ノ如キ認定ヲ爲シ得サルニ非サルヲ以テ原審ニハ違法ナシ　（大審院二民、七年（オ）三一三八號、實用新案登錄願拒絕査定不服事件、八年六月三〇日判決、法律新聞三五八六號八頁）

●裝髮具ト實用新案ノ類似認定

本件登錄實用新案ノ要旨ハ單ニ其ノ裝飾用金屬片ノ構造ニノミ存スルモノニ非スシテ該金屬片ヲ二枚ノ「セルロイド」板ノ間ニ介在セシメタル點ニモ存スルモノノ如シ果シテ然ラハ（イ）號圖面及其ノ說明書ニ示ス裝髮具即二枚ノ「セルロイド」板ノ間ニ眞鍮ヲ地金トシ之ニ一重鍍金ヲ施シタル裝飾用金屬片ヲ介在セシメタルモノハ本件登錄實用新案ノ裝髮具ト金屬片ヲ二枚ノ

「セルロイド」板ノ間ニ介在セシメタル點ニ於テ一致スルニ因リ本件登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原審ハ(イ)號圖面及其ノ說明書ニ示ス裝髮具ハ眞鍮地金上ニ直接鍍金ヲ施シタルモノヲ裝飾用金屬片トシテ使用シタルモノナルカ故ニ本件登錄實用新案ト考案ヲ異ニスルモノナリトシ二枚ノ「セルロイド」板ノ間ニ金屬片ヲ介在セシムルコトカ本件登錄實用新案ノ要旨ニ非サル理由ヲ特ニ說明スルコトナク輒ク上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ不法アルモノニシテ論旨ハ理由アルモノトス（大審院五民、六年(オ)二〇五〇號、登錄實用新案權利範圍確認請求事件、七年二月二六日判決、大審院裁判例六卷民事四一頁）

●刊行物ノ記載ヲ基礎トスル意思ナキ場合ノ類似ト實用新案類似認定

實用新案ノ物體ト爲リタル或考案カ登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ記載セラレタルモノニ類似スルトキハ夫カ該刊行物ノ記載ニ基キ考案セラレタルモノナルト否トヲ問ハス實用新案法ニ所謂新規ノ考案ナリト云フヲ得サルモノナリ（大審院四民、七年(オ)三四一〇號、實用新案登錄無效請求事件、八年六月二四日判決、法律新聞三五八六號七頁）

第七條　實用新案登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

●實用新案實施權所有ト權利取得事實ノ立證責任

被上告人ノ本訴請求ハ實用新案法第七條ニ依リ上告人カ登錄ヲ受ケタル實用新案ニ付實施權ヲ有スト爲シ其ノ權利ノ確定ヲ求メ且之カ登錄手續ヲ爲スヘキコトヲ請求スルモノナルカ故ニ被上告人ハ右實施權取得ノ要件トセラレタル總テノ事實ヲ主張シ且之ヲ立證スル責任ヲ有スルヤ明ナリ而シテ實用新案法第七條ニハ實用新案登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有スト規定セルカ故ニ被上告人ハ單ニ本件實用新案登錄ノ際現ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ居リタルコトヲ立證スルヲ以テ足レリトセス必スヤ善意ニテ其ノ事業ヲ爲シ居リタルコトヲモ立證スルヲ以テ足レリトセス必スヤ善意ナルコトハ實施權取得ノ法定要件ヲ爲スモノニシテ又法律ハ事業ヲ爲ス者ノ善意惡意ニ付テハ何等ノ推定ヲモ爲スモノニ非サルカ故ニ苟クモ被上告人カ同條ニ依リ實施權ヲ取得シタリト爲シ本訴ノ如キ請求ヲ爲ス以上其ノ善意ナルコトモ立證スルコトヲ要スルモノニシテ若シ其ノ立證責任ヲ盡ササルニ於テハ縱令被告タル上告人ニ於テ其ノ惡意タルコトヲ立證シ得サル場合ト雖被上告人ノ本訴請求ハ此ノ點ニ於テ排斥ヲ免レサルモノト謂フヘケレハナリ然ルニ原判決ヲ查スルニ「被控訴人カ當審ニ於テ提出シタル昭和六年十二月六日附答辯書第二項ニ依レハ被控訴人ハ控訴人カ被控訴人ノ考案ヲ剽窃シタル惡意者ナリト主張スルカ如ケレトモ之ヲ認ムヘキ證據存セサルヲ以テ控訴人ハ當時善意ニテ前示ノ茶鑵製造事業ニ從事シ居リタルモノト認ムルノ外ナキモノトスト說示シ之ヲ理由トシテ被上告人ノ請求ヲ是認セルカ故ニ原判決ハ立證責任ヲ顚倒シ上告人ニ不利益ナル事實ヲ確定シ以テ敗訴ヲ言渡シタル違法アルモノニシテ原判決ハ全部此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス（大審院三民、七年(オ)七七九號、實用新案實施權確認並登記手續請求事件、七年一二月二四日判決、大審院裁判例六卷民事三五五頁）

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請

求スルコトヲ得（下略）

●實用新案權利範圍確認ノ請求ト其ノ時期

實用新案權ノ範圍確認ノ請求ハ審判ノ目的タル實用新案權ノ存スル間ニ於テノミ爲シ得ルモノニシテ既ニ實用新案消滅ニ歸シタルトキハ範圍確認ノ請求ヲ爲スコト得ス（大審院三民、七年（オ）二〇三四號、登錄實用新案權利範圍確認請求事件、八年七月二二日判決、法律新聞三五九一號一五頁）

第二十六條　特許法第六條、（中略）第百十條乃至第百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

●實用新案權利範圍確認事件繫屬中ノ權利ノ移轉ト當事者（特許法二八條同項參照）

實用新案法施行規則

第二條　說明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　實用新案ノ名稱

二　圖面ノ略稱

三　實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領

四　考案相互ノ關係

五　登錄請求ノ範圍

考案相互ノ關係ニハ他ノ特許發明、登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコトヲ能ハサル實用新案ノ登錄出願ニ付其ノ實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ實用新案カ物品ノ形狀、構造又ハ組合ハセノ執レニ係ルカヲ記載スヘシ

●實用新案登錄願ノ說明書ト權利ノ範圍

登錄實用新案權ノ權利範圍ヲ定ムルハ固ヨリ其ノ說明書ノ記載ニ基クコトヲ要スルハ論ヲ俟タスト雖モ說明書中「登錄請求ノ範圍」又ハ「實用新案ノ性質作用及效果ノ要領」ノ項ニ記載シタル總テノ事項ヲ以テ直ニ該實用新案ノ權利範圍ナリト謂フヲ得ス唯實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ形成スル部分ニ限リ之ヲ權利範圍ト認ムヘキモノトス原審決ハ其ノ理由ノ冒頭ニ於テ本件第一一四八二四號登錄實用新案ノ要旨ヲ確定シ次ニ（イ）號圖面及其ノ說明書ニ示ス「リヤーカー」用「スタンド」ノ構造ヲ說明シタル後兩者ノ構造ヲ對比シ兩者ハ取附金物ノ一端ヲ垂下シテ支脚框トナシ該框內ニV字形ノ支脚ノ上端ヲ樞着シ支脚框ニ樞着セル懸金ヲ支脚ニ懸合スヘクナシタル構造ニ於テ一致スルモ自轉車「スタンド」ニ於テ支脚ヲV字形トナシテ補强シ該脚ヲ彈機ニ依リ廻動スヘクナスコトハ本件登錄實用新案ノ出願前ニ於テ公知公用ニ屬シタル事實（大正十四年實用新案出願公告第七二二五號ノ圖面及說明書大正十三年特許出願公告第一七二二號ノ圖面ヲ其ノ一例トシテ參照）ニ徵シ本件登錄實用新案ニ於テハV字形支脚ノ一端ヲ溝形下垂部ニ樞着シ他ノ支杆ヲ別個ニ取附金物ニ樞着スルコト及支脚ニ突設セル突起ニ懸金ヲ懸止ムルコトカ其ノ考案ノ要件ナリト判定シ此ノ點ニ於テ（イ）號圖面及其ノ說明書ニ示ス考案ト同一又ハ類似ノ考案ニ非ス從テ右考案カ本件登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬セスト爲シタルモノニシテ本件登錄實用新案ノ考案ノ要旨カ原判示ノ如ク公知公用ナル部分ニ及ハス單ニ前記ノ如キ部分ニ存スルコトヲ認定スルコトハ毫モ不當ニ非サルヲ以テ原審決ニ違法アリト爲スヲ得ス（大審院二民、八年（オ）二三五三號、實用新案權利範圍確認事件、八年四月二五日判決、法律新聞

三五五三號一六頁）

●實用新案登錄願ノ說明書並圖面ト權利範圍

實用新案權ハ必スシモ其ノ說明書若ハ圖面ニ請求範圍トシテ記載セラレタル事項ノ全體ニ及フヘキモノニアラサルカ故ニ縱令原審カ本件實用新案ニ付請求範圍トシテ記載セラレタル電池ノ構造中二個ノ乾電池ヲ直列ニ連結シ一個ノ電池ノ一極ヨリ出テタル接觸子ヲ兩電池ノ中間部ニ位置セシメタル點ハ大正十四年十二月十二日以前ヨリ廣ク知ラレタル事項ナルカ故ニ本件實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノニアラストナシタレハトテ敢テ不當ト稱スヘキニアラス（大審院二民、八年（オ）四五二號、登錄實用新案權利範圍確認事件、八年九月一日判決、法律新聞三五九七號一四頁）

意匠法

第三條　本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登錄意匠ノミニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

●赤飯ニ南天ノ葉ト意匠類似

本件登錄意匠ト原審決引用ノ參考第二號品ノ意匠トヲ對比スルニ兩者共ニ正方形ノ石鹼ノ上面ニ米粒ト小豆トノ模樣ヲ一面ニ浮出スコトニ依リ赤飯ノ模樣ヲ表ハシタル點ニ於テ相類似スルモノト做スヲ相當トスヘシ尤モ本件登錄意匠中ニ數面ノ南天ノ葉ノ浮出シ模樣存スレトモ凡ソ赤飯ニ南天ノ葉ヲ配スルカ如キハ世俗一般ニ慣用セラルルトコロニシテ赤飯ト云ハハ容易ニ南天ノ葉ヲ聯想セシムルノミナラス本件登錄意匠ニ於ケル右南天ノ葉模樣ハ米粒及小豆ノ模樣ニ依リ表現セラレタル赤飯ノ模樣ノ中ニ織込マレアリテ敢テ之カ爲ニ看ル者ヲシテ特殊ノ印象ヲ惹起サシムルコトナキカ故ニ意匠全體トシテ觀察スルトキハ本件登錄意匠カ引用參考第二號品ノ意匠ト相類似スルモノナリトノ前認定ヲ妨クルモノニアラス　（大審院四民、七年（オ）三五九五號、意匠登錄無效請求事件、八年七月一五日判決、法律新聞三五九一號八頁）

第九條　意匠登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

●チヨコレート菓子ト意匠ノ實施權

被告カ原告主張ノ如キ意匠ニ付キ昭和四年十二月十二日登錄出願ヲ爲シ昭和五年三月二十日第四六一五一號（平面）及第四六一五二號（斜面）トシテ登錄ヲ受ケ現ニ右意匠權ヲ有スルコトハ當事者間ニ爭ナシ而シテ原告會社ハ大正十四年八月頃橫濱市鶴見區ニ「チヨコレート」菓子製造ノ工場ヲ設ケ大正十五年十一月ヨリ「チヨコレート」菓子ヲ製造販賣シ來リタルトコロ昭和四年六月頃ヨリ「ハーモニカ」型ノ「チヨコレート」菓子ヲ製造販賣センコトヲ企畫シ昭和四年六月五日同年七月十五日同年同月二十三日並ニ同年八月十五日訴外太陽製作所事飯島包吉ニ對シ「ハーモニカ」型（木型又ハ金型）ノ試製ヲ依頼シ順次改良ノ上同年十一月二十日ニ至リ右訴外人ニ對シ「チヨコレート」菓子製造用ノ「ハーモニカ」型（金屬製）三千百五十個

（一枠三十一個附百五十枠）ノ製作ヲ註文シ其納入期ヲ同年十二月二十八日限リト定メタルコトヲ認ムルニ足リ被告ノ立證ニ依リテハ以上ノ認定ヲ覆スニ足ラス然ラハ被告カ本件意匠ノ登錄出願ヲ爲シタル昭和四年十二月十二日當時ニ於テ原告ハ「チヨコレート」菓子ニ關スル範圍ニ於テハ「ハーモニカ」型ノ形狀及模樣ニ係ル意匠ニ付キ帝國内ニ於テ其實施ノ事業設備ヲ有シ居タル者ト認ムルヲ相當トシ當時原告カ被告ノ本件意匠考案ニ付何等知ル所ナカリシコトハ前揭各證據ヲ綜合シテ之ヲ窺ヒ得ルヲ以テ（被告ノ立證ニ依リテハ未タ原告カ惡意ナリシコトヲ認ムルニ足ラス）原告ハ意匠法第九條ニ依リ「チヨコレート」菓子ニ關スル範圍ニ於テ本件登錄意匠ヲ實施スルノ權利ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス（東京地九民、六年（ワ）二五九二號、登錄意匠實施權確認請求事件、法律新聞三六〇九號一六頁）

商標法

第一條　自己ノ生產、製造、加工、選擇、認明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セントスル者ハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

登錄ヲ受クル爲ニハ商標ヲ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受クルコトヲ得

●Calnitro ト特別顯著性

登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ特別顯著ナルコトヲ要スルコトハ商標法第一條第二項ニ規定スル所ナレトモ商標カ特別顯著ナルヤ否ハ其ノ世人ノ注意ヲ惹キ容易ニ他ノ商標ト區別セラルヘキ構成ヲ有スルヤ否ニ依リテ定マルモノニシテ其ノ注意ハ普通一般ノ人カ取引市場ニ於テ用フヘキ程度ヲ標準トシテ之ヲ決スヘキモノナレハ本願商標 Calnitro カ特別顯著性ヲ有スルヤ否ニ付テモ斯カル標準ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス原審ハ該商標カ其ノ指定スル商品タル肥料ニ使用セラルルニ於テハ商品カ「カルシユウム」及窒素ヲ原料トセルモノナルコトヲ聯想セシムルヲ以テ特別顯著性ヲ有セスト判斷シタレトモ右商標ハ Cal-nitro ト接字符ヲ以テ分綴シタルモノニ非スシテ此等ヲ一語ニ連綴シタルモノニ係リ一語トシテハ何等ノ意義ヲ有セサルモノナレハ一般世人カ頻繁ナル取引市場ニ於テ之ヲ見ルトキハ化學上ノ二原子「カルシウム」及窒素ヲ連記シタルモノト解センヨリハ寧ロ一個ノ新造語トシテ之ヲ解スルヲ普通ナリトス故ニ原審カ該商標ハ容易ニ「カルシウム」及窒素ヲ聯想セシムルモノト判斷シ之ヲ商標法第一條第二項ニ該當セサルモノト判定シタルハ其ノ當ヲ得タルモノト謂フヲ得ス又原審カ該商標ヲ「カルシウム」及窒素ヲ原料トセサル商品ニ使用スルトキハ商品ノ誤認混同ヲ生セシムル處アルモノト爲シ之ニ同法第二條第一項第十一號ヲ適用シタルハ右商標ヲ以テ容易ニ叙上ノ二原子ヲ聯想セシムルモノト判斷シタル結果ナレハ是亦正當ナリト謂フヲ得ス然ラハ本願商標ニ付商法第一條第二項及第二條第一項第十一號ヲ適用シタル原審決ハ理由ヲ具備セサルモノトノ謂ハサルヲ得ス即チ上告論旨ハ理由アリ原審決ハ破毀ヲ免レサルモノトス（大審院一民、六年（オ）三〇七六號、商標登錄願拒絕査定不服事件、七年九月一五日判決、大審院裁判例六巻民事二五六頁）

●天德泉ト特別顯著性

原審ノ確定シタル事實ハ本件商標ハ「天德」ノ文字ヨリ第一類ノ鑛泉ヲ指定商標トシテ登錄セラレタルモノナリト云フニ在リテ原審ハ「天德泉」ト云フハ鑛泉ノ一種類ヲ指稱スル普通名詞タルコトハ之ヲ是認シ難ク又慣用商標タルコトモ肯定スルニ足ラストシテ上告人ノ請求ヲ排斥シタリ然リト雖甲第一號證ノ商標（明治三十一年中登錄）ニ特ニ天德鐵冷鑛泉等ノ文字ヲ除キタル點甲第四號證ノ一乃至五十八甲第六、第七、抗甲第十號證ニ明治三十年來全國諸處ニ於テ天德鑛泉ト稱スル鑛泉ノ取引セラレタル點甲第三號證ニ特許局ニ於テ大正五年中「ト」ノ字九個ヲ以テ圓筒形ヲ作リ其ノ中央ニ「天」ノ字ヲ配セルモノヲ要部トスル鑛泉ノ標章カ周知標章ナリト判定セラレタル點（右標章カ容易ニ「天德」ナル稱呼ヲ想像セシムルコトハ言ヲ俟タス）乙第二、第四、第五號證ニ「天德泉」「天德印鑛泉」又ハ「天德鑛泉」ノ標章カ他ニ用ヒラレ居タル點乙第一號證ニ「合名會社天德鑛泉商會」ト稱スル商號ヲ以テ大阪市內ニ本店ヲ有スル會社カ明治四十四年中ニ設立登記ヲ經タル點及佐賀縣下ニ本店ヲ有スル上告人カ「天德鑛泉株式會社」ト稱シ茨城縣下ニ設立セラレタル被上告人カ「天德泉株式會社」ト云フ點等即本件ニ顯レタル書證ノ明記スル內容自體等ニ徵スルニ天德泉ナル名稱ハ既ニ取引上相當多年月ニ亘リ相當廣汎ナル地域ニ於テ相當多數ノ人ニ周ク用ヒラレタルモノト認ムヘキカ如ク遽ニ之ヲ以テ鑛泉ノ一種類ヲ指稱スル普通名詞ニ非スト即斷シ難ク少クトモ特段ノ明確ナル理由ヲ揭クルニ非サレハ原審ノ前示認定ハ採證ノ原理ニ順應セサルノミナラス右書證ノ明記自體ヨリ推ストキハ天德泉ナル觀念並稱呼ハ單ニ使用商品ノ表示ニ過キサルモノニシテ特定人ノ商標トシテ思惟セラルヘキモノニ非サルカ如シ即之ヲ要スルニ本件ニ顯レタル證據上本件商標ノ示ストコロヲ以テ或ハ普通名詞ニ非ストシ或ハ慣用商標ニ非ストスルニハ尙一層ノ說明ヲ必要トスルモノニシテ原審決ニハ採證ノ法則ノ違背アルカ少クトモ理由不備ノ違法アルモノニシテ結局本件上告ハ其ノ理由アリ破毀スヘキモノトス　（大審院一民、六年（オ）一六八一號、商標登錄無效請求事件、七年三月二四日判決、大審院裁判例六卷民事八四頁）

●特別顯著性ヲ失ヘルモノト商標トシテノ價値

過去ニ於テ嘗テ特別顯著性ヲ具ヘ商標トシテ登錄セラルヘキ適格ヲ有シタル名稱ト雖時ヲ經テ普通名詞ト爲リタルモノハ最早商標トシテ登錄スルニ値セサルモノナルコトハ當院ノ判例トスルトコロナリ（昭和四年（オ）第一七六二號同五年四月二十六日當院判決參照）原審ハ本願商標「モネルメタル」ノ語ハ今日ニ於テハ「ニツケル」ト銅トノ特種合金ヲ指ス普通名稱ニシテ自他商品甄別ノ標識タルノ效用ヲ有スルコト無シト認メタルモノニシテ而モ此ノ認定ハ正鵠ヲ失ハサルヲ以テ原審カ前記ノ見地ヨリ斯ル名稱ヲ普通ノ文字ニテ記載シテ成レル本願商標ノ登錄ヲ拒絕シタルハ正當ニシテ違法ニ非ス　（大審院五民、八年（オ）六八四號、商標登錄拒絕查定不服事件、八年六月二〇日判決、法律新聞三五七七號一七頁）

第二條　左ニ揭クル商標ニ付テハ之ヲ登錄スルコトヲ得ス

九　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十一　商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

●稱呼ノミノ類似ト商標類似

上告趣意書原審決ハ審理不盡ノ不法アルモノト信ス原審引用登錄商標第一七一八四九號ハ單ニ「泰陽」ナル文字ノミヨリ成リ本願商標ハ單ニ「大洋」ナル文字ノミヨリ成ルニ非スシテ「海洋」及雲ノ圖形ヲ表ハシ之レニ「大洋」ノ文字ヲ二重線ヲ以テ書シテ成ルコト原審決中ニ示サ

レタル通リナリ故ニ其ノ稱呼及ヒ觀念モ亦當然ノ圖形及ヒ文字ヲ不可分的一體ノモノト觀察シテ決セラルヘキモノニシテ其ノ間詳細ナル審理ヲ爲スヲ要スルハ多言ヲ要セサルトコロナリ然ルニ右ノ圖形ヲ無視シ該圖形カ兩商標ノ類似性ヲ阻却スルニ如何ナル影響ヲ及ホスヤニ付何等認定シタルハ審理不盡ノ甚タシキモノニシテ原審決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ然レトモ原審ハ本願商標ト引用登錄商標トハ其ノ外觀ニ於テ類似セサルコト明ナリト雖兩者ハ共ニ「タイヨウ」印ノ稱呼ヲ以テ取引上取扱ハルルヲ自然トスルモノト認メラルルカ故ニ稱呼同一ニシテ取引上彼此相紛ルルノ虞アリ兩者ハ類似商標タルヲ免レスト判定シタルモノニシテ斯ノ如ク商標ノ形象自體ニハ何等類似ノ點ナク唯其ノ稱呼ニ於テノミ相類似セルトキト雖モ亦類似商標ト云フヲ妨ケス　（大審院二民、七年（オ）一七二八號、商標登錄願拒絕査定不服事件、七年一二月一三日判決、法律新聞三五〇八號八頁）

●稱呼觀念外觀ト商標類似

本願商標ト引用登錄商標トヲ比較スルニ前者ハ上部ニ圖形輪廓內ニ「今」ノ文字ヨリ成ル記號ヲ書シ其ノ左右ニ毓ノ圖形ヲ相對立セシメテ描キ下部ニ「桃太郎ガム」ノ文字ヲ特ニ顯著ニ表示シタルモノニ係リ又後者ハ童話「桃太郎」ノ代表的場面ヲ以テ目スヘキ鬼征伐凱旋ノ光景ヲ描寫セル圖形ヨリ成ルモノナルカ故ニ右ノ兩商標ニ對シテハ原判示ノ如ク均シク「桃太郎印」ナル稱呼並觀念ヲ生スルヲ自然トストノ認定ヲ爲シ得サルニアラス而シテ凡ソ商標カ其ノ稱呼觀念若ハ外觀ノ一ニ於テ類似スルトキハ縱令其ノ他ノ點ニ於テ相紛ルル所ナシトスルモ亦商標法上類似商標ト看做スニ妨ナシ　（函館地、七年（オ）二七四三號、商標登錄願拒絕査定不服事件、法律新聞三五五一號一二頁）

●稱呼ノミ混同シ易キ場合ト商標類似

本願商標ヲ閱スルニ中央部小圓輪廓內ノ小鳥ハ觀ル者ヲシテ必スシモ其ノ驚ナルコトヲ首肯セシムルニ足ルモノト云フヲ得サルノミナラス其ノ圖形ハ外廓ノ「コースタープレーク」ニ比シ著シク小ナルカ故ニ外觀上敢テ強キ印象ヲ與フルコトナク却テ其ノ外廓ヲ爲ス「コースタープレーク」ノ圖形ノミ觀者ニ對シテ強キ印象ト觀念トヲ想起セシムルモノト認ムルヲ相當トスヘク從テ本願商標ハ驚印ナル稱呼ヲ生スヘキモノトハ速斷シ難キモノナルニ拘ラス原審ハ何等格別ノ理由ヲ示スコトナク本願商標ハ前示ノ如キ構成ヲ有スル本件登錄商標ト驚印ナル稱呼ニ於テ相類似スルモノトシテ上告人ノ抗告審判請求ヲ排斥シタルハ事實ノ認定ニ當リ實驗法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルニ非スンハ審理不盡理由不備ノ違法アルニ歸ス　（大審院四民、六年（オ）二九三四號、商標登錄願拒絕査定不服事件、七年六月一五日判決、大審院裁判例六卷民事一八六頁）

●花櫻及山櫻ト商標類似

本件登錄商標一五一〇一四號ト上告人引用ノ登錄商標第四三八五二號トヲ比較對照スルニ本件登錄商標ハ「山櫻」ノ文字ヲ縱書シテ成レル文字商標ニシテ「花」ト「山」トノ差異アリト雖執モ櫻ノ樹木ヨリモ寧ロ櫻花ノ唉匂ヘルニ想到セシムルモノニシテ其ノ觀念ニ於テ類似セサルモノト云フヲ得サルノミナラス「花」ト云ヒ「山」ト云ヒ執モ五十音中「ア」ノ橫列中ニ存スル二個ノ子音ヲ以テ發音セラルルモノナレハ「花櫻」及「山櫻」ノ間ニハ其ノ發音ニ於テモ相似タルモノアリト云ハサルヘカラス然レハ時ト所トヲ異ニシ此等商標ヲ付シアル商品ニ對スルトキハ彼此混同誤認ノ虞アルヤ勿論ニシテ原審カ右兩商標ハ外觀稱呼及觀念ニ於テ類似セサルモノニシテ類似商標ト爲スコトヲ得スト判斷シタルハ違

法ナリト云ハサルヲ得ス　（大審院三民、六年(オ)二五六三號、商標登錄無效請求事件、七年六月一二日判決、大審院裁判例六卷民事一八三頁）

●ライオン及武者ライオント商標類似

上告人ノ有スル登錄商標第一〇八五五三號ハ「ライオン」ノ文字ヲ縱書シタルモノヨリ成リ本件登錄商標ニハ「武者」ナル文字ヲ冠スルコトニ於テ差異アリト雖兩者等シク「ライオン」ヲ以テ商標構成ノ要素トスルモノナルニ因リ其ノ特別事情ノ存セサル限リ同一商品ニ使用セラルル場合ニ商品ノ出所ノ混同誤認ヲ惹起スル虞アル類似性ナキモノト爲スニハ其ノ之ヲ肯定スルニ足ルヘキ特別ナル事情ノ存在之ヲ以テ右ノ如キ類似性ナキモノト爲スニヲ明ニスルコトヲ要ス然ルニ原審ハ「武者ライオン」ハ單ニ「ライオン」ト呼稱セラルルコトナシト說示シタルノミニテ其ノ商品ノ出所ノ混同誤認ヲ惹起スル虞ナキ特別事情ノ存在ヲ明ニスルコトナクシテ兩者類似セスト判示シタルハ理由不備若ハ審理不盡ノ不法アルモノトス原審決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス　（大審院五民、七年(オ)六號、商標登錄無效請求事件、七年七月一日判決、大審院裁判例六卷民事二〇五頁）

●ジラフ及麒麟ト商標類似

原審決引用ノ商標ト本願商標トヲ比較對照スルニ引用商標ハ古來麒麟ナル名稱ノ下ニ想像シ來レル異形ノ動物ヲ現ハセルモノナルモ本願商標ハ現實地球上ニ棲息セル「ジラフ」ト稱スル動物ヲ現ハセルモノニシテ其ノ外觀ヨリスレハ彼此ノ間ニ大差アリ混同誤認ノ虞ナク又其ノ稱呼ヨリスルモ引用商標ハ「キリン印」ト稱セラレ「ジラフ」ハ又麒麟ト譯セラルヘキモノナルモ本願商標ニハ特ニ歐字ヲ以テ「ジラフブランド」ト橫ニ記載シアルカ故ニ英語ノ普及セル今日又殊更ニ外國語ヲ使用スル風習ノ存スル今日ニ在リテハ本願商標ハ「ジラフ印」ト稱セラルルヲ寧ロ自然トシ引用商標トハ稱呼ノ上ヨリスルモ相異ルモノニシテ彼此相紛ルルノ虞ナキモノト謂ハサルヘカラス然レハ原審カ本願商標ハ引用商標ト稱呼ヲ同シクセル類似商標ナリト判斷シ其ノ登錄ヲ拒絕シタルハ所謂類似ノ判斷ヲ誤リタル違法ノ審決ニシテ全部此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レス　（大審院三民、六年(オ)一六六三號、商標登錄願拒絕査定不服事件、七年四月二日判決、大審院裁判例六卷民事九四頁）

●混動シ易キ稱呼及全ク異ナル圖形ト商標類似

原審ノ確定シタル事實ニ依レハ本願商標ハ圓形輪廓中ニ「U」ノ圖形ヲ三個放射狀ニ表ハシタルモノヨリ成リ又登錄第一六七二七八號商標ハ冠樣圖形ノ下ニ縱菱形ト斜四角形トノ輪廓ヲ重疊的ニ描キ前者ノ中ニ「THE BEST CYCLE」後者ノ中ニ「U」ノ字三個ヲ記シ更ニ下方ニ「サンユー」ナル文字ヲ書シタルモノヨリ成ルモノトス然ラハ兩者ハ其ノ外觀觀念並稱呼上誤認ヲ來タスヘキ虞アルモノニ非サルニ拘ラス原審ハ本願商標カ「サンユー」ト指稱セラルルコトナキヲ保セストシ兩者ハ稱呼上混同誤認セラルル虞アルモノト判示シタルハU ノ圖形ヲ以テ羅馬字ノU字形ナリト前提シタルモノナルニ右圖形カ羅馬字ノU字ヲ表ハシタルモノニ非サルコト其ノ形態上明ナルモノナレハ之ヲ「サンユー」ト指稱セラレテ前示登錄商標ト稱呼上混同誤認ノ虞アルモノト爲シタルハ審理不盡若ハ理由不備ノ不法アルモノニシテ原審決ハ破毀ヲ免レス　（大審院五民、六年(オ)三三七〇號、外國登錄商標登錄願拒絕査定不服事件、七年五月三一日判決、大審院裁判例六卷刑事一七二頁）

第十二條　商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

●聯合商標ノ讓渡

本件商標ノ內第五一二四九號ハアンチツヘルケンニ第五一六八六號第五一六八七號ハホシチオールニ第一二〇〇七四號第一二〇〇七五號第一三〇〇〇五號第一三〇〇〇六號ハホシ胃腸藥ニ其他ハ他ノ商品ニ關スルモノニシテ此等ノ商標カ一括シテ聯合商標ヲ構成スルモノナルコトハ當事者間ニ爭ナキトコロ凡ソ商標ハ其ノ營業ヲ保護スル爲メノ表徵ナルカ故ニ商標ヲ營業ヨリ分離シテ移轉スヘカラサルハ論ヲ俟タス之レ商標法第十二條第一項カ商標ハ營業ト共ニスルニアラサレハ移轉スルコトヲ得スト規定シタル所以ナリ左レハ右規定ハ商標ノ移轉ニ關スル一般的規定ナリト解スヘク從テ該規定ハ聯合商標ノ移轉ニ付テモ其適用アルコト勿論ナレハ聯合商標ハ其ノ全營業ト共ニスルニアラサレハ移轉スルヲ得サルモノト解スルヲ相當トス而シテ聯合商標ハ分離シテ移轉スルコトヲ得サルハ右規定第三項ノ明定スルトコロナルヲ以テ聯合商標ノ其ノ總テハ商標ト其ノ全營業トヲ包括讓渡スルニアラサレハ移轉スルヲ得サルモノト解セサルヲ得ス此點ニ付被控訴代理人ハ聯合商標ハ商標法第十二條第三項ノ規定ニヨリ不可分ノモノナル故ニ其一部ヲ讓渡スル意思表示タニアラハ聯合商標ハ包括的ニ移轉スヘク又其一部ノ營業ヲ留保シテ讓渡スルモ商標法第十二條第三項ハ聯合商標ハ分割移轉スルヲ許ササルコトヲ規定シタルニ止マリ聯合商標ノ一部ヲ讓渡スル意思表示カ全部讓渡ノ效果ヲ生スルコトヲ規定シ若シ其ノ主張ノ如クセハ留保セラレタル營業ハ商標ナキニ至ルヘク斯クテハ商標カ營業ノ表徵タルノ實ハ失ハルヘキヲ以テ該主張モ亦採用スルヲ得ス　（東京控五民、七年(ネ)一三三二號、商標權使用禁止假處分申請控訴事件、八年七月二五日判決、法律新聞三六〇九號一一頁）

第十五條　商標權者故意ニ其ノ登錄商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

●「うどんの友」及「風藥うどんの友」ト商標法一五條ノ附記　（商標法三四條「他人ノ商標ニ類似スル商標權使用ト犯罪ノ成立」參照）

第二十四條　特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、（中略）第百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願ニ付之ヲ準用ス

●商標權ノ承繼ト審判手續ノ效力　（特許法二七條同項參照）

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス（抄）

一　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

●商標權侵害ト重大ナル事實誤認

辯護士三浦强一上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ末廣幸三郎カ「うどんや風藥」ナル商標權ヲ有スルニモ拘ラス「風藥うどんの友」ナル商標ノ使用ニ因リ之ヲ侵害シタリトシ商標法第三十四條第一號ニ問擬シタリ然レトモ被告人ハ「うどんの友」ノ文字ニ依リテ主要部分ヲ成セル商標ニ付テ大正七年五月二十五日登錄第九四一三五號商標權ヲ取得シ現ニ之ヲ享有セリ而シテ右「うどんの友」商標權ヲ被告人ノ享有セル事實ハ告訴人末廣幸三郎ノ告訴狀被告人ニ對スル昭和五年七月九日同年八月五日檢事聽取書證人三浦强一ニ對スル同年九月十九日檢事聽取書第一審第一回公判調書及原審第一回公判調書ニ於ケル被告人ノ供述ニ依リテ之ヲ明認スルコトヲ得ルモノトス從テ被告人カ「風藥うどんの友」ナル商標ヲ使用シタル行爲ニ付テハ以下各點ノ如キ論決ヲ生スヘキモノトス（一）末廣幸三郎ノ商標「うどんや風藥」モ被告人ノ商標「うどんの友」モ共ニ各獨自ニ互ニ對立シテ法ノ保護ヲ受クヘク既ニ被告人ノ「うどんの友」ナル商標カ商標權ヲ組成スル以上ハ之ニ對シ偶々其ノ商品ノ效能又ハ普通名稱タル風藥ノ文字ヲ附記シタリトスルモ如斯商標タルノ特別顯著性ヲ成スノ能力ナキ文詞ハ何人ノ商標權モ其效力ヲ及ホシテ之ヲ阻止スルコトヲ得ス從テ如斯文詞ハ何人ノ使用ヲモ許サレタル自由範圍ニ屬スルモノナルコト商標法第八條第二條第二項ノ法意ニ照シ寔ニ明ナリ然ラハ原審ハ被告人ノ前示商標ノ使用カ違法性ヲ有スルヤ否ヤノ犯罪構成要件タル事實ニ關シ誤認ヲ藏シタル爲メ被告ノ有罪ヲ論定シタル違法アルモノト信ス（二）「うどんや風藥」ナル商標權ヲ有スル者カ其ノ指定商標タルノ名稱又ハ效能ヲ表示スル「風藥」ノ冠記ヲ爲シ爲メニ縱シ他人ノ商標トノ類似ヲ生シ兩商標互ニ牴觸スルニ至ルトスルモ既ニ「うどんの友」ナル根幹的主要部分構成文詞ニ於テ商標權ヲ享有スル以上其ノ效力ハ其ノ兩者ノ中孰レヲ以テ優レリトモスヘキニ非ラス被告人ノ商標

「風藥うどんの友」ハ末廣幸三郎ノ「うどんや風藥」ヲ侵スモノニアラス又末廣幸三郎ノ商標「うどんや風藥」モ亦被告人ノ「うどんの友」ヲ侵スモノトモ云フ可カラス共ニ俱ニ止ムヲ得サル而シテ許容セラルヘキ自由競爭ノ範疇ニ屬スル存在ニ外ナラス之ヲ以テ不正ノ行爲トスヘキニ非サルヤ勿論ナリ刑法第三十五條ノ法意亦此ノ理ヲ指示シテ餘リアルモノトス去レハ原判決ハ被告人ノ商標使用行爲カ末廣幸三郎ノ商標ニ對シ毫モ不法侵害ニアラサルニモ拘ラス被告人ノ前示商標ノ登錄セラレ居レル事實ヲ逸シタルカ爲メ犯罪構成事實ノ誤認セラレタルニ歸着スルモノトス（三）被告人カ「うどんの友」ナル登錄商標權ヲ有スル事實之ニ基キ之ト聯合スヘキ「風藥うどんの友」ナル商標ノ登錄ヲ出願シ公告ノ決定ヲ受ケタル事實（告訴人ノ告訴狀其他）右公告決定ニ對シ末廣幸三郎ノ異議申立テアリタル際辨理士三浦强一ハ既ニ「うどんの友」ナル商標カ法ノ保護ヲ受クヘキ以上夫レヨリ派出スル「風藥うどんの友」商標モ亦保護セラルヘキモノト考ヘタル事實（證人三浦强一ニ對スル檢事聽取書）（末廣幸三郎ヨリ被告人ニ對シ其ノ「うどんの友」ニ冠スルニ「風藥」ノ文字ヲ以テシタル行爲ヲ以テ商標法第十五條ニ該當スルモノトシ「うどんの友」及「引風ねつさましうどんの友」商標取消審判ヲ請求シタル事件ニ付昭和六年六月十一日特許局抗告審判部ニ於テ末廣幸三郎ノ申立相立タストシ「風藥」ノ冠ヲ爲シタリトスルモ前示登錄商標ノ適法ナル使用ナリトノ理由ヲ宣示セラレタリ）等ヨリ推ストキハ被告人カ右「風藥うどんの友」ノ登錄拒絕査定カ大審院ニ於テ確定セルコトヲ知ルニ至ル迄其ノ末廣幸三郎ノ商標トノ類否關係及ヒ其ノ使用ノ能否ニ關シテハ未タ犯意ノ內容タル違法性ノ認識ヲ有セサリシモノトスヘキハ當然トス去レハ原判決カ基本ノ商標權ヲ有セスシテ新規ノ出願ヲ爲シタルニ對シ其ノ類似ノ故ヲ以テ登錄ヲ拒絕セラレタル場合ト同一ナル判定

ノ下ニ被告人ノ犯意ヲ確定セラレタルハ其ノ認定上誤謬ヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルモ、ト信ス以上ノ次第ニシテ原判決ハ事實誤認ノ爲メ有罪ヲ宣告セラレタルノ疑惑一件記錄上ニ於テ顯著ナルヲ以テ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リ記錄ヲ査スルニ原判決ハ被告人カ「うどんの友」ナル登錄商標權ヲ有スル事實ヲ看過シ審理判決ヲ爲シタル結果重大ナル事實誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ムヘキカ故ニ本論旨ハ結局理由アルニ歸ス（大審院一刑、六年(れ)九八一號、商標法違反被告事件、七年一〇月二四日決定、大審院裁判例六卷民事三五頁）

●他人ノ商標ニ類似スル商標權使用ト犯罪ノ成立

商標法ニ依リ登錄シタル商標權ヲ有スル者ハ其ノ商標ヲ使用シ指定商品ヲ販賣スルニ付縱シヤ他人ノ有スル登錄商標ト類似シ商品ノ混同誤認ヲ生セシムル虞アルトキト雖モ自己ノ有スル登錄商標ノ取消サレサル以上其ノ商標權ノ行使ヲ妨ケラルヘキモノニ非サルコト勿論ナリ而シテ本件ハ被告人カ賣藥ヲ指定商品トシ前叙「うどんの友」又ハ「引風ねつさましうどんの友」ナル登錄商標ニ付其ノ效能或ハ普通名稱ニ過キサル引風ねつさましトアルヲ風藥ト附記變更シ風藥うどんの友ナル文字ヲ表示シタルモノニシテ被告人ノ有スル登錄商標ニ依ル權利行使ノ範圍ヲ出テサルモノト認メラルルカ故ニ「風藥うどんの友」ナル商標ノ使用カ假ニ前示末廣幸三郎ノ有スル「うどんや風藥」ナル登錄商標ト類似スル點アリトヌルモ被告人ノ有スル前揭登錄商標ノ存續スル限リ該行爲ヲ目シテ違法ナリト爲スヲ得サルモノニシテ本件被告人ノ行爲ハ罪ト爲ルヘキモノニ非ス（大審院一刑、六年(れ)九八一號、商標法違反被告事件、七年一〇月二四日判決、大審院裁判例六卷民事三五頁）

著作權法

第一條　文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興業權ヲ包含ス

●音樂ノ範圍ニ屬スル著作物ト著作權ノ客體（次次項參照）

第七條　著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年內ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間內ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第二十一條　翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルルコトナシ

●著作物ノ翻譯權ノ消滅

●著作者ヨリ許諾ヲ得タル翻譯者ト翻譯權ノ侵害

訴外白耳義人モーリス、メーテル、リンク カ脚本「ロアゾー・ブロー」ヲ創作シ西曆千九百九年（明治四十二年）英譯本ヲ發行シ越エテ西曆千九百十三年（大正二年）自ラ原作ヲ發行シタルコトハ當事者間ニ爭ナキトコロナリ原告ハ本訴ノ請求原因トシテ先ツ原告ハメーテル、リンクヨリ邦語ニ依ル翻譯權ノ讓渡ヲ受ケタル旨主張スルヲ以テ先ツ此ノ點ニ付按スルニ原告ハ大正二年初春日本ヨリ當時佛蘭西ニ在住セシメーテル、リンクニ對シ書面ヲ以テ脚本（ロアゾー、ブロー）ノ邦語ニ依ル翻譯ノ許可ヲ求メタルトコロメーテル、リンクハ同年四月二十四日

附ヲ以テ佛蘭西ノニースヨリ日本ノ東京ノ原告ニ宛テ甲第一號證ノ一、二ノ如キ書面ヲ以テ之レヲ受諾シタルコトヲ認メ得ヘク從ツテ右申込並ニ承諾カ法律上ノ效果ヲ生スヘキ意思表示ナリトセハ右契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ書面ヲ發シタル日本ヲ以テ行爲地ト看做シ行爲地法タル日本ノ法律ニ依リ之レヲ定ムヘク（右當事者カ當時日本ノ法律ニ依ルヘキ意思ヲ有シタル事實ハ之レヲ認ムヘキ立證ナシ）右甲第一號證ノ二ノ記載カ如何ナル內容ノ表示ト解スヘキヤニ付案スルニ鑑定人辰野隆、杉山直治郎ノ各鑑定ノ結果ヲ綜合考覈スルニメーテル、リンクハ甲第一號證ノ一、二ヲ以テ原告ニ對シ脚本「ロアゾー、ブロー」ヲ邦譯スル單純ナル許諾ヲ與ヘタルニ過キサルモノト解スヘク換言スレハ之レニ依リ原告ハメーテル、リンクヨリ原告自身ニ於テ「ロアゾー、ブロー」ヲ邦譯出版シ得ル權能ヲ賦與セラレタルニ過キスシテメーテル、リンクヨリ所謂翻譯權ナル排地的獨占的權利ノ讓渡ノ意思表示アリタルモノト解スルコトハ難ク右認定ヲ覆スニ足ル立證ナシ尤モ成立ニ爭ナキ甲第五號證ノ一及ヒ前顯辰野、杉山直治郎ノ各鑑定ノ結果ヲ綜合スレハメーテル、リンクハ叙上甲第一號ノ一、二ノ書面ヲ原告ニ送ルニ先チ既ニ西曆千九百九年「ロアゾー、ブロー」ノ著作權ヲ之ニ包含スル翻譯權ト共ニ佛蘭西巴里ノ書肆イユヂユス、フワスケールニ讓渡シ既ニ之レカ對抗要件ヲモ具備シタルニアラサルカヲ推測セシメ得サルニアラサレトモ叙上ノ證據方法ノミヲ以テハ一度叙上ノ推定ヲ與ヘルニ止マリ未タ之レヲ肯認スルニ足ル確證ナク甲第一號證ノ書面カ其ノ後ニ發セラレタル事實及更ニ其ノ後ニ於テ甲第四號證ノ三及ヒ五ノ書面ノ作成セラレタル事實ヨリ飜テ推度スルトキハ勘クトモメーテル、リンクハ前記書肆トノ間ニ於テ原告ニ邦語ニ依ル翻譯ヲ許諾スヘキ權能ヲ留保シ居リタルカ若クハ前記書肆ノ承諾ヲ得テ前記ノ如キ許諾ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當ト

ス而シテ原告カ柴蘭ナル雅號ヲ用ヒ大正四年（西曆千九百十五年）甲第三號證ノ脚本「青い鳥」ノ翻譯發行シタルコトハ當事者間ニ爭ナク右甲第三號證及前顯第五號證ヲ彼此對照スルトキハ原告ハ右脚本ヲ「ロアゾー、ブロー」ノ原本ヨリ譯出シタルモノト認メ得ヘク「ロアゾーブロー」ハ前記認定ノ如ク西曆千九百九年ニ發行セラレ其翌年ヨリ起算シ十年內タル西曆千九百十五年ニ邦語ニ依ル翻譯物カメーテル、リンクヨリ右翻譯ヲ爲スヘキ權限ヲ許與セラレタル正當ナル權利者タル原告ニ依リ翻譯發行セラレタルヲ以テ「ロアゾー、ブロー」ノ邦語ニ依ル翻譯權ハ原著作者タルメーテル、リンクノ爲メ未タ消滅セサルモノト謂ハサルヘカラス此點ニ關シ被告等ハ原告ハ當時第三者ニ對抗シ得ヘキ著作權者ナリト謂フヲ得サルヲ以テ原告カ縱ヒ翻譯物ノ發行ヲ爲シタリト雖モ之ヲ以テ著作權法第七條ニ所謂著作者原著作物ノ翻譯物ヲ發行シタルモノト認ムルヲ得サルカ故ニメーテル、リンクノ「ロアゾー、ブロー」ノ邦譯權ハ既ニ消滅シタリト抗爭スレトモ苟モ著作權者ヨリ翻譯ヲ爲スヘキ權能ヲ許與セラレタル者ニ依リテ翻譯物カ原著作物發行ノ年ノ翌年ヨリ十年內ニ發行セラルルニ於テハ著作者ノ其翻譯權ハ消滅セスシテ其保護ヲ享有スヘキモノト解スヘク翻譯ヲ爲スモノハ必スヤ著作權者ヨリ著作權ノ讓渡ヲ受ケ且之カ對抗要件ヲ具備シタル者ニ限定スルカ如キハ著作權法第七條ノ解釋ヲ努メテ狹隘ニシ不當ニ著作權者ノ翻譯權ノ保護ヲ拒ムノ結果ヲ招來スルカ故ニ右抗辯ハ採用セス而シテ被告菊池寬及ヒ楠山正雄カ原告主張ノ如キ翻譯ヲ爲シ被告文藝春秋社、興文社、佐藤義亮、富山房、小川菊松等カ右翻譯ノ發行ヲ爲シタルコトハ被告等ノ認ムルトコロニシテ進ンテ右被告等ノ行爲ハ原告ノ前記認定ノ如キメーテル、リンクヨリ許諾セラレタル權能ニ因リ享有スル法律上ノ利益ヲ侵害シタルモノナリヤ否ヤニ付按スルニ翻譯ソノモノノ有スル社會的公

共的利益ヲ慮リ著作權法第二十一條ハ何人ト雖モ（即チ原著作權者ヨリ承諾ヲ得サル者ト雖モ）自由ニ他人ノ著作物ノ翻譯ヲ爲シ得ル權能ヲ認メ唯同條但書ニ於テ原權利者ノ權利カ之ニ依リ妨ケラルルコトナキ旨ヲ規定シタルモノニシテ他人ノ著作物ノ翻譯ハ原著作權者若クハ之カ承繼人ニ對スル關係ニ於テハ權利侵害ヲ生スルコトアルモ原告ノ如ク單純ニ原著作權者ヨリ翻譯ノ許容ヲ得タルニ過キサル者ニ對スル關係ニ在リテハ苟クモ右翻譯カ專ラ右許諾ヲ得タル者ノ利益ヲ害スル等違法ノ目的ヲ以テ所謂權利濫用トシテ爲サレタルモノニアラサル以上法ノ許容スルトコロナルヲ以テ違法ナル行爲トシテ責ヲ負フヘキモノニアラス而シテ原告提出援用ノ全證據方法ニ依ルモ被告等ノ前記翻譯發行ノ行爲カ權利濫用ナルコトハ到底之ヲ認定シ得サルカ故ニ右行爲ノ結果縱令原告ニ對シ利益ヲ害シ損害ヲ生シタリトスルモ被告等ニ於テ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責ヲ負フヘキモノニアラス次ニ原告ハ被告菊池・楠山ハ原告ノ翻譯シタル脚本「青い鳥」ヲ剽竊改竄シテ被告等ノ翻譯ヲ爲シタルヲ以テ原告カ著作權法第二十一條ニ依リ原始的ニ取得セル著作權ヲ侵害シタル旨主張スレトモ右剽竊改竄ノ事實ハ之ヲ認ムヘキ立證ナシ果シテ然ラハ原告ノ本訴ノ請求原因トシテ主張スル事實ハ竟ニ損害賠償ノ原因トシテ之ヲ認容スルコト能ハサルカ故ニ本件訴訟請求ハ既ニ此ノ點ニ於テ失當ナルヲ以テ爾餘ノ事實ニ關スル判斷ヲ須ヒスシテ之ヲ棄却スヘキモノト認ム　（東京地四民、四年（ワ）四四一號、著作權侵害排除請求事件、七年一一月一〇日判決、法律新聞三四九八號九頁）

第二十二條　原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト雖モ本法ノ保護ヲ享有ス

●爭ノ樂譜ト適法ナル著作物ノ複製

本件十五曲ノ爭ノ歌節樂曲（爭歌ノ節ヲ歌節、爭演奏上ノ旋律ヲ樂曲ト稱ス以下之ニ同シ）ハ本來樂譜ヲ用ヒスシテ演奏ニ依リ創作セラレタル無形ノ曲ニシテ原告名義ノ著作權登錄ハ右歌節樂曲ニ被告順子ノ作譜シタル樂譜ヲ著作物トシ其ノ表現スル曲節ノ同一ナルコトハ孰レモ當事者間ニ爭ナキ所ナリ而シテ著作權法第一條第一項ハ音樂ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ原著作權ノ客體タリ得ルモノトシ其ノ判示トシテ演奏歌唱ヲ擧ケ尙同條第三項ニハ樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含スル旨ヲ規定セル所右ニ所謂音樂ノ範圍ニ屬スル著作物トハ音樂的思想感情ノ結晶（內部的體系）ノ外部的ニ表白セラレタルモノヲ意味スルヲ以テ右法條ニ依リ原著作權ノ客體タリ得ルモノハ樂譜若ハ演奏歌唱ヲ媒體トシテ表現セラルル著作者獨創ノ旋律ヲ包含スル新曲ノ創作及斯ル作曲ヲ伴ハサル技藝トシテノ演奏歌唱即チ實演技藝者ヲ主要ナルモノトシ他人創作ノ新曲ニ作譜ヲ爲シタル樂譜ノ如キハ之ニ該當セサルモノト謂フヘク著作權法第一條第三項ニ所謂樂譜ノ著作權トハ同樂譜ニ依リ表現セラルル旋律創作者ノ權利ヲ指稱スルモノニ外ナラス然ラハ被告順子作成ノ樂譜カ前叙ノ如ク他人創作ノ歌節樂曲ニ作譜ヲ爲シタルモノナル以上同樂譜ニ著作權ナキコトハ自ラ明瞭ナリトス仍テ被告順子作成ノ樂譜ニ第二次的ノ著作權ヲ生スルコトナキヤ否ヤヲ審究スルニ法律カ他人ノ創作ニ係ル著作物ヲ利用シテ作成シタル產出物ニ付原著作權トハ別個ニ新ナル著作權（第二次的著作權）ノ保護ヲ與フル場合ハ（イ）數多ノ著作物ノ編輯（著作權法第十四條）（ロ）翻譯（同法第二十一條）（ハ）翻案其ノ他ノ加工ニ依リ新著作物ト看做サルヘキモノ（同法第十九條）（ニ）原著作物ト異リタル技術ニ依ル美術的著作物ノ複製（同法第二十二條）（ホ）美術上ノ著作物ノ寫眞術ニ依ル複製（同法第二十三條第三項）

以上五個ノ場合ナルヲ以テ先ツ本件樂譜カ著作權法第二十二條ニ所謂複製ニ該當スルヤ否ヤニ付按スルニ同法條ニ所謂美術的著作物ニ音樂的著作物ヲモ包含スルコトハ同法第一條ノ規定ニ徵シ明確ニシテ又所謂複製トハ人ヲシテ原著作物ニ音樂的著作物ヲ感覺セシムルニ適スル一切ノ有形的手段方法ヲ意味スルヲ以テ樂譜ヲ用ヒシテ創作セラレタル歌節樂曲ヲ樂譜ニ寫調スルハ聽覺ニ訴フヘキ曲節ヲ視覺ニ訴フヘキ文字記號ヲ以テ記載スルモノナレハ當該樂譜カ其ノ內容ニ於テ原作ヲ表章スルニ足ル樂譜ノ實體ヲ具備スルニ於テハ是亦音樂的著作物ノ表現形態ヲ異ニスル複製ト謂フヲ得ヘキハ勿論ナリト雖斯ノ如キ無形ノ曲ヲ樂譜ニ寫調シ之ヲ有形ト爲シタル事實ノミニ依リテ直ニ其ノ複製方法カ同法條ニ所謂原著作物ト異リタル技術ニ依ルモノト爲スヲ得ヘキヤ否ヤハ遽ニ論斷スルヲ得ス蓋シ原著作者ハ著作物ノ複製權ヲ專有シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ複製擴布スルコトヲ得ヘク從テ作曲者カ樂譜ヲ用ヒシテ新曲ヲ創作シタル場合ニモ若シ其ノ音樂ニ一般公知ノ作譜方式存在シタリトセハ此方式ヲ使用シテ右新曲ニ作譜ヲ爲スコトハ當然原著作者ノ爲シ得ヘキ通常ノ複製方法ニ屬シ恰モ演述ノ內容ヲ文書ニ表示スル場合ト相類似スルヲ以テ斯ル作譜ハ原著作物ニ包含スルモノト解スルヲ妥當トスルト同時ニ他面法律カ複製其ノ他ノ前顯第二次的著作物ノ著作權ノ保護ヲ與フル所以ハ此等ノ第二次的著作物カ其ノ著作ノ過程ニ於テ原著作物ノ本體ヲ爲ス思索ノ結晶トハ異リタル獨創性ヲ具有シ社會觀念上之ヲ原著作物ト同一視スヘカラサルモノアルカ故ニ專ラ此獨創的ナル點ニ着眼シ之ヲ保護セントスル趣旨ナルコト第二次的著作權ニ關スル前顯諸規定及著作權法全般ノ精神ニ照シ明確ニシテ此複製著作權ノ本件ハ其ノ表章內容ノ獨創性ニ非スシテ專ラ其ノ複製方法ノ技術的獨創性ニ存スルコトハ是亦言ヲ俟タサル所ナリト謂フヘク依テ樂譜ナキ曲ニ作譜ヲ爲シタル場合ニ於ケル一般公知ノ作譜方式カ當該音樂界（例ヘハ箏曲全體）ニ於ケル一般公知ノ作譜方式ト異ル特色ヲ有シ且此特色カ右作譜ノ獨創ニ係ルモノタル場合ニ於テ初メテ原著作物ト異リタル技術ニ依ル複製トシテ著作權ノ保護ヲ享有スルニ至ルモノト解スルヲ相當トス證人田邊尙雄中尾琳三ハ樂譜ナキ曲ヲ樂譜ニ寫調スルハ特別ノ技能ヲ要スル難事ナル旨供述スレトモ著作權法ハ專門的技能若ハ精神的努力ニ對シテ著作權ノ保護ヲ與フルモノニ非サルヲ以テ同證言ハ當裁判所カ叙上ノ解釋ヲ爲スノ妨ト爲ルモノニ非ス仍テ被告順子作成ノ樂譜ニ付之ヲ按スルニ同樂譜カ演奏用ノ箏曲樂譜トシテ實用的價値ヲ有シ言語上ノ說明ヲ俟タスシテ之ノミニ依リ演奏ヲ爲シ得ヘキ程度ニ樂譜ノ實體ヲ具備セルコトハ鑑定證人田邊尙雄、中尾琳三、川瀨順輔ノ右證言及東京音樂學校ノ鑑定ノ結果ニ徵シ明白ナルヲ以テ同樂譜ハ原著作物ノ複製タルノ實質ヲ有スルモノト認定スヘク依テ進ンテ其ノ作譜方式ニ被告順子ノ獨創性アリヤ否ヤヲ審究スルニ被告順子カ本件樂譜ヲ初メテ發行セル時期ハ大正二年二月五日ナルコト成立ニ爭ナキ甲第一乃至十五號證及證人坂本五郎ノ證言前記鑑定ノ結果ニ依リ之ヲ認メ得ヘク此當時迄ニ古來發行セラレタル箏曲樂譜ノ重ナルモノハ德川末期ヨリ明治期以後ニ十一種存シタルモ此內樂譜タルノ實體ヲ有セルモノハ（イ）琴曲指譜（玄水著明和九年三月刊）（ロ）箏曲大意抄（山田松黑著安永八年六月七日刊）（ハ）千重一重（著者不詳天保四年十一月刊）（ニ）箏曲集（東京音樂學校明治二十一年十月二十八日刊）（ホ）生田流箏曲新譜（井上胡蝶著明治四十三年六月十三日刊）（ヘ）箏曲譜（鈴木皷村著大正二年一月二十八日刊）ノ六種ニシテ其ノ作譜方式ノ相似類別ニ從ヒ之ヲ分類スレハ（甲）琴曲指譜、千重一重、箏曲譜（乙）箏曲大意抄（丙）箏曲集、生田流箏曲新譜ノ三大別ト爲スヲ得ヘク之ヲ本件樂譜ノ作譜方式ト對比スレハ右（乙）（丙）

ノ樂譜ハ全ク別異ノ方式ヲ爲セルモノニシテ（甲）ノ樂譜カ大體ノ形式即チ縱記式ナル點及樂曲進行（拍子）ヲ橫線ニテ區分シタル點ニ於テ本件樂譜ト甚タ相似タルモノアリテ同一系統ニ屬スルモノト認ムヘキコト東京音樂學校ノ鑑定ノ結果並當裁判所ニ於テ眞正ノ成立ヲ認ムル甲第四十號證（千重一重）甲第四十二號證（帝國圖書館所藏本千重一重ノ寫眞）乙第八號證（鈴木蔵村著箏曲譜）甲第三十八號證（箏曲大意抄）甲第四十一號證（箏譜曲集）ト成立ニ爭ナキ甲第三十號證ノ一乃至三十（本件樂譜）ノ各對照ニ依リ明確ナリ然レトモ前記（ヘ）箏曲譜ハ本件樂譜ト其ノ發行時期殆ント同時ナルヲ以テ之ヲ先蹤ト認ムルハ固ヨリ妥當ニ非サレトモ同樂譜ノ存在ニヨリ方式上同一系統ニ屬スル前記琴曲指譜及千重一重ノ作譜方式カ本件樂譜著作當時公知ノモノニ非サリシヤノ疑存セリト雖東京音樂學校ノ鑑定ノ結果及坂本證人ノ證言ニ依レハ右琴曲指譜及千重一重ハ極メテ稀覯本ニシテ箏曲ノ故實家若ハ篤志研究家ノ許ニ備ヘラレタルニ過キス箏曲專門家ニシテ其ノ書名ヲ知ル者サヘ稀ナル程度ナリシコト並當時未タ一般ニ樂譜ノ必要ヲ認メス此較的周知ノモノハ前記箏曲大意抄、箏曲集生田流箏曲新譜ニ止リシコトヲ認メ得ルヲ以テ此種作譜方式カ箏曲專門家ニ公知ナリシモノトハ認メ難シ然レトモ證人伊藤伊之助ノ證言ニ依レハ被告順子ノ許ニ千重一重ノ存シタルコトヲ認メ得ルカ故ニ被告順子ハ本件樂譜作成ニ當リ此書ヲ參照シタルモノト認ムヘク依テ琴曲指譜及千重一重ト本件樂譜トノ間ニ作譜方式上異同アリヤ否ヤヲ檢討スルニ東京音樂學校ノ鑑定ノ結果及田邊、中尾、坂本各證人ノ證言ヲ綜合スレハ第一、音ノ長短記號ニ付前者（琴曲指譜、千重一重ヲ指ス以下之ニ同シ）ニ於テハ半拍子ヲ橫線ニテ區分セル一區劃ニ該當サセ從テ一拍子ヲ記載スルニハ二區劃ヲ要シ又四半拍子ヲ記載スルニハ二區劃間ノ線上ニ相跨ルコトトナリ幾分明確ヲ缺クノミナラス之ニ

下ノ短音ハ此方式ニ依テハ記載スルコト全ク不可能ナルニ反シ後者（本件樂譜ヲ指ス以下之ニ同シ）ニ於テハ一拍子四箇ヲ一連トシテ一小節ヲ構成シ一拍子ノ區劃ヲ更ニ半橫線ニテ二區分シ此小區劃ニ半拍子ヲ記載シ尙此半拍子ノ區劃內ニ四半拍子ヲ二箇記載シ更ニ之以下ノ短音ハ同區劃內ノ稍々右寄リニ小文字ニテ四箇記載シ得ルヲ以テ畢竟箏曲上必要ノ音符ハ總テ記載シ得ルノ長所アルコト第二、音ノ高低記號ニ付前者ハ杜撰ニシテ甚シキ誤謬アルモ後者ハ是正シタル所多キコト第三、拍子記號ニ付前者ニハ之カ明示ナク且一律平坦ナルモノト爲セルニ反シ後者ハ前叙ノ如ク一拍子音四箇ヲ一小節トシ總テノ樂曲ヲ此小節ニ區分シテ整理シ以テ拍子（節奏）ヲ明示シタル點及拍子ノ進行ニ强弱アルコトヲ强調シタル點ニ於テ優越セル特色ヲ有セルコト第四、歌節記號ニ付テハ其ノ記譜方法（絃名ヲ以テ歌詞ノ音ノ高低ヲ表ハス）ハ千重一重ト同一ナルモ千重一重ノ記譜カ極メテ簡單ニシテ歌節ノ概形ヲ窺ヒ得ル程度ナルニ比シ本件樂譜ノ記譜ハ詳密ヲ加ヘタル點ニ於テ千重一重ニ優ルノミナラス總シテ古來ノ箏曲樂譜中歌節記號アルモノ極メテ少ク偶々之有ルモ之ノミニテハ歌唱シ得サル程度ナリシニ反シ本件樂譜ノ歌節記號ハ歌唱シ得ル程度ノ記譜ヲ有シ是ハ本件樂譜ノ著シキ特色ヲ爲セルコト以上第一乃至第四ノ諸點ニ於テ本件樂譜ハ前者ト異ル特色ヲ有シ且互ニ相關聯シテ演奏可能ナル樂譜ヲ形成セルコトヲ認メ得ヘク而シテ音ノ長短、高低强弱及拍子並歌唱ノ曲節ハ箏音樂ノ要素ヲ爲スモノナレハ叙上ノ特色ハ即チ箏曲樂譜ノ具備スヘキ必要條件ニ關スルモノニシテ作譜方式上本件樂譜ニ特異性ヲ與フルモノト認定スヘク然ラハ本件樂譜ハ被告順子ノ創意ニ係ル獨特ノ方法ニ依リ本件十五曲ノ複製ヲ爲シタルモノト謂フヘシ然レトモ斯ル複製著作物カ著作權ノ保護ヲ受クルカ爲ニハ該複製カ適法ナルコト即チ同複製ノ基礎タル原著作物ニ他人ノ著作權存在ス

ル限リ其ノ許諾ヲ得ルコトヲ要スルハ勿論ナルヲ以テ被告順子ノ本件樂譜作成ニ際リ原著作權者ノ許諾アリタルヤ否ヤヲ審究スルニ新高砂以外ハ原著作權者ノ許諾アリタルモノトス（關岡地一民、五年(ナ)八三號、著作權不存在確認及登錄抹消手續請求事件、八年一一月六日判決、法律新聞三六三二號五頁）

出版法

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ヘシ

●「ビラ」ト出版法三條ノ文書圖畫

出版法第三條ニ所謂文書圖畫ハ必シモ製本セラルヘキ文書圖畫ナルコトヲ要セス一葉ノ紙片ト雖苟クモ之ニ文字又ハ象形ヲ以テ一定ノ思想ノ表白セラルルニ於テハ同條ニ所謂文書圖畫ニシテ同法第九條ニ規定スル引札類ニ該當セサル限之ヲ發行スルニハ同法第三條第六條第七條所定ノ手續ヲ履行セサルヘカラス（大審院三刑、七年(れ)一三四三號、出版法違反被告事件、七年一二月一七日判決、法律新聞三五三六號一七頁）

●電柱ニ貼付ト出版物ノ發行

被告人大瀧春三カ謄寫印刷シテ街路電柱ニ貼付シタル滿洲出兵絕對反對ノ旨ヲ記載シタル「ビラ」カ出版法第三條ニ所謂文書ニシテ引札ノ類ヲ以テ目スヘカラサルハ勿論之ヲ電柱ニ貼付スルカ如キ行爲ハ即チ同條ニ所謂發行ニ外ナラス（大審院三刑、七年(れ)一三四三號、出版法違反被告事件、七年一二月一七日判決、法律新聞三五三六號一七頁）

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ屆出ルコトヲ得

「版權」ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ屆出ヘシ

●委員制度ノ青年會ノ出版物ト屆出

被告人ハ判示ニユースノ印刷ハ金井青年會ノ發行ニ係リ其無屆ノ責モ亦青年會ニ在リト主張スレトモ判示ノ如キ青年會ニ於テ出版スル文書ハ其代表者カ發行者ト連印シテ之カ屆出ヲ爲スヘキモノナルコト出版法ニ規定スルトコロニシテ判示青年會ハ委員制度ニシテ委員ハ當該事件ニ付其主任トシテ擔當スルコト並本件ニユースノ出版ハ被告人カ其委員タリシコト判示認定ノ如クナルニ於テハ被告人ハ判示青年會ノ代表者トシテ之カ所定ノ屆出ヲ爲スヘキ義務アルモノト謂フヘキヲ以テ其主張ハ之ヲ採用セス（罰金三十圓）（上田區、出版法違反被告事件、七年一一月二九日判決、法律新聞三五〇二號一五頁）

第九條　書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

●「ビラ」ト引札（出版法三條「ビラ」ト出版法三條ノ文書圖畫」參照）

新聞紙法

第一條　本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六箇月以內ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

同一題號ノ新聞紙ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

●新聞紙法ノ著作物ト定期不定期刊行物タルコトノ表示

新聞紙法第一條ニ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六ケ月以內ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物トシテ此ノ條件ノ下ニ發行セラルルモノナルニ於テハ新聞紙法ニ所謂新聞紙ト稱スヘキハ勿論ニシテ此ノ種ノ著作物タル以上定期若クハ不定期ニ發行スヘキモノタルノ表示アルト否トヲ問ハサルモノトス　（大審院三刑、八年(れ)三一五號、新聞紙法違反被告事件、八年五月一七日判決、法律新聞三五六八號八頁）

第十九條　新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ內容其ノ他檢事ノ差止メタル搜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

●新聞紙法ト記事差止ノ告知方法

新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ檢事ノ差止メタル搜査ニ關スル事項ヲ掲載スルヲ得サルコトハ新聞紙法第十九條ノ定ムル所ナリ而シテ檢事カ右ニ關スル記事ヲ差止ムルニ當リテハ其ノ差止ムル事項ヲ具體的ニ指示シ如何ナル事項ニ付差止アリタリヤヲ被差止者ニ知ラシムルヲ要スル而シテ被告人ノ受取リタル本件差止通知書ニハ差止事項ノ一トシテ昭和七年十月三十日檢擧ニ着手シタル日本共產黨及日本共產青年同盟ニ關スル治安維持法違反事件ニ關スル一切ノ事項ナル記載アルコトハ原判決認定事實ニ徵シ明白ニシテ該記載方法ハ如何ナル事項ニ付差止アリタリヤヲ知リ得ル程度ノ具體的記載タルニ於テ缺クル所ナシ從テ該事件ニ關係アル一切ノ事項ハ之ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ得サルモノトス尤モ差止事項ハ出來得ル限リ詳細明確ニ記載シ其ノ差止ノ範圍ヲ一見明瞭ナラシムルコトハ固ヨリ最良ノ方法ナリト雖事件ノ性質ニ依リ就中本件ノ如キ結社ニ基礎ヲ置クモノニアリテハ其ノ關係スル所容易ニ豫測シ得ヘカラサルカ故ニ之カ搜査ニ關スル記事ヲ差止ムルニ當リテハ前記ノ如キ記載方法ニ依ルノ外ナク而カモ斯クノ如キハ差止事項ノ記載方法トシテ缺クルモノニ非サレハ該差止通知書ハ法律上無效ノモノニ非サルナリ然レハ原審カ其ノ違反行爲ニ對シ新聞紙法第十九條第三十六條ヲ適用シタルハ正當ニシテ原判決ニ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルコトナシ　（大審院一刑、八年(れ)一二二一號、新聞紙法違反被告事件、八年一一月二日判決、法律新聞三六三六號一四頁）

●檢事ノ記事差止ノ範圍

本件差止事項ハ昭和七年十月三十日檢擧ニ着手シタル日本共產黨及日本共產青年同盟ニ關スル治安維持法違反事件ニ關係ヲ有スル一切ノ事項ナルコトハ原判示差止通知書ノ內容ニ依リテ明ナルカ故ニ苟モ差止事件ニ關聯ヲ有スルモノハ十月三十日以後新ニ檢擧セラレタルモノト雖差

止ノ範圍ニ屬スト云フヘク本件新聞記事カ右差止事項ニ屬スルコトハ原判決ノ擧示セル證據ヲ綜合シテ之ヲ認メ得ルカ故ニ該記事ヲ指シテ差止事項ニ非スト爲スヲ得ス（大審院一刑、八年（れ）一二二一號、新聞紙法違反被告事件、八年一一月二日判決、法律新聞三六三六號一四頁）

●公開ヲ禁セサリシ辯論ノ朝憲紊亂記事ト新聞紙法違反（新聞紙法四二條同項參照）

第三十八條　第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止ノ命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

（刑訴三六〇條同項參照）

●新聞紙法違反ト判示ノ適否（刑訴三六〇條同項參照）

第四十一條　安寧秩序ヲ素シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ揭載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

●愛國思想ニ基ク安寧秩序ノ紊亂

昭和七年三月一日附發行興民新聞紙上ニ揭載セル記事ノ要旨ハ（一）權力階級ノ前衞タル警視廳モ堤防ヲ決潰スル洪水ノ如キ民衆ノ猛憤ニ對シテハ忽ニシテ瓦解スヘキモノナリトシ（二）佐鄕屋留雄、小沼正カ殺人罪ヲ實行シタルヲ以テ國民ノ總意ヲ代表スル殉忠愛國ノ革命家ノ挺身的行爲ニシテ革命ノ本領ヲ發揮セルモノトシ（三）警視廳當局カ彼等ヲ實名的動機ニ出ツルモノナリトノ逆宣傳ヲ爲シ又斯カル事件ノ發生スル毎ニ愛國的團體ヲ不法ニ彈壓スルハ支配階級ノ犬トシテノ姿ヲ暴露スルモノニシテ同廳コソ民衆革命ノ成就スル曉ニ於テ先ツ鐵火ノ洗禮ヲ受クヘキモノナリト謂フニ在リテ畢竟暗々裡ニ犯罪ヲ是認シテ當該公務員ノ職務上ノ行動ヲ非議スルト共ニ警視廳ノ無力ヲ讒誣シテ其ノ權威ヲ侮蔑シ且同廳ニ對スル民衆ノ忿怨ヲ激發セントスルモノニ外ナラス抑々國體ニ基ク愛國思想ハ之ヲ尊重スヘク又其ノ思想ニ基キ國民ヲ善導シ國體ヲ擁護スルコトヲ目的トスル合法的ノ政治運動社會運動ハ之ヲ賞讃スヘキコト素ヨリ言ヲ須タサル所ナリト雖之カ爲ニ法禁ヲ犯シ暴力ヲ用ヒ法律秩序ヲ無視スルカ如キハ到底之ヲ許容シ又ハ看過スヘキノ限ニ在ラス苟クモ斯クノ如キ行爲アラハ其ノ動機ノ如何ニ拘ラス之ヲ防壓シ以テ法律秩序ヲ維持スルノ必要アリ而シテ凡ソ犯罪ヲ防壓スルニハ搜査機關ヲ施設シテ其ノ權威ヲ維持スルノ必要アルコト勿論ニシテ若シ此ノ機關ナク又其ノ權威ナシトセハ國家ノ安寧秩序ハ得テ之ヲ保持スルニ由ナキナリ新聞紙上ニ犯罪ノ動機如何ヲ問ハス暗ニ其ノ犯罪ヲ是認シ之ニ關聯シテ國家機構上必要ナル官廳ノ權威ヲ侮蔑シ之ニ對シテ民衆ノ敬意ヲ誘發スヘキ記事ヲ揭載スルカ如キハ出版言論自由ノ範圍ヲ逸脫シ安寧秩序ヲ紊亂スルモノト認メサルヘカラス若シ夫レ搜査ニ從事スル公務員ニシテ搜査上ノ秘密ヲ漏泄スルカ如キコトアリトセンカ職務上ノ責任問題ヲ生スヘキハ勿論ナリト雖此ノ故ヲ以テ上叙ノ記事ヲ合法視スルノ理由ト爲スヘカラサルハ言ヲ須タサル所ナリ右新聞紙ノ記事ハ此ノ趣旨ニ照シ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊亂スルモノニ該當スルヤ疑ヲ容レス（大審院一刑、八年（れ）一三七號、新聞紙法違反被告事件、八年四月一〇日判決、法律新聞三五五號一三頁）

第四十二條　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ揭載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

●公開ヲ禁セサリシ辯論ノ朝憲紊亂記事ト新聞紙法違反

新聞紙法第四十二條ハ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ヲ新聞紙ニ揭載シタルトキハ發行人編輯人ヲ

處罰スヘキ旨ヲ規定スルカ故ニ苟モ新聞紙法ノ事項ニシテ朝憲ヲ紊亂セントスル虞アルモノナルニ於テハ其ノ事項カ縱シ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ニ關スルモノナルトキト雖處罰ヲ免レサルモノト解セサルヘカヲス尤モ新聞紙法ハ第十九條ニ於テ新聞紙ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ第三十六條ニ於テ右規定ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ處罰スヘキ旨ヲ規定スルカ故ニ其ノ反面解釋トシテ公開ヲ止メサリシ訴訟ノ辯論ハ之ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁セサルカ如ク解シ得ラレサルニ非サルモ此等ノ法條ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ハ絕對ニ之ヲ新聞紙ニ掲載シ得ラレサルモノナルコトヲ明ニシタルニ止リ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ヲ自由無制限ニ新聞紙ニ掲載スルコトヲ許シタルノ法意ニ非スト解スルヲ以テ相當トスヘシ夫レ憲法第五十九條ハ「裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得」ト規定ス而シテ其ノ之ヲ規定スル所以ノモノハ他ナシ一般人民ニ裁判傍聽ノ機會ヲ與ヘ以テ裁判ノ公正ヲ保障セムトスルニ在リ敢テ辯論ノ內容ヲ聞知セシムルコトヲ以テ目的トスルモノニ非ス然レハ傍聽者ノ如キモ自ラ法廷ノ收容シ得ル少數ノ者ニ限ラレ其ノ員數ノ如キ之ヲ新聞雜誌等公刊物ノ讀者ノ無數ナルニ到底比スヘクモアラサルナリ隨テ訴訟ニ於ケル辯論ニシテ辯論トシテハ未タ以テ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アリトシテ公開ヲ停ムルノ要ナカリシモノト雖新聞雜誌ニ掲載スルトキハ此クノ如キ虞アリトシテ之ヲ禁セサルヘカラサル場合アルヘク又訴訟ノ辯論ノ公開ヲ停ムルコトハ法律ニ依ル場合ノ外ハ裁判所ノ決議ヲ以テスルモノナレハ訴訟ノ辯論ニシテ公開ヲ停ムルノ要アルニ拘ラス裁判所之ヲ行ハサル場合アルヘキハ亦想像ニ難カラサル所トス然ラハ公開ヲ停メサリシ辯論ト雖之ヲ新聞雜誌ニ掲載スルコトニ因ル社會ニ對スル影響ヲ慮リ朝憲ヲ紊亂シ又ハ安寧秩序若ハ風俗ヲ害スル虞アリトシテ其ノ掲載ヲ禁止シ又處罰スルハ毫モ妨ナキ所ト謂ハサルヘカラス　（大審院三刑、八年(れ)九一二號、新聞紙法違反被告事件、八年九月二七日判決、法律新聞三六二六號五頁）

●帝國議會否認ノ記事ト朝憲紊亂

原判決ノ認定ニ係ル昭和七年二月一日附發行興民新聞紙掲載ノ記事ハ現在ニ於ケル本邦帝國議會ヲ以テブルジヨア議會ナリトシ單ニ言論ニ訴フルニ止マラス現實的ニ之ヲ否認シ得ル勢力ヲ結成スルノ必要アルコトヲ說ケルモノニシテ畢竟實行ヲ以テ憲法上ノ機關タル帝國議會ノ廢滅ヲ圖ルヘキコトヲ主張スルモノナルカ故ニ該記事ハ新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲ヲ紊亂セムトスル記事ニ該當スルモノト認ムヘシ　（大審院一刑、八年(れ)一三七號、新聞紙法違反被告事件、八年四月一〇日判決、法律新聞三五五五號一三頁）

第四十五條　新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行爲ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

●辯護士ノ訴訟行爲ト新聞紙法ノ私行

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ人ノ私生活關係ニ於ケル行動ヲ汎稱シ官吏公吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體其ノ他公ノ施設ニ關スル職員若ハ委員トシテノ行動ノ如キモノニ對スルモノナルコトハ當院判例ノ示ス所ナリ辯護士法第一條ヲ案スルニ辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノトス云々トアルヲ以テ辯

護士ハ右判例ニ示ス如キ資格ヲ有セサルハ勿論何等公職ヲ帶フルモノニアラス又辯護士ト之ニ訴訟委任ヲ爲シタル者トノ關係ハ當事者間ノ契約其ノ他民法上ノ規定ヲ以テ之ヲ律スヘク辯護士カ委任ヲ受ケタル訴訟事件ヲ處理スルニ當リ訴訟法ニ依リ訴訟行爲ヲ爲スコトアリテ其ノ行爲ハ公法上ノ性質ヲ有スルモ此ノ行爲ハ訴訟委任者タル本人ハ勿論訴訟法ニ定ムル條件ヲ具備スル者ハ辯護士ニ非スト雖訴訟委任ヲ受ケ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ辯護士カ訴訟行爲ヲ爲スノ故ヲ以テ其ノ行動ハ新聞紙法第四十五條ノ適用ニ於テ私行ニ非スト論スルヲ得ス原判示ニ依レハ被告人ハ週刊新聞關東タイムスノ編輯印刷兼發行人ニシテ辯護士青木洵ノ名譽ヲ毀損スルコトアルヲ認識シナカラ判示ノ新聞紙ニ「百圓取ラレテ此ノ始末青木辯護士宅ヘ五名ノ依頼者カ捻込ム」ト題シ同辯護士カ高價ノ辯護料ヲ取ルモ其ノ效驗ナキ流說アリタルカ廷ニ其ノ事實ヲ告ケタル者アル旨ヲ冒頭ニ揭記シ尋テ同辯護士カ石井茂行ニ係ル判示被告事件ニ付辯護ノ依頼アリ着手金トシテ金百圓ヲ約シタル處審理ノ末同被告人ハ有罪判決ノ言渡ヲ受ケタルヨリ同辯護士ニ對シ控訴手續ヲ採ルヘク依頼シタルニ同人ハ旅行シ控訴ノ申立ヲ爲サス空シク控訴期間ヲ經過セシメタル爲同被告人ハ入獄シタリ其ノ後親族緣故者ハ同辯護士ヲ訪ヒ嚴談ヲ試ミタルニ同人ハ控訴ノ申立ヲ爲ササリシハ双方ノ錯誤ニシテ道德上ヨリ見レハ善クナケレト法律上ヨリセハ差支ナシ自分ハ責任ナシト放言シテ顧ミス其ノ無責任ト不德ノ言ニ一同泣キナカラ辭去シタル由ナル旨ノ記事ヲ揭載シテ之ヲ頒布シタルモノナレハ其ノ記事ハ畢竟辯護士青木洵ノ私行ニ關シ同人ノ名譽ヲ毀損スルモノナレハ被告人ノ判示行爲ハ名譽毀損罪ヲ構成スヘク隨テ原審ニ於テ新聞紙法第四十五條ニ依リ事實ノ證明ヲ許スコトナク刑法第二百三十條第一項ヲ適用シテ被告人ヲ處分シタルハ正當ニシテ記錄ヲ調査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アリト認ムヘキ顯著ナル事由ナシ　（大審院四刑、八年れ）五五二號。

名譽毀損被告事件並之ニ附帶スル私訴事件、八年六月五日判決、法律新聞三五六八號一四頁）

醫師法

第十一條　免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

●診察治療ノ內一方ノミノ行爲ト醫業

醫行爲トシテ通常疾病ノ診察ト治療トヲ併セ行フト雖診療ヲ爲サスシテ治療行爲ノミヲ爲シ又ハ治療行爲ヲ爲サスシテ診療ノミヲ爲ス事モ本來醫行爲ニ屬スルモノトス但シ特別ノ法規ニ於テ醫師以外ノ者カ業トシテ特定ノ治療又ハ之ニ伴フ診察ノ行爲ヲ爲スコトヲ認容シタリト解スヘキ場合ニ其ノ認容ノ範圍內ニ於テ行フ治療又ハ診察ノ行爲ハ之ヲ業トスルモ醫師法違反トシテ處斷スヘキモノニ非サルヤ言ヲ俟タスト雖斯ル法規ノ認容以外ニ於テ苟モ疾病ヲ診察シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ業トスルトキハ常ニ之ヲ醫業ト解スヘキモノトス本件原判決ノ證據ニ依リ認定シタル事實ニ依レハ被告人等ハ淋病患者安田喜太郎外八、九名ノ患者ニ對シ問診打診聽診又ハ觸診等ノ方法ニ依リ疾病ヲ診察シタルノミナラス淋病患者ニ對シテハ尿道ニ硝子管ヲ挿入シテ電氣ヲ通シ神經痛患者ニ對シテハ湯桶ニ膝ヲ入レシメテ之ニ電氣ヲ通スル等廣義ニ於ケル外科的治療行爲ヲ爲シタルモノナルカ故ニ被告人等ノ本件行爲カ醫行爲タルコト極メテ明白ナリ

然り而シテ被告人等ハ醫師ノ免許ヲ受ケスシテ右ノ行爲ヲ爲シ一回金三十錢乃至一圓ノ料金ヲ收受シタルモノニシテ而カモ特別法規ニ於テ斯ル行爲ヲ認許シタリト解スヘキ規定ナキ以上原審カ醫師法第十一條ニ所謂免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトシテノ同法條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ　（大審院二刑、八年(れ)八〇九號、醫師法違反被告事件、八年七月三一日判決、法律新聞一三六二五號一三頁）

●鍼灸術營業者ト醫師法違反

治療ノ目的ヲ以テ人ノ疾病ヲ診察シ之ニ適應スル投藥ヲ爲スコトハ醫術ノ範圍ニ屬シ醫師ノ免許ナクシテ常業トシテ叙上ノ行爲ヲ爲スニ於テハ醫師法第十一條ニ該當スルコト疑ナシ原判決ノ認メタル事實ハ被告人ハ醫師ノ免許ヲ有セサルモノナル處末林桂二外十數名ニ對シ治療ノ目的ヲ以テ觸診其他ノ方法ニ依リテ病狀ヲ診察シ且投藥シテ治療行爲ヲ爲シ之カ料金ヲ得以テ醫業ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ前叙ノ理由ニ依リ該所爲ハ醫師法第十一條ニ該當スルモノト云ハサルヘカラス而シテ原判決ハ被告人カ鍼灸術營業者トシテ患者ニ對シ藥ヲ投與シ又ハ之ヲ指示シタルコトヲ判示セサルヲ以テ原判決カ鍼術灸術營業取締規則ヲ適用處斷セサリシハ固ヨリ當然ナリトス尙被告人カ鍼灸術營業者ナリトスルモ鍼灸術ハ鍼砭又ハ灼艾ノ方法ニ依リテ疾病ヲ治スルノ術ヲ指稱スルモノニシテ該營業者ハ右方法ニ依ル施術ヲ爲スニ必要ナル限度ニ於テノミ診察シ得ルニ止リ其ノ範圍ヲ越ヘ又ハ其ノ術ニ關係ナク診察ヲ爲スカ如キハ全ク醫師ノ行爲ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス原判決援用ノ證據ニ依レハ被告人ハ鍼灸術營業者トシテ施術ノ必要上患者ヲ診察シタルニ非スシテ其ノ必要ノ限度ヲ越ヘ又ハ其ノ術ニ關係ナク判示ノ診察投藥ヲ爲シタルコトヲ認ムルニ十分ナルヲ以テ被告人ノ所爲ハ醫師法違反ノ罪ニ該當シ同

營業者ノ爲シ得ヘキ當然ノ行爲ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス　（大審院三刑、八年(れ)九七一號、醫師法違反被告事件、八年九月三〇日判決、法律新聞一三六一六號九頁）

●柔道教師ノ免許鑑札ヲ有セサル者ノ柔道整復術營業ト醫師法違反

被告人ハ醫師ノ免許及柔道教師ノ免許ヲ受ケスシテ昭和四年六月十日頃ヨリ昭和七年三月末頃ニ至ルマテノ間被告人肩書居宅其ノ他ニ於テ中島みね外數名ノ患者ヲ診察シ其ノ上肢又ハ下肢ノ骨折若ハ脫臼ニ對シ患部ヲ揉ミ擦リ板片ヲ當テ繃帶シテ補强スル等治療行爲ヲ爲シ其ノ都度金錢ノ報酬ヲ受ケテ醫業ヲ爲シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ醫師法第十一條ニ該當シ按摩術營業取締規則ニ該當セス（按摩術營業取締規則附則「柔道教師ニ非サル者ト按摩術營業取締規則違反」參照）　（大審院二刑、七年(れ)一二〇六號、按摩術營業取締規則違反被告事件、七年一二月一二日判決、大審院裁判例六卷刑事五一頁）

●紅療法ト醫師法違反

醫師法第十一條ニ所謂醫業トハ反覆繼續ノ意思ヲ以テ疾病ノ診察手術投藥等ノ醫行爲ヲ爲スコトヲ指稱スルハ言ヲ俟タサル所ニシテ診察中ニ聽診觸診視診問診ヲ含ミ又投藥中ニ藥品ヲ患部ニ塗布スルコトヲ含ムコトニ付テハ既ニ本院判例ノ存スル所ナリトス原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ醫師ノ免許ヲ受ケサル者ナルニ拘ラス關節炎患者三宮種子外三十一名ニ對シ問診觸診等ニ依リ診察ヲ爲シ其ノ患部ニ紅ヲ塗布シ皮膚ヲ通シ血管ニ吸收セシメ血液ノ循環ヲ旺盛ナラシムル方法ニ依ル療法ヲ施シ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レトモ紅ハ日本藥局法ニ所謂藥品ニ非サルハ勿論賣藥部外品取締規則（昭和七年內務省令第二十五號）ニ所謂賣藥部外品ニモ非ス而シテ大正十三年七月十一日內務省衛醫第九二五號衛生局長ノ回答ニ依ル

モ紅草ナル野生ノ植物ヨリ採取シタル紅色ヲ帶ヒタル液汁ヲ刷毛ヲ以テ患部ニ塗布シ其ノ上部ヲ圓木ニテ摩擦シテ皮膚ニ濕潤セシメテ施術スル所謂紅療法ハ醫業ト認メサル所ナルノミナラス此ノ如キ療法ヲ施スニ當リ患部ノ部位ヲ察知スルコトハ必要缺クヘカラサル事ニ屬スルヲ以テ偶々被告人ニ於テ判示ノ如ク紅ク塗布スヘキ患部ノ部位ヲ察知スル必要上問診觸診ヲ爲シタルモノト解セサルヲ以テ相當トスヘシ然ラハ則チ東京府其ノ他數縣下ニ於ケルカ如ク別ニ療術行爲ニ關スル取締規則カ存スレハ格別此ノ如キ取締規則存セサル高知縣下ニ於テハ判示被告人ノ行爲ノ如キハ之ヲ罰スルニ由ナキモノト謂ハサルヘカラス　（大審院三刑、八年（れ）四二三號、醫師法違反被告事件、八年七月八日判決、法律新聞三六〇三號五頁）

醫師會令

第二十二條　郡市區醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ヲ經テ左ノ各號ノ一ニ揭クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過怠金

三　三年內議員、豫備議員及役員ノ選擧權及被選擧權竝代議員ノ被選擧權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選擧權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

●定足數ヲ缺キ會員ニ辯明ノ機會ヲ與ヘサル醫師會ノ懲戒議決ノ適否

醫師會令第十四條第二十二條ノ各第一項第二號ハ醫師會カ其會員ニ對シ過怠金ヲ科スル旨ノ懲戒議決ヲ爲スニハ會員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得サル旨規定シ而モ此規定ハ固ヨリ强行規定ナレハ會員懲戒ノ議決ハ此定足數ノ會員出席シテ之ヲ爲スニ非サレハ醫師會總會ノ議決トシテ成立セサルモノト認ムルヲ相當トス果シテ然レハ叙上ノ如ク控訴人會々員總數八十三名ノ半數ニ足ラサル三十三名ノミ出席議決シタリト認ムヘキ本件懲戒ノ議決ハ控訴人會總會ノ議決トシテハ成立セサリシモノト認ムヘキモノトズ加之右甲第一號證ノ一ニ依レハ控訴人會々則ニハ第五十四條ニ於テ會長ハ懲戒ニ關スル會議開會ノ日時及場所ヲ豫メ本人ニ通知シ會員ヲシテ辯明ヲ爲スノ機會ヲ與フヘキ趣旨規定セラレ居ルコトヲ認ムルニ十分ナリ然ルニ控訴人會々長カ被控訴人等ニ對シ爲シタル右總會開會ノ通知書ニハ會員懲戒ニ關スル議案ノ記載ナク同議案ハ右總會ニ於テ緊急議案トシテ提出議決セラレタルコト叙上認定ノ如クニシテ而モ原審ニ於ケル被控訴人堀野計一本人訊問ノ結果ニ依レハ右議案ハ被控訴人等ノ出席セサル總會席上ニ於テ緊急議案トシテ提出セラレタルモノナルコトヲ認ムルニ十分ナリ果シテ然ラハ前示懲戒議決ハ被控訴人等ニ對シ之ニ關シ辯明ノ機ヲ與フルコトナクシテ爲サレタル右會則違反ノ議決ニシテ無效ナリト云ハサルヘカラス控訴人ハ被控訴人等カ原審ニ於テ爲シタル本件懲戒處分ノ議決ニ關スル手續上ノ點ニ付キテハ主張セストノ自白ヲ援用スル旨主張スレトモ本件記錄ニ徵スルニ被控訴人等カ原審ニ於テ控訴人主張ノ如ク總括的ニ本件懲戒處分ノ議決ニ關スル手續上ノ點ニ付キテハ主張セサル旨陳述シタルコトヲ認メ難ク只被控訴人等ハ原審昭和六年十一月六日ノ準備手續ニ於テ「右總會ニハ會員八十三名中三十

四名出席シ內一名ハ途中退席他ノ三十名ハ委任狀ヲ提出シ居タルモノナルトコロ本件會員制裁ニ關スル議案ハ緊急議案トシテ提出セラレタル關係上委任狀提出者ハ該議案ニ對スル表決權ノ代行ヲ委任シタルモノト解シ難キヲ以テ右總會ニ於テ本件懲戒議決ヲ爲シタルハ醫師會令第十四條並控訴人會々則第二十七條ニ反シ不適法ナル旨ノ陳述（本判決事實摘示中被控訴人等（二）ノ抗辯ニ對應スルモノ）及被控訴人等カ爰ニ主張シ居タル同事實摘示中被控訴人等（一）ノ抗辯ト同旨ノ抗辯ハ當時ノ訴訟進行狀態ニ於テハ之ヲ爲ササル旨ヲ述ヘタルコトヲ認メ得ルニ過キス（抗辯權ヲ拋棄シタルモノトハ認メ難シ）而モ斯ル陳述ヲ爲シタル後ト雖モ民事訴訟法第二百五十五條等ノ制限ヲ受クル場合ニ非サル限リ適法ニ右主張ヲ爲シ得ヘキコト論ヲ俟タス而シテ控訴人ハ本判決事實摘示中被控訴人等（一）乃至（三）ノ主張ハ時期ニ遲レタルモノナル旨異議ヲ述フルモ被控訴人等カ右主張ヲ爲スモ之カ爲メ著シク訴訟ヲ遲滯セシムルモノニ非サルコト本件記錄上明ナルヲ以テ被控訴人等ハ適法ニ右主張ヲ爲シ得ヘキモノト云フヘク右異議ハ理由ナシ果シテ然ラハ各被控訴人ニ過怠金五百圓ヲ科スル旨ノ控訴人會總會ノ議決カ適法ニ成立シタルコトヲ前提トスル本訴請求ハ爾餘ノ點ノ判斷ヲ爲ス迄モナク失當ナルコト明ナルヲ以テ之ヲ棄却スヘク結局之ト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ニシテ本件控訴ハ理由ナシ（東京控六民、七年（ネ）六三八號、過怠金請求事件、法律新聞三六二三號一〇頁）

第二十三條　醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ羈束ス

●相互診療組合ノ醫師ト醫師會々則ノ藥價診察料

被告等カ肩書地所在八王子相互診療組合ノ診療所ニ於テ疾病ヲ治療スル醫務ニ從事シツツアルコトハ被告等ノ認ムル所ナルモ原告ノ立證ニ依リテハ其治療ノ對價トシテ被告等カ自己ノ計算ニ於テ患者ヨリ別紙第二表記載ノ藥代等ヲ受ケタル事實ヲ認定スルニ足ラス原告會々則第五十六條ニ所謂報酬トハ醫師カ獨立シテ疾病ノ治療ヲナシ生活資料トナス目的ヲ以テ該治療ノ對價トシテ自己ノ計算ニ於テ患者ヨリ受クル所ノ金錢ヲ指稱スルモノナレハ被告等カ治療ノ對價トシテ自己ノ計算ニ於テ患者ヨリ同條ニ基ク總會ノ議決ニ依リ定メタル診察料藥價等ニ反スル藥代等ヲ受ケタル事實ノ存セサル限リ同會則違反ノ行爲アリタリト謂フコトヲ得ス從ツテ本件過怠金百五十圓ノ懲戒ニ付スル旨ノ醫師會ノ議決並ニ其被告等ニ對スル通知ハ無效ニシテ本訴請求ハ失當ナリト謂ハサルヘカラス（中略）次ニ被告等ト患者トノ間ニ治療ニ關スル法律關係ヲ按スルニ一般ニ醫師カ患者ヲ治療シ其對價トシテ報酬ヲ受クル場合ハ一種ノ請負契約ナル場合多カルヘシト謂ヘトモ本件ノ場合ハ被告等ハ雇傭契約ニ基キ患者ニ對シテハ其治療ナル事實行爲ヲナスニ止マリ治療ニ關スル法律行爲ノ當事者トナルモノニアラス其治療ニ關スル當事者ハ雇主ナル組合員全員ト其治療ヲ受クル個々ノ組合員又ハ其家族若シクハ其使用人ナリ故ニ被告等ハ患者ニ對スル治療ノ當事者トシテ獨立ノ地位ニ立ツモノニアラス又前示雇傭契約ノ內容ハ被告等カ具體的ニ個々ノ患者ヲ治療スルコトノ對價トシテ藥代治療費等ヲ見積リテ月給ヲ定メタルモノニアラスシテ具體的ニ個々ノ患者ノ多少又ハ治療ノ難易等ニ關係ナク唯タ患者ニ對シテ事實上ノ治療行爲ヲナシ其ノ他ノ勞務ニ服スルコトノ報酬トシテ月給ヲ定メ組合員中治療ヲ受クルコトアルヘキモノモ亦治療ヲ受ケサルコトアルヘキ者モスヘテヲ包含スル組合員全體ト被告等カ斯カル契約ヲナシタルモノナレハ被告等ノ受クル月給ハ個々ノ患者ノ治療ノ對價ヲ意味セス從テ月給夫レ自身ハ會則ニ所謂醫業報酬ニアラス尙被告等ノ雇傭契約成立後加入シタル組合員ニ對シテモ叙上ト同一ニ論スヘキモノナルコトハ乙第三、四號各證ノ各一ノ內容ニ

徴シ自明ノ理ナリトス故ニ之ヲ要スルニ公若クハ私ノ診療所ニ雇傭セラルル醫師ニシテ其雇傭契約ノ內容カ自カラ患者トノ間ニ獨立シテ疾病治療ノ契約ヲナシ其對價トシテ自己ノ計算ニ於テ報酬ヲ受クルモノナル時ハ當該公私ノ診療所ノ定ムル診察料藥價等ノ如何ニ拘ハラス自己ノ屬スル醫師會所定ノ診察料藥代等ニ從ハサルヘカラサルモ本件ノ如ク被告等カ獨立シテ治療ノ當事者トナラス從ツテ治療ノ對價トシテ受クヘキ藥代等ヲ自己ノ計算ニ於テ受ケサル場合ニ於テハ其所屬醫師會所定ノ診察料藥價等ニ從フヲ要セサルモノトス　（八王子區、五年（ハ）四七六號、過怠金請求事件、法律新聞三三六二號五頁）

第二十四條　地方長官ハ醫師會ノ議決若ハ選舉又ハ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

地方長官ハ醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間醫師會及日本醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

●**醫師會ノ決議ニ依ル制裁ト裁判管轄**　（裁判所構成法二條同項參照）

第二十九條　醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財產處分ヲ要スルトキハ關係醫師會ノ協議ニ依リ財產處分方法ヲ定メ關係醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シクスル場合ニ於テハ內務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍之ヲ存續スルモノト看做ス（下略）

●**行政區劃ノ變更ニ依リ消滅シタル醫師會ト財產處分ノ目的ノ範圍內ニ於ケル存續**

本件ノ如ク醫師會ノ區域タル郡カ市ニ併合セラレ郡トシテハ存在セサルニ至リタル場合ニ於テハ該郡ヲ區域トシテ存在シ居タル郡醫師會ハ郡ノ消滅ト同時ニ其ノ存在ヲ失フヘキモノト認ムルヲ相當トスヘク然レトモ行政區域ノ變更ニ依リ消滅シタル醫師會ハ財產處分ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做スヲ妥當トス　（東京地一一民、六年（ワ）三一九九號、慰藉料並謝罪廣告請求事件、八年二月一四日判決、法律新聞三五三二號一〇頁）

齒科醫師法

第十一條　免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者、停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充塡、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正並口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

●**金冠義齒ノ施工ト齒科醫術ノ範圍**

齒牙ニ金冠ヲ施シ又ハ齒牙ノ脫落部ニ義齒ヲ嵌入スルカ如キ行爲ト雖其ノ施術方法ノ當ヲ得ルト否トニ依リ齒牙ノ健全ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ此等ノ行爲モ亦齒科醫術ノ範圍ニ屬スト爲スヘシ　（大審院四刑、八年（れ）六六〇號、齒科醫師法違反被告事件、八年六月二三日判決、法律新聞三五九二號七頁）

齒科醫師法　（一一條）

藥劑師法

第九條　藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ依リ調劑スヘキモノトス但シ處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ質シ證明ヲ得ルニ非サレハ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

●醫師ノ電話處方ニ依ル調劑ト藥劑師法違反

縱令電話ニ依ル處方調劑カ精密ナル條件ノ下ニ過誤ヲ避クルニ十分ナル注意ヲ用フルコトヲ得ル場合ニ非サレハ容易ニ解釋ヲ擴張スヘキモノニ非サルコトハ明白ナリト雖特殊事情ノ存スル場合ニ在リテハ醫師ノ處方箋ニ依リテ調劑シタルモノト之ヲ亦明白ナリト雖特殊事情ノ存スル場合ニ在リテハ醫師ノ處方箋ニ依リテ調劑シタルモノト之ヲ同一視スルヲ以テ社會通念上及人情道義上妥當ナリトスヘキノミナラス此ノ類推解釋ヲ爲スモ毫モ叙上立法ノ精神ニ抵觸スル處アルコトナキカ故ニ徒ニ文句ノ末ニ拘泥シテ此ノ解釋ヲ排斥スルハ正當ニ非ラス若シ夫レ電話調劑ハ危險ニシテ就中劇毒藥配合ノ場合ノ如キハ特ニ其ノ危險著シキカ故ニ絶對ニ之ヲ禁止スヘキモノニ非サルヤノ疑ナキニ非スト雖若シ何等ノ例外ナク絶對ニ之ヲ禁止スルニ非サレハ危險ヲ避クルコト能ハサルモノトセハ醫師カ急速ヲ要スル場合ニ自己ノ調劑所ニテ調劑ニ從事スル者ニ對シ患家往診先ヨリ電話ヲ以テ處方調劑ヲ爲サシムル場合ニ於テモ等シク此ノ危險ノ存スルハ明白ナルカ故ニ醫師法中ニモ之カ防止ニ付テ特別ノ規定ヲ設ケ醫師ニシテ之ニ違反スルモノヲ處罰スルノ必要アルヘキモノナルニ拘ラス斯ル規定ノ存セサルニ由テ之ヲ觀レハ藥劑師法第九條ノ規定ニ付テ上叙ノ如キ確實性ヲ保障スルニ必要ナル諸般條件ノ具備スル場合ニ於テモ尙ホ右類推解釋ヲ絶對ニ拒否スルノ理由アリト爲スヘキニ非ス　（大審院一刑、六年（れ）一〇二九號、藥劑師法違反被告事件、六年一二月二一日判決、大審院裁判例六巻刑事六四頁）

●醫師ノ電話處方ニ依ル調劑ノ藥劑師法違反ト重大ナル事實誤認　（刑訴四一四條同項參照）

按摩術營業取締規則

附則末項　本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脫臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス

●柔道教師ニ非サル者ト按摩術營業取締規則違反

內務省令按摩術營業取締規則附則末項ニハ本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脫臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用スト雖ヲ以テ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ免許鑑札ヲ受ケスシテ脫臼骨折ニ對スル柔道整復術營業ヲ爲シタルトキハ同項ニ依リ按摩術營業取締規則第十條ヲ準用處斷スヘキモノナルモ柔道ノ教授ヲ爲サル者ニ於テ免許鑑札ヲ受ケスシテ脫臼骨折ニ對スル柔道整復術營業ヲ爲スモ右附則末項ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ他ノ犯罪成立スルハ格別同項ニ依リ右規則第十條ヲ準用處斷スヘキモノニ非ス蓋シ脫臼骨折ノ對症療法ハ一種ノ醫行爲ニ屬スルヲ以テ醫師以外ノ者ニ之ヲ營業ト爲スコトヲ許スハ例外ノ事ナレハ右附則末項ノ規定ハ之ヲ嚴格ニ解釋シ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ限リ按摩術營業取締規則ニ準據シ免許鑑札ヲ受クルニ於テハ叙上患部ニ對スル柔道整復術營業ヲ爲スコトヲ許シタルモノト

解スルヲ相當トスレハナリ然ラハ原判決カ單ニ前記判示事實ヲ認定シタルニ止マリ被告人ハ柔道教授ヲ爲ス者ナリヤ否ヲ確定セス輒ク右附則末項ニ依リ右規則第十條ヲ準用處斷シタルハ理由不備ノ違法アルモノナリ　（大審院二刑、七年(れ)一二〇六號、按摩術營業取締規則違反被告事件、七年一〇月二七日決定、大審院裁判例六卷刑事五一頁）

●按摩術營業取締規則違反ト重大ナル事實誤認　（刑訴四一四條同項參照）

大阪府令理髪營業取締規則

第五條　營業者ハ左記各號ノ事項ヲ遵守シ又ハ從業者（家族、徒弟、雇人ニシテ其業ニ從事スルモノヲ謂フ以下同シ）ヲシテ遵守セシムヘシ

一　理髪用器具ハ左記ノ方法ニ依リ客一人毎ニ消毒スルコト（下略）

●理髪用器具ト消毒

大正二年大阪府令第六十一號理髪營業取締規則第五條ニ理髪用器具ハ客一人毎ニ消毒スヘシトアルハ文勢上客ノ理髪又ハ顏剃ヲ終リタル直後ト解スヘク之ヲ其ノ直前ニテモ可ナリト解スルトキハ第一ノ客ニ引續キテ第二ノ客アルトキハ敢テ甚シキ不都合ナキカ如シト雖第一ノ客ト第二ノ客トノ間ニ幾多ノ間隔アルトキモ第二ノ客ノ直前迄ハ消毒ヲ爲ササルモ可ナリトノ結論ニ達シ充分ノ取締ヲ爲スヲ得サルノミナラス其ノ間病毒ノ空氣傳染等ノ虞アリテ取締規則ノ趣旨ニ適セス　（大審院二刑、七年(れ)一四五〇號、大阪府令理髪營業取締規則違反被告事件、七年一二月五日判決、法律新聞三五一三號一二頁）

古物商取締法

第二十一條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒサル旨ヲ規定セルヲ以テ同法違反罪ニ付テハ古物商取締法第二十一條ニハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒサル旨ヲ規定セルヲ以テ同法違反罪ニ付テハ刑法中併合罪ノ規定ヲ適用スヘカラサルハ勿論ニシテ原判決ノ擬律ハ正當ナラサルモ論旨ハ右ノ理ニ基キ原判決カ本件二箇ノ犯罪ヲ併合罪トシ一箇ノ刑ヲ以テ處斷シタルヲ不當トシ二罪トシテ二箇ノ刑ヲ言渡スヘキヲ主張スルモノニシテ即チ被告人ノ爲ニ不利益ナル論旨ニ歸スルモノナレハ適法ノ上告論旨ト謂フヘカラス然レトモ原判決ニハ叙上ノ如キ法令ノ違反アルヲ以テ刑事訴訟法第四百三十四條第二項ニ則リ本院ハ職權ヲ以テ調査ヲ爲シタル上原判決ヲ破毀スヘキモノナリトス　（大審院一刑、八年(れ)一五二一號、贓物故買古物商取締法違反被告事件、八年一二月一一日判決、法律新聞三六三八號一七頁）

●古物商取締法違反ト併合罪

古物商取締法第二十一條ニハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒサル旨ヲ規定セルヲ以テ同法違反罪ニ付テハ刑法中併合罪ノ規定ヲ適用スヘカラサルハ勿論ニシテ原判決ノ擬律ハ正當ナラサルモ論旨ハ右ノ理ニ基キ原判決カ本件二箇ノ犯罪ヲ併合罪トシ一箇ノ刑ヲ以テ處斷シタルヲ不當トシ二罪トシテ二箇ノ刑ヲ言渡スヘキヲ主張スルモノニシテ即チ被告人ノ爲ニ不利益ナル論旨ニ歸スルモノナレハ適法ノ上告論旨ト謂フヘカラス然レトモ原判決ニハ叙上ノ如キ法令ノ違反アルヲ以テ刑事訴訟法第四百三十四條第二項ニ則リ本院ハ職權ヲ以テ調査ヲ爲シタル上原判決ヲ破毀スヘキモノナリトス　（大審院一刑、八年(れ)一五二一號、贓物故買古物商取締法違反被告事件、八年一二月一一日判決、法律新聞三六三八號一七頁）

北海道廳令紹介營業取締規則

第十二條　營業者ハ左ニ揭ケル行爲ヲ爲スコトヲ得ス（抄）

六　紹介ニ係ル雇傭ノ當事者間ニ於ケル財物ノ授受ニ關與スルコト

古物商取締法（二一條）　北海道廳令紹介營業取締規則（一二條）　一三一

●北海道廳令紹介營業取締規則第十二條第六號ニ依レハ紹介業者ハ昭和元年十二月三十日北海道廳令第六號紹介營業取締規則ノ趣意

自己ノ紹介ニ係ル雇傭ノ當事者間ニ於ケル財物授受ニ關與スルコトヲ得サル旨ノ規定存スルコト當裁判所ニ顯著ナルトコロナリト雖右禁止規定ノ趣旨ハ紹介業者ニ於テ自己ノ紹介ニ係ル雇傭ノ當事者間ニ於ケル財物ノ授受ニ關與シ得ルトセンカ紹介業者ハ其ノ間貧窮ナル被傭者ヲ壓迫シテ不當ノ利得ヲ得ル虞レナシトセサル事等ニ鑑ミ之カ弊害ヲ防止シ以テ專ラ被傭者ノ利益ヲ保護セントスルニ在ルコト多言ヲ要セサルトコロニシテ本件ノ如ク紹介業者カ被傭者ノ負擔セル債務ノ支拂ニ付之カ連帶保證ヲ爲スカ如キハ專ロ被傭者ニ有利ニシテ右規定ノ趣旨ニ反スルコト無キヲ以テ無效ノ法律行爲トハ解シ難ク控訴人ノ訴外靜江ノ本件債務ニ付爲シタル連帶保證ハ有效ナリ　（函館地民、七年（レ）一九二號、貸金請求控訴事件、法律新聞三五五二號一五頁）

飲食物防腐劑漂白劑取締規則

第一條　左ニ揭ケル者ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ使用スルヲ得サルコト明ナルヲ以テ硼酸ニ白砂糖乳糖及米麴等ヲ配合シテ合成シタル物ハ同條ノ適用ヲ受クヘキモノナルコト勿論ナルノミナラス原判示ニ依レハ被告人カ右原料ヲ配合シテ製造シタル「ウイリアムイースト」ハ同規則第二條第一項ニ所謂飲食物ノ防腐劑ナルコトヲ認メタル趣旨ニ外ナラスト解スヘク該事實ハ其ノ引用ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ原判決ニハ理由不備ノ違法ナキト同時ニ擬律錯誤ノ違法アルヲ見ス　（大審院三刑、七年（れ）一五三一號、詐欺飲食物防腐劑漂白劑取締規則違反被告事件、八年二月八日判決、法律新聞三五三六號九頁）

●硼酸ノ合成分ト飲食物防腐劑漂白劑取締規則

飲食物防腐劑漂白劑取締規則第一條ニ依レハ硼酸ノ化合物及之ヲ含有スル物ハ飲食物ノ製造又

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用キンコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ縣長ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ一月以下ノ重禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●「オツチヨコチヨイ」ト懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲

所謂「オツチヨコチヨイ」ハ懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方ノ規定ニ該當セス　（刑法二四六條「オツチヨコチヨイト詐欺罪」參照）　（大審院三刑、七年（れ）一一六七號、詐欺被告事件、七年一一月二六日判決、法律新聞三五一五號七頁）

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方

國有林野法

第五條　國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ隣接地所有者ニ通告スヘシ

●**行政廳ノ國有林境界査定處分ノ效力**

上告人主張ノ金田村川口字澤山百十六番ノ四十二山林ハ元字澤山百十六番山林ヨリ分筆セラレタルコトハ原審ノ認定スル所ニシテ元澤山百十六番山林ハ其ノ以前官有林ニシテ被上告人所有ノ金田村川口字澤山三十二番ノ原野ト境界シ居リ明治三十六年中行政廳ニ於テ境界査定處分ニ依リ兩地ノ境界ヲ定メラレタルコト本件當事者間ニ爭ナカリシコト原判決事實摘示及之ニ引用スル第一審判決事實摘示並原審口頭辯論調書ニ依リ明ニシテ所轄行政廳カ其ノ權限內ニ於テ爲シタル國有林ノ境界査定處分ハ其ノ取消サレサル限リ有效ニシテ其ノ定メラレタル私人所有地トノ境界線ハ境界線トシテ效力ヲ有スヘキモノナルカ故ニ本件兩地ノ境界ヲ明ニスルカ爲ニハ前記行政廳ノ爲シタル境界査定處分ニヨリ定メラレタル境界線ヲ明ニシ果シテ本件兩地カ相隣セル土地ナリヤヲ判定セサルヘカラス然ルニ原審ハ何等前記行政廳ノ土地境界査定處分ノ內容ヲ審査セスシテ上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ重要ナル當事者ノ主張事實ヲ遺脫シテ裁判ヲ爲シタル違法アルモノトス　（大審院三民、六年（オ）一二二八號、境界確認請求事件、七年二月一〇日判決、大審院裁判例六卷民事一八頁）

土地收用法

●**土地所有者ノ起業者ニ對スル土地返還請求**

惟フニ土地ノ所有者カ起業者ニ對シテ土地ノ返還ヲ請求シ因テ以テ原狀回復ノ目的ヲ遂スルニハ土地ノ返還カ事實上法律上共ニ尙可能ナルコトヲ必要トシ其ノ返還不能トナリタルトキハ他ノ事由ニ基キ利得ノ返還若クハ損害ノ補償ヲ求ムルハ格別原狀回復ノ方法ニ依リ其ノ返還ヲ求メ得サルモノト解スルヲ相當トシ而カモ本件ノ場合ニ在リテハ上告人ノ要求スル係爭水路ノ撤去ハ起業者タル被上告會社ノ事業ニ多大ノ損失ヲ被ラシムルコト前陳ノ如クナレハ叙上ノ理由ニ依リ上告人ノ爲ス本件隧道ノ敷地返還ノ請求ハ法律上履行不能ニ歸シタルモノト做ササルヲ得ス　（大審院五民、七年（オ）三二五六號、所有權妨害排除請求事件、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五一一號一四頁）

第十二條　土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ限ニ在ラス

●**內務大臣ノ認定ト土地收用ノ範圍**

起業者カ家屋其ノ他工作物ヲ建設スル爲ニ要スル土地ヲ土地收用法ヲ適用シテ收用スルコトヲ得ルニハ該家屋其ノ他工作物ノ建設事業カ同法第十二條ニ依ル內務大臣ノ認定ヲ受ケタルモノナルコトヲ要スト解スヘキハ同法第一條第二條及第十二條ノ注意ニ徵シ明瞭ニシテ內務大臣ノ認定シタル事業カ何ナリヤハ起業者ノ事業認定申請書ニ添附セル事業計畫書及圖面ニ依リ之ヲ判定スヘキモノト解スルヲ相當トス而シテ參加人カ昭和四年八月十日內務大臣ノ認定ヲ受ケタル事業ハ愛知縣北設樂郡三輪村ヨリ長野縣伊那郡川路村ニ至ル鐵道線路ノ建設並天龍峽停車場外二停車場及二停留場ノ建設ニシテ而モ天龍峽停車場ノ用地二千七十四坪內ニ建設セラルヘキ

モノノ中ニハ舍宅合宿所保線係詰所變電所及材料置場等ヲ包含セス單ニ貨物ホーム貨物上家及線路ノミナルコトハ被告ノ提出ニ係ル參加人ノ內務大臣宛昭和四年七月十七日附土地收用事業認定申請書添附ノ事業計畫書圖面ニ徵シ明ナル所トス然レハ參加人カ係爭土地ヲ收用スル必要アリト爲ス舍宅合宿所保線詰所變電所及材料置場ノ建設事業ハ土地收用法第十二條ニ依ル內務大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ非スト解スルヲ相當トス從テ參加人ハ之等ノ建物等ノ建設ニ必要ナリトシテ土地收用法ヲ適用シ係爭土地ノ收用ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得サルモノニシテ被告カ參加人ノ申請ヲ認メテ係爭土地ノ收用ノ裁決ヲ爲シタルハ違法ニシテ取消ヲ免レサルモノトス　（行政三、五年三四六號、土地收用審査會裁決取消請求ノ訴、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五二六號一五頁）

第二十二條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

●起業者ト土地所有者トノ間ノ所有權取得ニ關スル契約ノ性質

土地細目ハ公告後起業者ト土地所有者トノ間ニ爲サレタル所有權取得ニ關スル契約ハ土地收用法第二十二條ニ所謂協議ニ外ナラスシテ同法ニ所謂土地收用ノ一種トシテ公法上ノ行爲ニ屬スルモノト認定スルヲ相當トスヘク舊土地收用法施行當時ニ於テモ之ト解釋ヲ異ニスヘキ理由ナシ控訴代理人ハ該契約ハ民法上ノ賣買ナル旨主張シ不動產登記法第百三條ノ規定ヲ引用シ且內務省ニ於テモ從來民法上ノ賣買契約トシテ取扱ヒ來リタル旨抗爭スレトモ不動產登記法第百三條ノ規定ハ上叙協議賣買ノ場合ニモ尙其ノ適用アリト解スヘク同規定ノ存在ニ依リ何等前段解釋ノ障トナラサルノミナラス內務省ノ取扱ニ依リ其ノ法律上ノ性質ヲ左右スヘキ筋合ノモノニアラサルヲ以テ此ノ點ニ關スル控訴代理人ノ主張ハ理由ナシ　（長崎控二民、六年(ア)二三七號、契約履行請求控訴事件、八年二月一三日判決、法律新聞三五四二號七頁）

●土地收用法上ノ協議ト民法ノ適用

控訴代理人ハ土地收用ノ一種ナル協議賣買ニ付テハ民法第五百二十八條ノ適用ナキヲ以テ本件協議ハ被控訴代理人主張ノ如ク控訴人ノ條件ヲ附シタル承諾即新ナル申込及其ノ承諾ニ依リ上叙買受ノ條件ヲ一內容トシテ成立シ得ヘキモノニアラサルノミナラス右條件ハ債務者タル被控訴縣ノ意思ノミニ係ル停止條件ナル點ヨリスルモ該協議ハ無效ナル旨主張スルヲ以テ案スルニ土地收用法上ノ協議ハ公法上ノ契約ナルモ公法上ニ於テモ契約ニ付テハ其ノ本質及同種類ノ內容ニ關スル民法ノ規定ト同樣ノ法則行ハルルモノト解スヘク從テ其ノ成立及效力ニ付テモ土地收用法ノ特別規定又ハ收用ノ性質ニ反セサル限リ民法ノ規定ヲ類推適用スルノ必要アルヲ以テ本件控訴人ノ條件ヲ附シタル承諾ニ付之ヲ民法第五百二十八條ニ依據シテ解決スルハ洵ニ相當ニシテ何等ノ違法ナシ更ニ控訴人ノ附シタル前記公用廢止ノ場合ニ於ケル賣渡ノ條件ハ講學上所謂純粹隨意停止條件即民法第百三十四條所定ノ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ル停止條件ニアラサルノミナラス民法上ノ双務契約ニ準スヘキ本件協議ニ依リテハ當事者孰レモ之ヲ債權者タルト同時ニ債務者タルノ地位ト同樣ノ關係アルモノト看做スヘキヲ以テ民法第百三十四條適用ノ餘地ナキモノトイフ可ク其ノ他控訴代理人ノ主張モ亦其ノ理由ナキコト上來判示ニ依リ自ラ明カナリト謂ハサルヘカラス　（長崎控二民、六年(ア)二三七號、契約履行請求控訴事件、八年二月一

三日判決、法律新聞三五四二號七頁）

●地上物權ノ收用請求ト都市計畫法二〇條（都市計畫法二〇條縱覽期間ノ初日ヨリ二週間內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十五條　土地所有者及關係人ハ前條縱覽期間ノ初日ヨリ二週間內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

●收用時期調書ノ收用時期ノ誤記ト收用手續ノ效力

本件土地收用ニ關シ起業者カ當初昭和六年四月二十二日附ヲ以テ差出シ公衆ノ縱覽ニ供セラレタル裁決申請書ニ添附セル收用時期調書ニ收用ノ時期ヲ昭和四年五月三十一日ト記載シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナルモ此ノ日附ノ記載カ誤記ナルコトハ極メテ明瞭ニシテ其ノ「昭和四年」トアルハ「昭和六年」ノ書損ナルコト容易ニ看取シ得ヘキ所ナルカ故ニ後ニ起業者カ之ヲ改書シテ提出シタル訂正調書ハ公衆ノ縱覽ニ供セラレサリシモ原告ハ起業者ノ申請ニ對シ正當ナル意見ヲ申立ツルノ機會ヲ與ヘラレサリシモノト謂フコトヲ得ス又被告ニ於テ收用時期ノ明ナラサル申請ニ基キ若クハ公衆ノ縱覽ニ供セサル申請ニ基キ裁決ヲ爲シタルモノト謂フヘキニ非ス　（行政一、六年二一九號、收用審査會裁決不服ノ訴、七年一二月二七日判決、法律新聞三五六三號一一頁）

第三十五條　收用審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ揭ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一　收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二　損失ノ補償

三　收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

●都市計畫ニ於ケル地上物件收用請求ト收用審査會ノ裁決

土地收用法第五十一條ノ收用地上物件ノ移轉料又ハ該物件ノ收用ニ關スル規定ハ損失補償ニ關スルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ地上物件ノ所有者カ同條第二項ニ基キ地上物件ノ移轉ニ代ヘ之カ收用ヲ請求シタル場合ニ於テハ右計畫法第二十條第三項ニ依リ同條第一項及第二項ノ適用ナク同法第十八條第一項及土地收用法第三十五條ニ依リ收用審査會ニ於テ裁決スヘキモノト云ハサル可ラス　（行政三、六年八五號、收用審査會裁決ニ對スル不服ノ訴、七年一月六日判決、法律新聞三五二三號一七頁）

第四十一條　收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

●收用土地ノ區域ト收用審査會ノ裁決

參加人ハ原告ハ土地收用法第二十五條ニ依ル意見書ヲ提出セサリシヲ以テ被告カ參加人ノ申請ノ通リ爲シタル本件裁決ハ違法ニ非サル旨主張スルモ起業者カ收用ヲ申請シタル土地ノ區域カ內務大臣ノ認定シタル事業ニ必要ナルモノナリヤ否ハ同條ニ依ル土地所有者又ハ關係人ノ意見書ノ有無ニ係ラス被告ニ於テ當然審査シテ之カ裁決ヲ爲スヘキモノト解スルヲ相當トス（行政三、五年三四六號、土地收用審査會裁決取消請求ノ訴、七年一二月二〇日判決、法律新聞三五二六號一五頁）

第四十八條　收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

●土地收用ニ依ル損失補償額決定ノ標準

土地收用ニ因ツテ生スル損失補償額ハ收用物ノ價格ノ騰落カ收用ノ目的タル事業ノ爲メニ生シタルト否トヲ問ハス收用時ニ於ケル土地ノ客觀的價額ニヨリテ定ムルヲ相當トスルモ專ラ射倖心ニ驅ラレテ賣買セラレタル事例ノ如キハ必スシモ之ヲ參酌スルコトヲ要スルモノニ非ラス（大審院三民、八年（オ）二七八號、土地收用損失補償請求事件、八年七月二二日判決、法律新聞三五九一號一二頁）

●土地收用ト地番ヲ異ニシテ一團ヲ爲ス土地ノ評價

同一人ノ所有スル地番ヲ異ニスル數個ノ土地カ相集マリテ一區劃ノ土地ヲ形成セル場合ニ其各地番ノ土地ノ價額ヲ合算シタルモノト一區劃全體トシテノ土地ノ價額ト相異ルトキ其ノ人ノ財産ヲ評價スルニ當リテハ其ノ多額ナル方ノ價額ニ依リテ之ヲ算定スヘキヤ論ヲ俟タサル所ナルカ故ニ斯ル土地カ土地收用法ニ依リテ收用セラレタルカ爲ニ被ル土地所有者ノ損失モ亦其多額ナル方ノ價額ニ依リテ之ヲ評定スヘキモノト謂ハサルヘカラス而シテ土地收用法ハ被收用者カ收用ニ因リ被リタル實際ノ損失ヲ補償スルコトヲ期スルモノニシテ必スシモ地番ヲ異ニスル個々ノ土地ニ付各別ニ補償ヲ爲スヘキコトヲ命スルモノニ非サレハ叙上ノ如キ土地カ收用セラルル場合ニハ其補償額ハ右多額ナル方ノ價額ヲ標準トシテ定ムルヲ正當トス（大審院三民、六年（オ）一三六三號、土地收用補償金請求事件、七年三月七日判決、大審院裁判例六卷民事六〇頁）

第四十九條　土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十一條　收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條　土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

●地上物件移轉料ノ補償額ノ算定

收用地內ニ存スル地上物件ニ對シテハ移轉料ヲ補償シテ之ヲ移轉セシムヘキモノナルコト土地收用法第五十一條ノ規定スルトコロナリト雖モ此ノ場合ノ移轉料ハ地上物件ヲ撤去シ之ヲ他ノ場所ニ移シ從來使用ノ目的ニ供スルコトヲ得ルニ至ル迄ノ費用ナリト解スヘク而シテ其ノ移轉先ハ收用殘地ノ存スル場合ト雖モ必スシモ其ノ殘地ニ限ラサルヲ以テ之ヲ殘地ニ移轉スルトセハ其ノ殘地內ニ於ケル工作物ヲ移動シ殘地ノ地上ケヲ爲シ殘地ニ存スル池ノ埋立ヲ爲ス等殘地ニ於テ工作ヲ施スヘキ必要アリトスルモ斯ル必要ハ收用地上物件ノ移轉ニ通常隨伴スルモノト認メ難キカ故ニ之等費用ハ之ヲ收用地上物件ノ移轉ニ因リ通常生スヘキ損害ナリト謂フヘカラス又賃借權ノ一部收用ノ爲賃借人カ當然殘地ニ對シ地上ケ池ノ埋立工作物ノ移動新設等ヲ爲スヘキ必要ヲ生シタリトセハ賃借人ハ土地收用法第四十九條第五十三條等ノ規定ニ依リ之カ費用ノ補償ヲ請求シ得ヘシト雖モ本件ニ於テハ賃借地ノ一部收用ノ爲原告カ當然殘地ニ於テ地上ケ池ノ埋立工作物ノ移動ヲ爲シ排水路ヲ新設スヘキ必要アルニ至リタルコトヲ認ムヘキ證據ナシ

從テ原告主張ノ前掲（一）池ノ埋立費用（二）地上ケ料（六）乾燥室及便所ノ移轉料（七）鷄舍ノ移轉料（八）干場ノ移轉料（九）排水路ノ新設費（十二）表門ノ移轉料ニ付テハ其ノ補償原因存セサルモノトシテ之ヲ排斥スヘキモノトス（東京地二三民、二年（ワ）八一〇號、收用補償金額增額請求事件、八年九月三〇日判決、一法律新聞三六四〇號一三頁）

第六十六條　收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ內務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

●土地收用ニ於ケル買戻契約ノ性質

控訴代理人主張ノ本件土地ニ付被控訴縣ニ於テ縣立農事試驗場用地トシテノ必要上明治三十一年三月三十一日土地收用法ニ基キ內閣ノ事業認定ノ公告ヲ受ケ同年四月四日長崎縣知事ノ收用土地細目公告後同月中所有者タル控訴人トノ間ニ土地收用審査會ノ裁決ニ依ラスシテ一坪ニ付金一圓五十錢宛合計金六千七百五十圓ニテ買收ノ契約成立シタル事實ハ當事者間ニ爭無シ控訴人ハ協議買收成立ノ日ヲ同年四月十九日被控訴縣ハ同月二十三日ト主張ス仍テ右契約ノ性質ニ付案スルニ如上土地細目ノ公告後起業者ト土地所有者トノ間ニ爲サレタル所有權取得ニ關スル契約ハ土地收用法第二十二條ニ所謂協議ニ外ナラスシテ同法ニ所謂土地收用ノ一種トシテ公法上ノ行爲ニ屬スルモノト認定スルヲ相當トスヘク舊土地收用法施行當時ニ於テモ之ト解釋ヲ異ニスヘキ理由ナシ控訴代理人ハ該契約ハ民法上ノ賣買ナル旨主張シ不動產登記法第百三條ノ規定ヲ引用シ且內務省ニ於テモ從來民法上ノ賣買契約トシテ取扱ヒ來リタル旨主張抗爭スレトモ不動產登記法第百三條ノ規定ハ上叙協議賣買ノ場合ニモ尙其ノ適用アリト解スヘク同規定ノ存在ニ依リ何等前段解釋ノ障トナラサルノミナラス內務省ノ取扱ニ依リ其ノ法律上ノ性質ヲ左右スヘキ筋合ノモノニアラサルヲ以テ此ノ點ニ關スル控訴代理人ノ主張ハ理由ナシ而シテ右買收土地ニ付同年四月二十三日本件當事者間ニ於テ前示目的ノ爲ノ使用ヲ廢止シタル場合控訴人ハ原價ヲ以テ之ヲ買受ケ得ヘキ旨ノ契約成立シタルコトハ當事者間ニ爭無キトコロ控訴代理人ハ右契約ハ前記協議買收ノ成立シタル四月十九日又ハ二十日後被控訴縣ニ於テ控訴人ノ希望ヲ斟酌シ別途ニ縣參事會ノ決議ヲ經タル上同月二十三日新タニ締結セラレタル右協議買收トハ全ク別個獨立ノ民法上ノ契約ニシテ固ヨリ其ノ內容又ハ條件ヲ爲スモノニアラサル旨主張スルニ對シ被控訴代理人ハ協議ノ內容タル一條件トシテ同時ニ成立シタルモノナル旨抗爭スルヲ以テ案スルニ被控訴縣ハ前示明治三十一年四月四日長崎縣知事ノ收用土地細目公告後本件土地ノ所有權取得ノ爲土地所有者タル控訴人ニ對シ協議ヲ爲シタルトコロ控訴人ハ同月十九日附書面ニ依リ他日使用廢止ノ場合ニ於テ買上代價ヲ以テ賣下ケラルルトキハ指定價格一坪ニ付金一圓五十錢ニテ買上ケノ儀ヲ承諾スヘキ旨條件附ノ承諾（新ナル申込）ヲ爲シタルヨリ被控訴縣ハ同月二十三日縣參事會ノ決議ヲ經タル上該條件ヲ容レテ之ヲ承諾シ同日茲ニ右控訴人申出ノ條件ヲ一內容トスル協議成立シタルコト即チ如上土地使用廢止ノ場合ニ於ケル控訴人ノ土地買受ケニ關スル特約ハ前段認定ノ本件土地所有權取得ニ關スル當事者間ノ協議ノ內容タル一條件トシテ

該協議ト同時ニ成立シタルモノナルコトヲ認定スルニ十分ナリトス尤モ成立ニ爭ナキ甲第二號證ニ依レハ同號證中被控訴縣ハ本件土地カ自今買收ニ依リ縣有財産トナリタルコトヲ明治三十一年四月二十日附知事ノ名ヲ以テ訓令シ更ニ其ノ旨同日附ヲ以テ長崎稅務署宛通知ヲ爲シ且西彼杵郡宛土地分裂ノ履行方示達ノ申進ヲ爲シタル旨及控訴人カ豫定價格ヲ以テ買收ヲ承諾シ公用廢止ノ場合買戻ノ企望ヲ申出テタルニ依リ此ノ點ニ付更ニ相伺申スヘキ旨ノ各記載アリテ右二十日當時本件土地ハ已ニ買收ニ依リ縣有財産トシテ取扱ハレ居リタル事實ヲ推知シ得ヘシト雖之ヲ前示乙第三乃至第五號各證並ニ證人島津良知ノ證言ト彼是照合考覈スルトキハ依然前段認定ノ如ク本件土地ニ對スル買收協議ハ公用廢止ノ場合ニ於ケル控訴人ノ買受條件ヲ一內容トシテ同月二十三日成立シタルモノニシテ如上訓令、通知、申進等ハ孰レモ該協議ノ確定的ニ成立スヘキコトヲ豫想シ豫メ其ノ手續ヲナシタルモノ（其ノ手續ノ正常ナリヤ否ハ之ヲ問ハス）ト認ムルヲ相當トスヘキヲ以テ右甲第二號證ニ依リテハ未タ前段認定ヲ覆シテ以テ控訴代理人主張ノ如ク上叙特約カ買收協議ト獨立シテ別個ニ成立シタル事實ヲ證明スルニ足ラス尚成立ニ爭無キ甲第三號證ノ一、二ニ依レハ內務省ハ從來協議買收ヲ民法上ノ賣買契約ト看做シ此ノ場合土地賣渡人及其ノ相續人ニ法定買戻權ナキモノトシテ取扱ヒ來リ明治四十五年大阪府知事ノ伺ニ對シテモ同樣ノ回答ヲ答ヘタル事實ヲ認メ得ヘク更ニ明治四十五年四月三十日附內務省土第一、二八七號ヲ以テ協議ニ依ル土地收用ニ付テハ法定買戻權ナシト解釋スヘキモノナル旨ヲ全國各府縣知事ニ通牒アリタルコトハ當事者間ニ爭ナキトコロナリト雖右內務省ノ解釋、取扱ハ何等協議賣買ノ法律上ノ性質及其ノ場合ニ於ケル法定買戻權ノ有無ニ消長ヲ來スヘキ筋合ノモノニアラサルノミナラス本件協議買收當時被控訴縣カ如上見解ヲ把持シ居リタル事實ニ付テハ其ノ證據ノ認ムヘキモノナク假ニ其ノ見解ナリシトセハ却テ其ノ爲ニコソ協議ノ一內容トシテ買戻ニ關スル特約ヲ締結スルニ至リタル事情ヲ推斷シ得ラレサルニアラサルヲ以テ此ノ點ニ關スル控訴代理人ノ主張モ亦其ノ理由ナシ（長崎控二民、六年(ア)二三七號、契約履行請求控訴事件、八年二月一三日判決、法律新聞三五四二號七頁）

●買戻權ノ消滅

本契約ハ舊土地收用法施行當時同法ニ規定セル買戻權ニ關スル事項ヲ以テ公法上ノ契約タル協議ノ一內容ト爲シタルモノト認ムヘク從テ其ノ效力ニ付テハ同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ該特約中其ノ買受ケ期間ニ付特別ノ定メアリタルコトノ認ムヘキモノナキ本件ニアリテハ右特約ニ基ク控訴人ノ本件土地ニ對スル買受ノ權利ハ現行土地收用法第八十五條第一、二項第六十六條ニ從ヒ同法施行ノ日タル明治三十三年四月一日以降二十箇年內即大正九年三月三十一日迄ニ該土地ノ不用ニ歸セサル限リ消滅ニ歸スヘキモノト謂フヘクシカモ本件土地使用廢止ノ時期カ同法施行後二十年以上ヲ經過シタル昭和四年度ナルコトハ當事者間ニ爭無キトコロナルヲ以テ上叙控訴人ノ本件土地ニ對スル買受ケノ權利ハ已ニ前記大正九年三月三十一日ノ經過ト共ニ消滅ニ歸シタルモノト謂ハサルヘカラス（長崎控二民、六年(ア)二三七號、契約履行請求控訴事件、八年二月一三日判決、法律新聞三五四二號七頁）

第八十二條　收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

●縣道收用土地ノ補償金額ニ對スル不服ノ訴ト相手方

縣道ニ關スル事業ノ爲ニ收用セラレタル土地ノ補償金額ニ對スル不服ノ訴ハ國ノ行政機關タル縣知事又ハ公共團體タル當該縣ノ執レヲモ相手方ト爲スコトヲ得ルモノナリ（大審院四民、七年(オ)二五九〇號、補償金額決定ニ對スル不服ノ訴、八年四月一九日判決、法律新聞三五五三號一一頁）

道路法

第十七條　國道ハ府縣知事、其他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

●舊郡道ノ管理者

郡制廢止後ニ於ケル舊郡道ハ管理者ハ當然郡村長ナリト解スヘキニ非ス後日村道トシテ認定アル迄ハ管理者未定ノ狀態ニ在ルモノト解スルヲ相當トスヘク從テ此ノ點ニ關スル原審ノ判斷ハ當ヲ得サルノ憾ナキニ非ルモ郡制廢止後管理者未定ノ間ト雖モ其ノ道路タルノ公用ヲ廢止セサル限リ仍道路トシテ其ノ敷地ニ付私權行使ノ制限ヲ受クヘキモノナルコト原審ノ判定セルトコロニシテ該判斷ハ假令前示ノ如ク管理者未定ノ解釋ヲ採ルモ爲メニ影響ヲ受クヘキモノニ非ルカ故ニ管理者カ何人ナリヤノ判斷ニ關スル前示瑕瑾ハ結局原判決破毀ノ理由ト爲スヲ由ナシ（大審院三民、八年一〇月七日判決、法律新聞三六二二號一一頁）

第二十八條　管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得

國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占有ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スル旨ヲ定ムルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル處分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

●道路占用許可ト占用料徵收ノ時期

原告ハ道路管理者カ道路占用料徵收規程ノ制定又ハ其ノ改正ノ日前ノ道路占用ニ對シ占用料ヲ徵收シ又ハ增徵スル旨ノ規定ヲ設クルハ占用者ノ既得權ヲ侵害スルモノニシテ違法ナル旨主張スルモ道路法第二十八條第一項ノ許可ハ單ニ占用權ヲ附與スルニ止マリ同條第四項ノ占用料ヲ徵收セラレス又ハ一定限度以上ニ占用料ヲ增徵セラレサル地位ヲ占用者ニ附與スルモノニ非スシテ同項本文ハ「單ニ管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得」ト規定スルニ止マリ占用料徵收ノ時期ヲ制限セサルカ故ニ同法第五十二條ノ手續ヲ履踐スルニ於テハ占用開始ト同時ニ之ヲ徵收スルモ開始後ニ於テ開始當時ヨリノ分ヲ徵收スルモ將タ又將來ノ占用ニ付增額追徵スル旨ノ規定ヲ設クルモ凡テ道路管理者ノ任意ナリト解スヘキカ故ニ本件占用料徵收ノ處分及之ヲ是認シタル被告ノ裁決ハ違法ニ非ス（行政二、七年五號、道路占用料增額追徵全部取消ノ訴、七年七月一三日判決、法律新聞三五二三號一五頁）

道路工事執行令

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス（抄）

道路工事施行令　（六條）

六　入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

●贈賄ト請負ニ關スル不正行爲

原告ハ道路工事執行令第六條第一項第六號ニ規定スル入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル者トハ入札人又ハ請負人カ同令所定ノ義務ニ違反シテ入札ヲ爲シ又ハ工事ヲ不正ニ執行シタル者等ヲ指稱セルモノニシテ本件ノ場合ニ於ケルカ如ク單ニ請負契約ヲ得ンカ爲又ハ請負工事ノ現場監督上ノ便宜ヲ得ンカ爲ニ當該吏員ニ贈賄セル行爲ハ右規定ニ所謂入札又ハ請負ニ關スル不正ノ行爲ニ該當スルモノニ非スト主張スルモ右規定ハ公正ニ入札又ハ請負ヲ爲サシメ且其ノ工事ヲ執行セシムルコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ同規定ニ所謂不正ノ行爲ニハ苟モ入札若ハ請負又ハ其ノ工事ノ執行ニ關スル不正ノ行爲ヲ總テ包含スルモノト解スルヲ相當トス

（行政三、七年二五四乃至二五九號、入札及請負資格停止處分取消請求ノ訴、八年三月九日判決、法律新聞三五九五號一五頁）

●事實上ノ請負人ノ不正ト名義人ノ責任

原告ノ長男タル訴外山下昇ハ福井縣ノ道路工事ニ關スル入札人又ハ請負人トシテノ資格ナク從來原告名義ニテ道路工事ノ入札又ハ請負ヲ爲シ來リタルモノナルコトハ當事者間爭ナキ所ナリ而シテ右山下昇ハ福井縣ノ道路工事請負ニ關シ贈賄ヲ爲シタル爲「周助事山下昇」トシテ罰金刑ニ處セラレタル者ナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ道路工事執行令第六條第一項第六號ノ規定ノ適用ニ付テハ右山下昇ノ爲シタル入札又ハ請負ニ關スル不正ノ行爲ハ之ヲ名義人タル原告ノ行爲ト看做スヘキモノト解スルヲ相當トス而シテ右山下昇ノ福井道路工事請負ニ關スル贈賄行爲ハ當裁判所昭和七年第二五四號乃至第二五九號事件ニ於テ判示シタルト同一理由ニ依リ道路工事執行令第六條第一項第六號ニ規定スル請負ニ關スル不正ノ行爲ニ該當スルモノナルヲ以テ被告カ原告ニ對シテ爲シタル本件入札及請負資格ノ停止處分ハ正當ナリ　（行政三、七年二六〇號、入札及請負資格停止處分取消請求ノ訴、八年三月九日判決、法律新聞三五六三號一六頁）

東京都市計畫事業道路受益者負擔ニ關スル件

第四條　受益者ノ負擔スヘキ金額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ四分ノ一トス但シ第二條第四項ノ規定ニ依リ負擔區劃ヲ定メタル場合ニ於テ第二條第一項ノ地域內ニ在ル負擔區劃外ノ土地ニ付キ負擔金ヲ負擔セシムルモノトセハ其ノ負擔金額ハ之ヲ控除スル場合ニ於テ其ノ負擔金額ニ付亦同シ（下略）

●道路修築ニ依ル受益者負擔額ノ算定ノ基礎

公共團體カ都市計畫法第六條ニヨリ其ノ事業ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル者ヲシテ負擔セシメ得ル其ノ費用額全部ハ其ノ寄附並國庫補助金ノ限度ニ於テ減少シタルモノトナササルヘカラス然レハ昭和四年內務省令第三十四號第四條ニヨリ受益者ノ負擔スヘキ金額ヲ定ムル基本タル「其ノ事業費」ノ額モ其ノ事業ニ要シタル總額ヨリ其ノ工事費ニ對スル寄附並國庫補助金額ヲ控除シタル殘額トナスヲ相當トス（都市計畫法六條「受益者負擔額ノ算定ノ基礎」參照）　（行政一、六年一八八號、受益者負擔金賦課取消ノ訴、七年五月二一日判決、法律新聞三五〇三號一三頁）